

治四十一年一月を以て生れ大正二年祖父の後に受け家督を相続し...

君は石川縣土庄田豐哉の長男にして慶應三年五月を以て生れ...

を創立す現時前記各會社の重役たり(東京、日本橋、小田町末廣河岸三號電話番六四四〇)

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は鹿兒島縣人門田喜兵衛の長男にして明治四年十二月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

君は山口縣土庄西治の三男にして明治七年九月を以て生れ...

君は東京府人門倉倉吉の弟にして明治十年八月を以て生れ...

君は廣島縣人門田傳吉の三男にして明治九年九月を以て生れ...

學科長たり家族は尙二男(昭三、二生)あり(臺北、總督府中央研究所内)

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

工科大学土木科を卒業す現米に留學し歸朝後山陽鐵道會社に入り...

參照 森啓藏の項 門脇才藏 妻 なみ 男 章太郎

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

門野鍊八郎 妻 たま 男 英一 女 八重子

門脇繁次郎 妻 もと 男 誠二郎 女 正子

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

門野鍊八郎 妻 たま 男 英一 女 八重子

門脇繁次郎 妻 もと 男 誠二郎 女 正子

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

門野鍊八郎 妻 たま 男 英一 女 八重子

門脇繁次郎 妻 もと 男 誠二郎 女 正子

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

門野鍊八郎 妻 たま 男 英一 女 八重子

門脇繁次郎 妻 もと 男 誠二郎 女 正子

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

門野鍊八郎 妻 たま 男 英一 女 八重子

門脇繁次郎 妻 もと 男 誠二郎 女 正子

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

門野鍊八郎 妻 たま 男 英一 女 八重子

門脇繁次郎 妻 もと 男 誠二郎 女 正子

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

門野鍊八郎 妻 たま 男 英一 女 八重子

門脇繁次郎 妻 もと 男 誠二郎 女 正子

門野幾之進 妻 しゆん 男 雄吉 女 正子

門野鍊八郎 妻 たま 男 英一 女 八重子

門脇繁次郎 妻 もと 男 誠二郎 女 正子

養子 ぶさ 大ニ、七生、群馬、下城津第四女...

金井久兵衛 第四十七銀行頭取、富山合同貯蓄銀行...

金井清 正五位勳四等、鐵道書記官兼朝鮮總督府鐵道局參事...

金井清吉 兵庫縣在籍、兵庫縣在籍、長子...

金井清志 上野銀行頭取、信州銀行、長野銀行、伊那電氣鐵道各取...

金井熊吉 兵庫縣在籍、兵庫縣在籍、長子...

金井善七 魚類商、熊本縣在籍、村田源二郎...

大庄村) 參照川西川五一郎の項

金井桂治郎 靜岡縣多額納稅者、濱松商工會議所常務理事...

金井源太郎 沼津商工會議所副會頭、靜岡縣在籍...

金井重 靜岡縣多額納稅者、農業、靜岡縣在籍...

養子 ぶさ 大ニ、七生、群馬、下城津第四女...

金井久兵衛 第四十七銀行頭取、富山合同貯蓄銀行...

金井清 正五位勳四等、鐵道書記官兼朝鮮總督府鐵道局參事...

金井清吉 兵庫縣在籍、兵庫縣在籍、長子...

金井清志 上野銀行頭取、信州銀行、長野銀行、伊那電氣鐵道各取...

金井熊吉 兵庫縣在籍、兵庫縣在籍、長子...

金井善七 魚類商、熊本縣在籍、村田源二郎...

大庄村) 參照川西川五一郎の項

金井桂治郎 靜岡縣多額納稅者、濱松商工會議所常務理事...

金井源太郎 沼津商工會議所副會頭、靜岡縣在籍...

金井重 靜岡縣多額納稅者、農業、靜岡縣在籍...

志郎 明四一、二生、東京農業大學在學、東京高等商業學校...

金井仙次郎 工業藥品、金原料商、群馬縣在籍、菊地圓八郎...

金井德治 探査夜銀行常務取締役、群馬縣在籍、文久元、三生、現戶主...

養夜銀行事務取締役たり家族は向二男男(昭二、一...)

金井直次郎

群馬縣多額納税者、吳服商 群馬縣在籍

妻 文久元

八生、群馬、小林重次郎 二女

養子 敬三

明一五、一一生、長女さく夫、群 馬、加藤吉三郎弟

孫 正三

明一八、五生、養子敬三長女 明二二、一一生、養子敬三長女

君は群馬縣士族小林近義の三男にして安政二年九月...

金井

正三位勳一等、法學博士、帝國學 士院會員、東京帝國大學名譽教授

静岡縣在籍 日本勸業銀行理事

明九、二生、男爵大久保光野養姉 明二八、九生、法學士

明三二、一一生、長男經彦妻、東 京、神木大輔姉

明三七、九生、二男民彦妻、新潟 齊藤久太郎孫

明四二、五生 明四四、一一生

君は靜岡縣人金井利太郎の從弟にして同重の再從兄に 當り慶應元年二月を以て生れ先代かいての養子となり明 治二十八年家督を相続す同十八年東京帝國大學文學部

を卒業更に大學院に入り同年法律及經濟學研究の爲獨 英に留學す法學博士の學位を受け帝國大學教授東京帝 國大學法科大學教授兼大藏省參事官に歴任し専修大學 學醫院大學部に教授を執り又中央法政各大學講師を囑 託せらるる現時東京帝國大學名譽教授にして日本勸業銀 行參與理事たり家族は向五男男(昭三、一一生)あり

二女國子(明三一、三生、御茶の水高女出身)は東京府 人河合善兵衛弟次郎に三女清子(同三五、六生、東京 女子大出身)は同府人高田正に四女正子(同三九、九生 御茶の水高女出身)は愛知縣人村松敏樹に嫁せり(東京 市外戸塚町源兵衛一九一電牛込一八五)

金井芳次

神奈川縣會議員、横濱市會議員 神奈川縣在籍

妻 シズエ

明三三、五生、愛媛、井上牛三郎三女 明三九、七生、神奈川、小野昌男姉

君は愛媛縣人金井邦太郎の長男にして明治二十八年一 月を以て生れ昭和三年家督を相続す夙に新聞記者とな り現時全國大衆黨神奈川縣支部聯合會の重鎮にして推 されて神奈川縣會議員横濱市會議員たり家族は向長女 碧(大四、三生)あり妹定嘉(明三四、九生)は愛媛縣 人國光安夫に嫁せり(横濱、中、大岡町二一三三電長 崎町五五〇)

金井六郎

山口銀行神戶支店次長 兵庫縣在籍

妻 浪子

明三七、九生、大阪、中谷庄兵衛 三女

君は兵庫縣人金井四郎兵衛の庶子にして明治二十六年 七月を以て生れ先代八三郎の養子となり同三十五年家 督を相続す大正四年大阪高等商業學校を卒業し山口銀 行に入り現時同神戸支店次長たり家族は向長女治 子(昭二、一一生)二女麗子(同三、七生)ありA一六八 〇(兵庫、武庫、住吉村觀音林一八七五〇七一電御影 三五七五)

金岡又左衛門

富山商工會議所會頭、中越無盡意 取締役社長、日本海電氣取締役、 富山縣藥劑師會々長、藥種商 富山縣在籍

慶應三、一〇生、富山、金岡七右 衛門三女

明一七、七生、養父又左衛門長女 明三六、七生、長女敏子夫、富山 盛永宏成三男

明三八、四生、養子好造妻 明三九、四生、養子好造妻

君は富山縣人稻垣梅太郎の三男にして明治十七年二月 を以て生れ先代又左衛門の養子となり昭和四年家督を 相続す

相續し前名清彦を改め養名す先代又左衛門は夙に漢學 及醫學を修め衆議院議員に當選する事三回富山縣多額 納税者に列し幾多社會の重役として知らるる君は明治三 十九年金澤醫學專門學校藥學科を卒業し父業藥種商を 富山に營み傍ら前記會社の重役にして富山縣藥劑師 會々長たり又推されて富山商工會議所議員に選ばるこ と十二年其間常議員副會頭に擧げられ昭和四年推され て會頭となり今日に至り家族は向孫千鶴子(大一一、 四生、養子好造長女)同祐一(昭三、二生、同長男)同 美惠子(同五、三生、同二女)あり養妹キヨ(明二〇、一 生)同夫孫三(同二八、五生、富山、澤木又八二男)は其 三子と共に分家せり(富山市袋町五)

金川廣吉

從五位勳五等、朝鮮總督府判事、 京城地方法院部長、長野縣在籍

妻 恒子

明三四、六生、東京、伊藤行也三 女

君は長野縣人金川彦太郎の三男にして明治二十一年九 月を以て生れ大正二年兄房吉方より分れて一家を創立 す同年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し朝鮮總督 府司法官試補となり後同總督府判事に任ぜられ九州京 城釜山平壤各地方法院部長に補せられ今日に至る家族は 向二男(大一一、一〇生)三男(同二五、二生)は長野縣人 小根山龜吉の養子となり(京城、地方法院官舎内)

金久保萬吉

從三位勳二等功三級、陸軍中將 埼玉縣在籍

妻 たけ

明二、五生、埼玉、士、平野政映 妹

明八、二生、埼玉、長島英次郎弟 明二一、三生、養子寬助妻、埼玉 明三三、五生、長男小一郎妻、神 奈川、近藤嘉太郎三女

明三〇、五生 明四〇、六生 明四二、八生

君は埼玉縣人金久保彦右衛門の二男にして慶應元年九 月を以て生れ明治三十一年家督を相続す同二十一年步 兵少尉に任じ大正七年陸軍中將に累進す其間陸軍大學 を卒業し爾來第八師團參謀歩兵第二聯隊附第十師團參 謀

金子有造

正四位、男爵、貴族院議員、御歌 所參修、舊社家

妻 瀧子 嘉永四、二生、子爵綾小路護大尉母 明一〇、八生、大分、阿南尚四女

養子 吉三郎 弟、從五位、海軍造兵少佐 明三四、一一生、養子吉三郎妻、 子爵高辻宜齋長女

君は徳連日命の後裔尾琴連の從なり本姓物部後代に 至り金子氏を稱し四十五代を經て先代有卿に至る世々 物部神社の神職たり有卿物部神社宮司となり明治四年 華族に列し同十七年男爵を授けらるる貴族院議員に當選 する事三回に及ぶ君は其長男にして明治二年八月を以 て生れ大正九年男爵す夙に皇典講究所に學び義に久通 官家御用掛たりし事あり現時御歌所參修たり同十四年 貴族院議員に擧げられ公正會に屬し和歌音楽を能くす

金子梅吉

金子電氣商會、乾電池中電燈製 造業、東京府在籍

妻 武 明四一、七生 明三九、三生 明四三、六生 大元、八生

君は東京府士族金子貴林の二男にして明治六年六月を 以て生れ同十一年分れて一家を創立す金子電氣商會と 稱し乾電池中電燈製造業を營む家族は向七女春江 (大六、五生)あり長女ふみ(明三三、一一生)は群馬縣人 新井梅太郎二男幸太郎に二女喜美(同三六、一〇生)は 山梨縣人小野八郎四男四郎に嫁し長男健吉(同三四、 一一生)は東京府士族金子秀吉の養子となり(東京市 外品川町二日市二二五電高橋五八五)

金子馬次

文學博士、早稻田大學教授、早稲 田大學理事、早稻田博士記念演劇博 物館長、東京府在籍

妻 芳尾 明三三、四生、長野、清水三左衛 門三女

君は信州上田の人金子嘉伊作の長男にして明治三年一 月を以て生れ同二十一年家督を相続す同二十六年東京 專門學校文學部を卒業し坪内雄藏博士の信賴を受け母 校に留まり文學部講師となる後同校の早稻田大學と 改稱せらるるや選ばれて獨逸に留學しドクトル、デル、 フイロソフイの學位を受け歸朝す爾來同大學教授と して我邦學界に盡す所甚だ大なり大正九年博士會の推 薦により文學博士の學位を授けらるる美學文學哲學に關 する著書頗る多く斯界の一權威にして又早稻田大學理 事に擧げらる(東京市外池袋町松濤五電青山三三〇八)

金子克巳

勳六等、東洋日の出新聞社長兼主 幹、長野縣在籍

妻 周太郎 文久二、七生、現戶主 明四、九生、長崎、村田ミセ二女 明二二、六生、愛知、山本喜三郎 姪

君は長野縣士族瀧住平九郎の二男にして明治十五年九 月を以て生れ同十四年現戶主周太郎の養子となり夙 に東京專門學校に學び日露戰爭に従軍し特別任務に服 し功に依り勳六等に敘せらるる後支那に渡り第一次革命 以來支那革命黨を後援し故孫文黃興等の同志たり支 那の實狀を詳しし對支事業を日本に紹介す大正十三年 長崎東洋日の出新聞社に入り同十五年社長となり同社 主幹を兼ね今日に至る家族は向養弟文齋(明四五、一 生)あり(長崎市千馬町電五〇五)

金子要人

從五位勳六等、司法書記官、刑務 局勤務、埼玉縣在籍

妻 サキ 明三一、三生、宮城控訴院檢事長 古賀行倫長女

君は長野縣人金井利太郎の從弟にして同重の再從兄に 當り慶應元年二月を以て生れ先代かいての養子となり明 治二十八年家督を相続す同十八年東京帝國大學文學部 を卒業更に大學院に入り同年法律及經濟學研究の爲獨 英に留學す法學博士の學位を受け帝國大學教授東京帝 國大學法科大學教授兼大藏省參事官に歴任し専修大學 學醫院大學部に教授を執り又中央法政各大學講師を囑 託せらるる現時東京帝國大學名譽教授にして日本勸業銀 行參與理事たり家族は向五男男(昭三、一一生)あり

金子角之助

各縣取締役、神奈川縣在籍 弘化四、五生、神奈川、角田重兵 衛長女

明七、一一生、養父小左衛門姪 明二八、二生、 明三三、五生、長男小一郎妻、神 奈川、近藤嘉太郎三女

明三〇、五生 明四〇、六生 明四二、八生

君は神奈川縣人武藤卯左衛門の三男にして慶應二年十 二月を以て生れ先代小左衛門の養子となり明治四十一年 家督を相続す現時前記各銀行の重役にして義に藤澤 町長今岡町村長會長中央報德會幹事に擧げらるる家族は 向七男弘(大四、七生、孫豐)同二〇、一一生、長男小 一郎(長男)同陸(同二二、七生、同二男)同卓子(同四 三生、同長女)あり二男成信(明二八、二生)は東京府 人萩原繁太郎の養子となり四男四郎(同三二、一一生) は分家し二女伊代子(同三七、一一生)は神奈川縣人遠 藤留治に嫁せり(神奈川、高座、藤澤町)

金子竹一郎 大日本電化製糖取締役、常盤商會監査役、新潟縣在籍

金子竹太郎 兩毛製糖社長、群馬縣在籍

金子 徳 明二、五生、高知、傍士龜壽妹

金子 爲吉 秋田縣議員、秋田縣多額納稅者

金子常太郎 横濱信成信託銀行各務取締役

金子 徹 安田銀行本所支店長

金子 晴三郎 勸八等、加藤村長、鹿沼興業銀行

金子 俊郎 從五位、鐵道醫、名古屋鐵道病院

金子 直 正四位勳二等、陸軍中將

金子 直吉 正六位、神戶商業銀行、日本樟腦

金子 増燿 兩宮商店取締役、鐵工業

金子 登 從三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽教授

金子 秀顯 從五位勳六等、朝鮮總督府判事

金子 壽雄 日本銀行新潟支店支店長

金子 秀顯 從五位勳六等、朝鮮總督府判事

金子 壽雄 日本銀行新潟支店支店長

金子 増燿 兩宮商店取締役、鐵工業

金子 直吉 正六位、神戶商業銀行、日本樟腦

金子 登 從三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽教授

金子 秀顯 從五位勳六等、朝鮮總督府判事

金子 壽雄 日本銀行新潟支店支店長

金子 秀顯 從五位勳六等、朝鮮總督府判事

金子 壽雄 日本銀行新潟支店支店長

金子 増燿 兩宮商店取締役、鐵工業

金子 直吉 正六位、神戶商業銀行、日本樟腦

金子 増燿 兩宮商店取締役、鐵工業

金子 直吉 正六位、神戶商業銀行、日本樟腦

金子 登 從三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽教授

金子 秀顯 從五位勳六等、朝鮮總督府判事

金子 壽雄 日本銀行新潟支店支店長

金子 秀顯 從五位勳六等、朝鮮總督府判事

金子 直吉 正六位、神戶商業銀行、日本樟腦

金子 増燿 兩宮商店取締役、鐵工業

金子 登 從三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽教授

金子 秀顯 從五位勳六等、朝鮮總督府判事

金子 増燿 兩宮商店取締役、鐵工業

君は新瀉縣人金子元三郎の嫡男にして明治二年四月を以て生れ同二十二年祖先の遺業水産海陸物産商を繼ぎ...

金子 幹太 正五位勳四等、松山高等學校校長、山口縣士族、安政四、五、山口、廣瀨次郎吉...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 元三郎 勳三等、貴族院議員、北海道多額納税者、定山溪鐵道社社長、北海道物産商、北海道在籍...

金子 元臣 正六位、御歌所寄人、國學院大學教授、著述家、東京府士族、東京、東大在學...

金子 元三郎 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

君は新潟縣人金子元三郎の嫡男にして明治二年四月を以て生れ同二十二年祖先の遺業水産海陸物産商を繼ぎ...

金子 保次郎 從四位勳三等、臺灣總督府法院判官、臺北地方法院長、東京府在籍...

金子 雄之進 東叡工業所、建築修繕工請負業、長野縣在籍、東京、赤坂、福吉町一丙一...

金子 久次 從四位勳四等、内務技師、下關土木出張所長、福島縣士族、東京、赤坂、福吉町一丙一...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

大郎(同三、九生)同妻やえ(同一九四生、長野、藤森作四郎)は共に分家し二男三吉(同四〇、二生)は長野縣人金子政太郎の養子となり...

金子 行徳 從四位勳四等、長野縣在籍、東京、石川甚之助...

金子 與左 共和土地、福島電氣鐵道各務取締役、福島縣在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 良吉 杉村商店事務取締役、東京モスリン紡績監査役、東京府在籍、東京、東大在學...

金子 和助 日興商會、事業資金調達業、神奈川縣在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金子 隆三 正五位勳五等、大藏書記官、預金部運用課長、北海道在籍、東京、石川甚之助...

金田 鬼一 從四位勳四等、學習院教授
 東京府土族
 妻 元治元、一、二生、東京、士、福田
 長女、現戸主
 二女、三輪田高女出身
 君は東京府土族山本晴徳の六男にして明治十九年十二月を以て生れ大正三年金田ふさの養子となる明治四十二年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し現に學習院教授たり(全譯「童話集」他譯著數種あり(東京市外中野町打越一))

金田 才平 正五位勳四等、帝室林野局事務官
 兼宮内省事務官、宮内省事務官、帝室林野局整理課長、靜岡縣在籍
 妻 萬延元、八生、靜岡、神村金次郎
 長女
 明三、四、七生、愛知、彦坂清助長女
 男 夏彦 大一一、八生

金田 辰藏 大阪株式取引所一般取引員
 大阪府土族
 妻 明三、四、一、二生、滋賀、西村和平
 君は舊備中高梁藩士金田辰藏の二男にして明治三十年五月を以て生れ大正十三年前名經二郎を改む氏に株式界に入り現時大阪株式取引所一般取引員たり家族は尙兄萬一(明二、四、三、生、現戸主)同妻睦子(同三、八、九、生、大阪、恒田康吉三女)との間に一男一女及妹衣子(同四、〇、一、二生)あり(大阪、東、北濱二丁目電本局五四)

金田 傳次郎 資産家
 東京府在籍
 參照 西村和平の項

母 嘉永六、六生、東京、松崎正兵衛
 長女
 妻 明三五、一、一、生、東京、廣瀬清兵衛
 男 健 昭二、九生
 當家は曾祖父傳兵衛常陸國より出て一家を創立したるに初まる其の子傳兵衛白米商を營み傍ら取引所に入出入して當家の基を成し先代傳兵衛其の後を承けて益々家産を増殖し次で萬世銀行其他諸會社の重役となり多年區會議長市會議員等の名譽職に就き公共事業に盡すところから其の二男にして明治三十五年一月を以て生れ大正九年家督を相續す現時家産を擁する教育の爲に盡瘁す家族は尙長女佳珠子(六一、一、一、生)あり(東京市外濠谷町青葉二〇電青山四五七四)

金田 眉丈 富山縣多額納稅者、神澤銀行頭取
 富山縣在籍
 妻 慶應三、七生、富山、神澤長右衛門
 男 豐 吉 明一八、九生
 明二、四、三、生、長男豐吉妻、富山
 明二、三、三、生、長男豐吉妻、富山
 孫 俊子 大三、一、生、長男豐吉妻、富山
 老田伊三郎二女
 孫 俊子 大四、三、生、長男豐吉妻、富山
 金田文吉長女

金田 彦三郎 辯護士
 大阪府在籍
 妻 明三八、一〇生、大阪、牛田香太
 長女
 妻 正 友 大、三、二、生、大阪、金田友五郎庶
 君は富山縣人先代眉丈の長男にして萬延元年二月を以て生れ明治三十三年家督を相續し前名芳吉を改め豊名才神澤銀行頭取にして富山縣多額納稅者たり長女(明二、三、九、生)は富山縣人老田伊三郎に三女和子(同三五、一〇生)は石川縣人神澤平に嫁し弟善三郎(元治元、八生)は分家し同文吉(明二、六、一、生)は其養子となれり(一五七六(高岡、木舟町一電五五三))
 參照 老田伊三郎、堀二作、大場彦三郎、松長繁次の項

金成 通 植田水力電氣社長、福島縣農工銀行、警東銀行、平製水、警東水産局在籍
 妻 安政五、九生、現戸主
 男 增 彦 明一七、六生、養父竹太郎長女
 明三、七、五、生、經濟學士、富士電機會社社員

金原 信二 正五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局芝工場長、東京府在籍
 妻 明二八、一、生、東京、倉辻明俊長
 男 禮 一 大五、一、生
 君は東京府人金原信二の二男にして同信泰の弟なり明治八年六月を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す同

金藤 英夫 米子銀行取締役
 鳥根縣在籍
 妻 明三三、一、生、鳥根、金藤米太郎
 長女
 妻 洋一郎 大六、一、二、生
 女 アイ 大五、二、生
 君は鳥根縣人石橋正彦の弟にして明治十九年二月を以て生れ大正四年先代シミの入となり家督を相續す大正二年東京帝國大學法科大學獨文科を卒業し現時米子銀行取締役にして地方産業團體等に役員たり家族は尙二女(明一、一、一、生、一、生、二、生)あり(鳥根、能義、赤江村)
 參照 石橋正彦の項

金卷 長次郎 新潟商工會議所議員、土木建築請負業、新潟縣在籍
 妻 長 英 大一一、八生
 女 文久元、一、一、生、新潟、行形松次長姪
 君は新潟縣人金卷長藏の五男にして明治三十一年二月を以て生れ先代長作の養子となり昭和三年家督を相續す土木建築請負業を營み推されて新潟商工會議所議員たり家族は尙二男長司(六一、三、二、生)二女幸子(昭二、一、二、生)三女チカ子(同四、六、生)あり(一三一、一、一、B四七六(新潟市西堀通五、七五六電八八五))
 參照 行形松次郎の項

金丸 勢吉 宮崎縣多額納稅者、宮崎銀行頭取
 宮崎縣在籍
 妻 安政二、六生、宮崎、後藤藤石衛
 門三男、現戸主
 安政四、九生、祖父安五郎長女

辯護士たり(一〇一七(大阪、港、五條通二ノ二九電西一八二))

金田 平兵衛 廣島縣多額納稅者、尾道銀行、尾道郵便鐵道各取給役、農業
 廣島縣在籍
 妻 文久二、五、生、廣島、栗原新平二
 女 久二、五、生、廣島、黒木太郎妹
 繼母 ヨシ
 妻 サカエ 明七、四、生、廣島、黒木太郎妹
 明二八、一、生、長女八千代夫、廣島、世良靜一弟
 養子 詮 造 明二九、四、生、養子詮造妻
 八千代 明二九、四、生、養子詮造妻
 君は廣島縣人先代平兵衛の長男にして明治三年九月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名實を改め襲名す同二十六年東京法學院を卒業し祖業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千六百五十一圓を納む曾て衆議院議員に當選する事二回又廣島縣會議員同參事會員に擧げられ支那朝鮮を視察す二女地久子(明三、三、三、生)は廣島縣人金田節の養子となれり(廣島、御調、宇津戸村)
 參照 世良靜一、米津孝齊の項

金丸 勘吉 海老津炭礦代表取締役
 福岡縣在籍
 妻 明一三、一、生、福岡、米吉佐七郎
 長女
 妻 熊太郎 明三三、三、生、長女ニッコ夫、福岡、光安貞次郎二男
 女 ニッコ 明三八、六、生、養子熊太郎妻
 養子 貞 明三三、一、一、生、二女トシコ夫、福岡、梶原徳太郎二男
 女 トシコ 明四〇、一、一、生、養子貞妻
 女 フアコ 大四、一、一、生

金丸 宗之助 山梨縣多額納稅者、山梨電氣鐵道社長、山梨銀行、山梨電力、山梨製糖各取給役、酒造業
 山梨縣在籍
 妻 明一二、一、二、生、山梨、竹内厚妹
 明三九、四、生、現戸主
 三枝徳太郎弟
 明二一、一、二、生、養子九一妻
 明四二、六、生
 大、四、一、生
 大、三、八、生、養子九一長女

四十二年東京帝國大學農科大學を卒業し同年專賣局技師となり歐洲各國に出張を命ぜらる同十四年專賣局技師に任ぜられ福岡金澤各支局製造課長高崎地方專賣局製造課長大阪地方專賣局芝工場製造課長等を経て大正十三年東京地方專賣局芝工場長となり現に其職に在り家族は尙長女ゆり(大九、六、生)二男(同四、一、一、生)あり(東京市外高田町雜司ヶ谷出四三電大塚三六〇四)
 參照 金原信泰の項

金原 信泰 從四位勳四等、商工省地質調査所長、東京府在籍
 妻 明二、一、二、生、東京、鈴木大三
 男 恭 一 明四一、一、一、生
 君は東京府人金原信近の長男にして明治十年九月を以て生れ大正十年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し同三十五年農商務技師に任ぜられ同三十九年合名社藤田組に入り小阪鐵山技師同買鐵課長となり大正七年大倉鐵業社技術顧問となる同十年再び農商務省に入り同鐵務技師兼農商務技師に任じ同十三年鐵山監督局技師に任ぜられ同十四年鐵山監督局技師に命ぜらるる家族は尙三男(同三、一、一、生)四女(同四、一、一、生)あり(東京、牛込、南山伏町一五電牛込三五六七)
 參照 金原信二、小平省三の項

金平 亮三 從四位勳四等、林學博士、九州帝國大學教授、農學部勤務
 岡山縣在籍
 妻 明二、一、三、生、福島、士、稻澤麟
 女 壽美子 大四五、一、一、生
 君は岡山縣人金平惣伍の三男にして明治十五年一月を以て生れ同二十九年兄一より分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し海外に遊學する事二ヶ年後臺灣總督府に入り技師に任ぜらる大正二年瓜哇、ボルネオ、ニューギニア香港ヒリピン等に出張し味でカリオン、マリアナ群島を視察す同

金丸 伊勢吉 宮崎縣多額納稅者、宮崎銀行頭取
 宮崎縣在籍
 妻 安政二、六生、宮崎、後藤藤石衛
 門三男、現戸主
 安政四、九生、祖父安五郎長女

君は山梨縣人中込六良右衛門の六男にして同邑造の叔父なり...

金丸富八郎

君は佐賀縣土族金丸八郎の二男にして明治十六年九月を以て生れる...

金光庸夫

君は大阪府人金光辰太郎の長男にして明治十六年五月を以て生れる...

金光秀文

君は大阪府人金光辰太郎の長男にして明治十六年五月を以て生れる...

金村仁兵衛

君は京都府人先代仁兵衛の二男にして明治十五年六月を以て生れる...

金守與兵衛

君は石川縣人先代與兵衛の長男にして明治十一年一月を以て生れる...

金誠之

君は和歌山縣人金誠之助の二男にして明治二十五年七月を以て生れる...

金森誠之

君は和歌山縣人金森誠之助の二男にして明治二十五年七月を以て生れる...

金森太七

君は愛知縣人先代太七の長男にして明治三十六年三月を以て生れる...

金森徳次郎

君は愛知縣人金森新七の弟にして明治十九年三月を以て生れる...

金森太七

君は愛知縣人先代太七の長男にして明治三十六年三月を以て生れる...

金森又一郎

君は大阪府人金森又兵衛の長男にして明治六年二月を以て生れる...

金森元之助

君は大阪府人金森元之助の長男にして明治六年二月を以て生れる...

金盛仁平

君は東京府人金盛多兵衛の二男にして同仁平の叔父なり...

金盛佐平治

君は東京府人金盛多兵衛の二男にして同仁平の叔父なり...

金盛仁平

君は東京府人金盛多兵衛の二男にして同仁平の叔父なり...

樺山 愛輔

從三位、伯爵、貴族院議員、千代田火災保險、千歳火災海上再保險、南館船渠、三光紡績各取締役、日本製鋼所顧問、伊川鐵道總務長、日本製鐵顧問、伊川鐵道總務長、東京府華族

男 五二 明三、五生、從五位
妻 梅子 院議員橋本圭三郎四女

當家は先代資紀より顯る資紀は舊鹿兒島藩士にして戊辰の役奥羽に轉戦して功あり明治二年陸軍少佐に任じ陸軍少將に擢進す其間臺灣征討に従軍し西南の役には熊本鎮臺參謀長として熊本城を固守す後海軍に轉じ同十七年海軍少將に任じ同年華族に列し日清の役海軍軍令部長として黄海に大捷し大將に昇り功を以て功二級を賜ひ伯爵を陞授せらる後臺灣總督樺密顧問官内務大臣文部大臣等の要職に就き從一位大勳位に敘せらる君は其長男にして橋口資清の再從兄なり慶應元年五月を以て生れ大正十一年襲爵す凡に米國に遊び米國風の教育を受けること十餘年にして大學教育を卒一獨英に渡る歸朝後實業界に入り義に日英水方電氣會社泰昌銀行等諸會社の重役に擢げられ現時前記會社の重役たり同十四年貴族院議員に當選し研究会に屬し現に其任に在り昭和四年米國ワシントン大學より名譽法學博士の學位を受く同五年海軍々編會議帝國全權議員(明二八、一一生、學習院女學部出身)は男爵近藤滋彌弟藤治に二女正子(同四三、一一生)は兵庫縣士族白洲文平二男次郎に嫁せり(神奈川、中、大磯町電二九)
參照 近藤藤治、白洲文平、橋口資清、橋本圭三郎、次子藤原松友光男爵川崎寬正京山口哲次郎の項

樺山 資英

正五位勳四等、貴族院議員、東京府士族

母 ナナ 弘化二、三生、祖父正之進長女、
妻 珠房子 明一四、一一生、子爵高島友武養妹
女 繁子 大五、一〇生

鏡木 清方

帝國美術院會員、邦畫家、東京府在籍

妻 照 明一九、一一生、東京、士、都築
女 清子 明四二、二生、御茶の水高女出身
女 泰子 明四四、七生

鏡木 太郎

村木商、東京府在籍

母 清太郎 文久三、一〇生、現戶主
妻 慶應三、八生、東京、宇田川善次
男 榮一 大〇、九生

鏡木 忠正

正六位、衆議院議員(埼玉縣選出)、立憲民政黨幹事、昭和醫學專門學校顧問、東京府在籍

妻 忠正 明三三、八生、鏡木胤義二女、東京府立第三高女出身
男 忠正 大八、八生

鏡木 忠

君は島根縣人有非常太郎の二男にして明治二十一年八月を以て生れ幼にして神童の稱あり大正三年いつの入夫となり家督を相続す同二年東京帝國大學農科大學醫學科を同九年同大學法學部政治學科を卒業し直ちに文官高等試験に合格し岐阜縣警視を始めてし地方事務官として群馬埼玉の兩縣に勤務し後更に商工省鑛山監督局書記官に任ぜらる昭和五年の總選舉に埼玉縣第二區より立候補し衆議院議員に當選す先是昭和三年同志と謀り府下在原町に財團法人昭和醫學專門學校を創立し現に同校顧問たり労働問題にも深き興味を有し現に「日本思潮」の著書ありA八六三七(東京市外花原町中延一〇三四電原二六六四)

鏡木 富平

長崎縣多額納稅者、長崎酒精釀取、長崎縣在籍

妻 富平 明一三、七生、長崎、平山ハツ長女
君は長崎縣人釜口忠次郎の長男にして明治九年五月を以て生れ大正二年家督を相続す現時長崎酒精會社取締役にして長崎縣多額納稅者に列し直接國稅二千三百六十九圓を納む家族は尙養子靜子(大七、一一生、長崎、御手洗元吉孫)あり妹トク(明二〇、三生)は長崎縣人石政彌平武市に嫁し叔母ツロ(慶應二、二生)は同縣人御手洗傳十郎の家籍に入れり(長崎、南松浦、福江町)

釜下 嘉兵衛

毛布眞田紐商、大阪府在籍

妻 嘉雄 明四七、一一生、大阪、宇野保太郎長女、五生

釜屋 忠道

正四位勳二等功四級、海軍中將、神奈川縣在籍

君は大阪府人釜下嘉兵衛の長男にして明治二十年三月を以て生れ大正六年家督を相続し前名友治郎を改め養名才毛眞田紐商を營む家族は尙長女富美子(大一一、八生)あり(大阪、南、順慶町通四ノ二六電國船場一八一)

鎌倉 義喜

正五位勳三等、海軍中佐、北海道帝國大學附屬水産專門部教授、長野縣在籍

妻 松長女 明一五、一一生、神奈川、鈴木福
男 辰 明三三、四生
女 倫 尚 明三三、四生
女 倫 子 大七、七生

鎌倉 貞藏

住友銀行理事、佐賀百六銀行、三州平和銀行各監査役、福岡縣在籍

妻 高 明二二、二生、岡山、山根芳藏五
女 貞子 明四三、四生
女 千枝子 大四、八生

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 晃

朝鮮實業、琴平急行電鐵各取締役、香川縣在籍

妻 信 明四四、一一生
女 信子 大四、五生
君は香川縣人鎌田大三郎の二男同意夫の兄にして明治十六年九月を以て生れ現時銀行會社の重役たり家族は尙二男覺(明四五、三生)三男正信(大六、九生)弟正威(明一八、八生)同妻初枝(同二二、二生、廣島、賴後直二女)及其三男弟靜夫(同二九、七生)同妻靜代(同三六、九生、兵庫、三森金次二女)及其二男弟和夫(同三二、五生)同妻清子(同三八、五生、岡山、兼三郎平二女)及其一男一女あり(香川、綾歌、坂出町)
參照 鎌田憲夫の項

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 晃

朝鮮實業、琴平急行電鐵各取締役、香川縣在籍

妻 信 明四四、一一生
女 信子 大四、五生
君は香川縣人鎌田大三郎の二男同意夫の兄にして明治十六年九月を以て生れ現時銀行會社の重役たり家族は尙二男覺(明四五、三生)三男正信(大六、九生)弟正威(明一八、八生)同妻初枝(同二二、二生、廣島、賴後直二女)及其三男弟靜夫(同二九、七生)同妻靜代(同三六、九生、兵庫、三森金次二女)及其二男弟和夫(同三二、五生)同妻清子(同三八、五生、岡山、兼三郎平二女)及其一男一女あり(香川、綾歌、坂出町)
參照 鎌田憲夫の項

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 晃

朝鮮實業、琴平急行電鐵各取締役、香川縣在籍

妻 信 明四四、一一生
女 信子 大四、五生
君は香川縣人鎌田大三郎の二男同意夫の兄にして明治十六年九月を以て生れ現時銀行會社の重役たり家族は尙二男覺(明四五、三生)三男正信(大六、九生)弟正威(明一八、八生)同妻初枝(同二二、二生、廣島、賴後直二女)及其三男弟靜夫(同二九、七生)同妻靜代(同三六、九生、兵庫、三森金次二女)及其二男弟和夫(同三二、五生)同妻清子(同三八、五生、岡山、兼三郎平二女)及其一男一女あり(香川、綾歌、坂出町)
參照 鎌田憲夫の項

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 晃

朝鮮實業、琴平急行電鐵各取締役、香川縣在籍

妻 信 明四四、一一生
女 信子 大四、五生
君は香川縣人鎌田大三郎の二男同意夫の兄にして明治十六年九月を以て生れ現時銀行會社の重役たり家族は尙二男覺(明四五、三生)三男正信(大六、九生)弟正威(明一八、八生)同妻初枝(同二二、二生、廣島、賴後直二女)及其三男弟靜夫(同二九、七生)同妻靜代(同三六、九生、兵庫、三森金次二女)及其二男弟和夫(同三二、五生)同妻清子(同三八、五生、岡山、兼三郎平二女)及其一男一女あり(香川、綾歌、坂出町)
參照 鎌田憲夫の項

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 晃

朝鮮實業、琴平急行電鐵各取締役、香川縣在籍

妻 信 明四四、一一生
女 信子 大四、五生
君は香川縣人鎌田大三郎の二男同意夫の兄にして明治十六年九月を以て生れ現時銀行會社の重役たり家族は尙二男覺(明四五、三生)三男正信(大六、九生)弟正威(明一八、八生)同妻初枝(同二二、二生、廣島、賴後直二女)及其三男弟靜夫(同二九、七生)同妻靜代(同三六、九生、兵庫、三森金次二女)及其二男弟和夫(同三二、五生)同妻清子(同三八、五生、岡山、兼三郎平二女)及其一男一女あり(香川、綾歌、坂出町)
參照 鎌田憲夫の項

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 晃

朝鮮實業、琴平急行電鐵各取締役、香川縣在籍

妻 信 明四四、一一生
女 信子 大四、五生
君は香川縣人鎌田大三郎の二男同意夫の兄にして明治十六年九月を以て生れ現時銀行會社の重役たり家族は尙二男覺(明四五、三生)三男正信(大六、九生)弟正威(明一八、八生)同妻初枝(同二二、二生、廣島、賴後直二女)及其三男弟靜夫(同二九、七生)同妻靜代(同三六、九生、兵庫、三森金次二女)及其二男弟和夫(同三二、五生)同妻清子(同三八、五生、岡山、兼三郎平二女)及其一男一女あり(香川、綾歌、坂出町)
參照 鎌田憲夫の項

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 晃

朝鮮實業、琴平急行電鐵各取締役、香川縣在籍

妻 信 明四四、一一生
女 信子 大四、五生
君は香川縣人鎌田大三郎の二男同意夫の兄にして明治十六年九月を以て生れ現時銀行會社の重役たり家族は尙二男覺(明四五、三生)三男正信(大六、九生)弟正威(明一八、八生)同妻初枝(同二二、二生、廣島、賴後直二女)及其三男弟靜夫(同二九、七生)同妻靜代(同三六、九生、兵庫、三森金次二女)及其二男弟和夫(同三二、五生)同妻清子(同三八、五生、岡山、兼三郎平二女)及其一男一女あり(香川、綾歌、坂出町)
參照 鎌田憲夫の項

鎌田 英藏

鎌田護謨製造所、自轉車タイヤ製造業、大阪府在籍

妻 長七 慶應三、一〇生、現戶主、大阪市長
養母 エン 明六、一〇生、大阪、中許榮之助
妻 スマ 明二六、四生、養父長七二女
女 綾子 明四五、一一生

鎌田 榮吉

從三位勳一等、樞密顧問官、交詢社理事長、東京府在籍
妻 ヒヤク 長女
男 竹 夫 明二、一、一生

鎌田 喜太郎

香川縣多額納稅者、日本花菱糖取
妻 久美子 明三、一、一生
男 久美子 明三、一、一生

鎌田 敬四郎

朝日新聞社支店司理局長
妻 フサ子 明二、一、一生
男 正 勝 明二、一、一生

鎌田 榮

四國水力電氣、鎌田産業各取
妻 ト 明三、一、一生
男 正 久 明三、一、一生

鎌田 三郎兵衛

勳五等、兵庫縣多額納稅者、養父
妻 敏 明七、三、一生
男 強 明二、一、一生

鎌田 彌彦

備前司令官、鹿兒島縣在籍
妻 ト 明一、一、一生
男 彌彦 明一、一、一生

鎌田 彌彦

三井銀行本店營業部預金係長
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

大分縣士族
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

三井銀行本店營業部預金係長
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

大分縣士族
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

三井銀行本店營業部預金係長
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

大分縣士族
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

三井銀行本店營業部預金係長
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

大分縣士族
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

三井銀行本店營業部預金係長
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

大分縣士族
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

三井銀行本店營業部預金係長
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 彌彦

大分縣士族
妻 エツ 明二、三、一生
男 彌彦 明二、三、一生

鎌田 久兵衛

南但自動車取締役社長、養父合
妻 千代子 明四、二、一生
男 昌 三 明三、一、一生

鎌田 憲夫

鎌田産業取締役、鹿島登山鐵道
妻 勝太郎 明二、一、一生
男 憲夫 明二、一、一生

鎌田 正明

日本興業銀行理事、計理課長兼
妻 フイ 明三、一、一生
男 正明 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校
妻 彌壽治 明三、一、一生
男 彌壽治 明三、一、一生

男 利武 明三一、三三、三五、三三、長男利武妻、埼玉
女 愛子 明四四、一五、一五、長女愛子妻、埼玉
 君は埼玉縣人上桂助の長男にして明治十年十月を以て生れ同十六年家督を相続す同三十二年明治大學を卒業し農業を営み直接國稅三千二百五十五圓を納め埼玉縣多額納稅者たり家族は尙二女節子(大六、一一生)孫好子(同三一、五五、長男利武二女)同敬一(昭二、一五、同長男)あり二男靜夫(明三三、二二生)は埼玉縣人角田廣吉の養子となれり(埼玉、北埼玉、水窪村)

上泉 德彌 從四位勳三等功三級、海軍中將、國風會々長、山形縣士族
 妻 明九、六生、山形、士、五十嵐力
 男 明三、一五、慶大理財科出身
 女 直 明三九、一五、東京、荻野末吉
 女 明四、一五、五生

上内 彦策 從五位、朝鮮總督府事務官、京大警務部長、大分縣在籍
 妻 恒三郎 明五、一五、現戶主、正五位勳
 養母 ハマ 明九、七生、大分、田口常治長女
 女 明三、一五、六生、大分、田口常治六女

上久保勝吉 勳八等、高知縣多額納稅者、農業
 妻 正貴 明二五、一五、二生
 男 明二、一五、二生、長男正貴妻、高知縣士族
 女 明二、一五、二生、長女正貴妻、高知縣士族

上久保新七 川北電氣商事、川北電氣土木工事
 妻 正 明二七、一五、一五、大阪、橋本源治妹
 男 明二、一五、一五、長男新七妻、川北電氣
 女 明二、一五、一五、長女新七妻、川北電氣

上條 清志 從五位勳四等、逓信技師、工務局
 妻 萬延元、一五、一五、長野、岩垂彦三郎
 男 明一八、一五、一五、長野、征矢野伊
 女 明二、一五、一五、長女清志妻、工務局

上條 桂十郎 正五位勳五等、判事、小倉區裁判
 妻 隆夫 明四、一五、一五、長野、上條武一郎
 女 明二、一五、一五、長女桂十郎妻、判事

上遠野亮三 東洋電機製造取締役兼支配人
 妻 ノア 文久三、六生、秋田、士、飯塚文
 女 明二、一五、一五、長女亮三妻、東洋電機

上西 威 建村社代表社員
 妻 敏 明二七、七生、東京、阿部鐵之助
 女 明二、一五、一五、長女威妻、建村社

上遠野孝 昭和土地地籍取締役社長、大成無盡
 妻 知 明二、一五、一五、長女孝妻、昭和土地
 女 明二、一五、一五、長女孝妻、昭和土地

上遠野三郎 東京府多額納稅者、上遠野代表社
 妻 武治 明二、一五、一五、長女三郎妻、東京府
 女 明二、一五、一五、長女三郎妻、東京府

上條 辰藏 從四位勳四等、東京商科大学農科
 妻 長野 明二、一五、一五、長女辰藏妻、東京商大

上條 憲治 第一銀行久留米支店長
 妻 秀雄 大七、九生
 女 明二、一五、一五、長女憲治妻、第一銀行

上條 辰藏 從四位勳四等、東京商科大学農科
 妻 長野 明二、一五、一五、長女辰藏妻、東京商大

上條 憲治 第一銀行久留米支店長
 妻 秀雄 大七、九生
 女 明二、一五、一五、長女憲治妻、第一銀行

上條 辰藏 從四位勳四等、東京商科大学農科
 妻 長野 明二、一五、一五、長女辰藏妻、東京商大

上條 憲治 第一銀行久留米支店長
 妻 秀雄 大七、九生
 女 明二、一五、一五、長女憲治妻、第一銀行

上條 辰藏 從四位勳四等、東京商科大学農科
 妻 長野 明二、一五、一五、長女辰藏妻、東京商大

男 龍太郎 大六、一二生
 君は大分縣人上内益平の五男にして明治二十三年三月を以て生れ大正元年兄恒三郎の養子となる兄恒三郎に在り君は大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試験に合格す初め久原鐵業會社に入りしが後之を辭し朝鮮總督府試補に任じ昭和六年同道事務官に任ぜられ現時京畿道警察部長にして其間朝鮮總督府道務官同事務官同府尹忠清北道全羅南道各警察部長朝鮮總督府事務官同書長内務局社會課長等を歴任す家族は尙三男光郎(大一二、七生)養妹律子(同二、九生、大分、釜口重雄長女)あり兄繁太郎(明二、四生)は分家し姉カク(同二、七生)は大分縣人加來淺太郎に嫁せり(京城府京畿道警察部)

上岡 德行 從七位勳六等、三菱倉庫門司支
 妻 美 明一五、九生、愛知、林有造孫
 男 昭三、四生、生母、愛知、花井ツ

上久保勝吉 勳八等、高知縣多額納稅者、農業
 妻 正貴 明二五、一五、二生
 男 明二、一五、二生、長男正貴妻、高知縣士族
 女 明二、一五、二生、長女正貴妻、高知縣士族

上久保新七 川北電氣商事、川北電氣土木工事
 妻 正 明二七、一五、一五、大阪、橋本源治妹
 男 明二、一五、一五、長男新七妻、川北電氣
 女 明二、一五、一五、長女新七妻、川北電氣

上條 清志 從五位勳四等、逓信技師、工務局
 妻 萬延元、一五、一五、長野、岩垂彦三郎
 男 明一八、一五、一五、長野、征矢野伊
 女 明二、一五、一五、長女清志妻、工務局

上條 桂十郎 正五位勳五等、判事、小倉區裁判
 妻 隆夫 明四、一五、一五、長野、上條武一郎
 女 明二、一五、一五、長女桂十郎妻、判事

上遠野亮三 東洋電機製造取締役兼支配人
 妻 ノア 文久三、六生、秋田、士、飯塚文
 女 明二、一五、一五、長女亮三妻、東洋電機

上西 威 建村社代表社員
 妻 敏 明二七、七生、東京、阿部鐵之助
 女 明二、一五、一五、長女威妻、建村社

上遠野孝 昭和土地地籍取締役社長、大成無盡
 妻 知 明二、一五、一五、長女孝妻、昭和土地
 女 明二、一五、一五、長女孝妻、昭和土地

上遠野三郎 東京府多額納稅者、上遠野代表社
 妻 武治 明二、一五、一五、長女三郎妻、東京府
 女 明二、一五、一五、長女三郎妻、東京府

上條 辰藏 從四位勳四等、東京商科大学農科
 妻 長野 明二、一五、一五、長女辰藏妻、東京商大

上條 憲治 第一銀行久留米支店長
 妻 秀雄 大七、九生
 女 明二、一五、一五、長女憲治妻、第一銀行

上條 辰藏 從四位勳四等、東京商科大学農科
 妻 長野 明二、一五、一五、長女辰藏妻、東京商大

上條 憲治 第一銀行久留米支店長
 妻 秀雄 大七、九生
 女 明二、一五、一五、長女憲治妻、第一銀行

上條 辰藏 從四位勳四等、東京商科大学農科
 妻 長野 明二、一五、一五、長女辰藏妻、東京商大

上條 憲治 第一銀行久留米支店長
 妻 秀雄 大七、九生
 女 明二、一五、一五、長女憲治妻、第一銀行

上條 辰藏 從四位勳四等、東京商科大学農科
 妻 長野 明二、一五、一五、長女辰藏妻、東京商大

上條 憲治 第一銀行久留米支店長
 妻 秀雄 大七、九生
 女 明二、一五、一五、長女憲治妻、第一銀行

母 萬延元、一一生、茨城、下川熊藏
妻 きよ 女 長女
女 瑞枝 大二、一一生

神原 甚造 正五位勳五等、判事、大審院判事
母 安政五、七生、香川、黒木政造妹
妻 りき 明二、一〇生、東京、清水道造

神戶伊三郎 從五位勳六等、奈良女子高等師範
父 善吉 學校教諭兼教授、栃木縣在籍
母 コウ 文久三、八生、祖父無太郎長女

神戶小三郎 豊橋市参事兼、豊橋瓦斯、遠三
母 小市 明二〇、七生
妻 綾子 明二六、一一生、長男小市妻、愛知

神戶辰藏 宮崎縣多額納稅者
母 常次郎 明一九、七生
妻 ママ 廣島、原藤右衛門四女

神戶政一 宮崎縣多額納稅者
妻 ミネ 明一五、八生、宮崎、小坂春吉妹
男 政郎 明三三、一〇生

神戶政一 宮崎縣多額納稅者
妻 ミネ 明一五、八生、宮崎、小坂春吉妹
男 政郎 明三三、一〇生

神戶つた 愛知縣在籍
母 小西屋、度量衡器商
妻 ふさ 安政二、一一生、亡夫利左衛門母

神戶徳太郎 東京發達、日本化工、各縣監
母 信 明四、一一生、山梨、野口徳姉
妻 あさ 明三六、一一生、男爵平山洋三郎妹

神戶寅次郎 法學博士、慶應義塾大學教授、法
妻 スミ 明一三、八生、故宮中顧問官西村
母 照雄 大五、二生

神戶久誠 正六位、醫學博士、侍醫
妻 松枝 明二七、一一生、養父舉一長女
母 光一 大一〇、一〇生

神戶正雄 正四位勳二等、法學博士、帝國學
妻 すみ 明一六、一一生、東京、河村豊洲二
女 正一 明四三、六生、東大經濟學部在籍

神部爲藏 衆議院議員(北海道選出、大正製
妻 ヤマ 明四、八生、北海道、山中俊雄妻
女 アイ 明一九、一一生、養子忠治妻

神村信五郎 姫路銀行取締役
妻 永太郎 明一四、八生
男 房江 明一七、一一生

神部爲藏 衆議院議員(北海道選出、大正製
妻 ヤマ 明四、八生、北海道、山中俊雄妻
女 アイ 明一九、一一生、養子忠治妻

神邑黙治 朝鮮銀行検査役
妻 俊子 明四三、五生
女 山梨縣在籍

神邑黙治 朝鮮銀行検査役
妻 俊子 明四三、五生
女 山梨縣在籍

神戶正樹 日本伸銅製糖取締役兼支配人、尼崎
妻 千賀 明二四、五生、京都、瀧野喜八郎

神部爲藏 衆議院議員(北海道選出、大正製
妻 ヤマ 明四、八生、北海道、山中俊雄妻
女 アイ 明一九、一一生、養子忠治妻

神邑黙治 朝鮮銀行検査役
妻 俊子 明四三、五生
女 山梨縣在籍

神谷市太郎 小林商店取締役、ライオン石鹼
 妻 文久二、三、東京、小林喜助長
 女 明一、一〇生、東京、小林孝從
 男 明一、一〇生、東京、小林孝從
 女 明一、一〇生、東京、小林孝從
 男 明一、一〇生、東京、小林孝從
 女 明一、一〇生、東京、小林孝從

神谷市太郎 知多銀行常務取締役
 妻 明三、八生、愛知、田島吉松妹
 女 明三、八生、愛知、田島吉松妹
 男 明三、八生、愛知、田島吉松妹
 女 明三、八生、愛知、田島吉松妹
 男 明三、八生、愛知、田島吉松妹

神谷啓三 永樂殖産監査役、東邦電力理事
 妻 甲代子 明二、二生、愛知、松井藤一郎
 男 一夫 大一二、四生
 女 明二、二生、愛知、松井藤一郎

神谷重右衛門 日野重、牛標商
 妻 明一、一〇生、東京、深村周蔵五
 女 明一、一〇生、東京、深村周蔵五
 男 明一、一〇生、東京、深村周蔵五
 女 明一、一〇生、東京、深村周蔵五

神谷太一郎 東京府多額納税者、東町砂利運取
 妻 明七、八生、愛知、都築圭藏姉
 男 明三、四、五生、東京商大商學專門
 女 明三、四、五生、東京商大商學專門

神谷忠雄 熱帯産産社社長、アルセニウム
 妻 明三、八、四生、長男銀男、岡山、
 女 明三、八、四生、長男銀男、岡山、
 男 明三、八、四生、長男銀男、岡山、
 女 明三、八、四生、長男銀男、岡山、

神谷敏行 從四位勳三等、檢事、静岡地方裁
 妻 明二、五、一〇生、愛知、後藤文一
 女 明二、五、一〇生、愛知、後藤文一
 男 明二、五、一〇生、愛知、後藤文一
 女 明二、五、一〇生、愛知、後藤文一

神谷健夫 從四位勳三等、判事、大審院判事
 妻 明二、二生、山形、川島富五郎
 女 明二、二生、山形、川島富五郎
 男 明二、二生、山形、川島富五郎
 女 明二、二生、山形、川島富五郎

神谷傳兵衛 神谷傳兵衛本店、新三河鐵道、三
 妻 明一、一〇生、東京、神谷桂助
 女 明一、一〇生、東京、神谷桂助
 男 明一、一〇生、東京、神谷桂助
 女 明一、一〇生、東京、神谷桂助

神谷敏行 從四位勳三等、檢事、静岡地方裁
 妻 明二、五、一〇生、愛知、後藤文一
 女 明二、五、一〇生、愛知、後藤文一
 男 明二、五、一〇生、愛知、後藤文一
 女 明二、五、一〇生、愛知、後藤文一

君は東京府人龜田介治郎の庶子にして明治十八年七月を以て生れ大正元年家督を相続す現時大北産業會社監査役に在り...

龜田 甚一 木村縣在籍 妻 慶應二、八生、杉木、平間長次郎姉...

龜田 精一 兵庫縣多額納税者、高砂銀行取役、製菓業、兵庫縣在籍...

龜田 豊治朗 正五位勲六等、理學博士、簡易保健局技師兼通信技師鐵道技師内閣統計局統計官、簡易保險局統計課長、東京府在籍...

龜田 兵治 仙臺商工會議所議員、龜兵商店代表社員、醬油醸造業、宮城縣在籍...

龜田 寅吉 日本麥酒醸造會取役、大北産業會社監査役、田林商店、東武鐵道各線監査役、東京府在籍...

龜田 利三郎 京都府多額納税者、大峰鐵山監査役、京都府在籍...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

龜田 直人 正五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、東京府土族...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き同四十四年東京帝國大學理學科大學數學科を卒業す...

君は京都府人龜田利兵衛の長男照山幸太郎の甥にして明治八年九月を以て生れ同十二年家督を相続す...

君は兵庫縣人龜田五郎の二男同精一の弟にして明治十六年二月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す...

君は宮城縣人大原直之助の二男にして明治四年三月を以て生れ先代兵治の養子となり同二十九年家督を相続す...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

君は生れ同三十二年家督を相続す同三十八年滋賀縣立第一中學校教諭鐵道技師となり後之を退き...

龜山 恭平 濠洲縣土族、銀行取役、妻 明二七、一〇生、愛知、服部富三...

龜山 俊藏 東京海上火災保險會社取役、妻 美 尾 明二六、六生、東京、堀崎一郎姉...

龜山 慎一 從五位勲六等、檢事、東京地方裁判所檢事、妻 藤木縣在籍...

龜山 虎治 中國銀行取役、妻 鐵 門三三、七生、岡山、高畑岩右衛門...

龜山 悌吉 日本車輛製造廠監査役、妻 健 吉 大一一、九生、東京府在籍...

龜山 甚 川崎貯蓄銀行取役、妻 ヒア 明二五、四生、東京、平岡啓次郎...

龜山 政三 岡山商工會議所議員、妻 志 津 明二二、五生、岡山、龜山元三三...

龜山 安藏 利原鐵山、大和サツシ、妻 藤木縣在籍...

龜山 安藏 利原鐵山、大和サツシ、妻 藤木縣在籍...

龜山 安藏 利原鐵山、大和サツシ、妻 藤木縣在籍...

妻 明一八、一生、東京、大谷樞太郎
男 明四三、一生
女 明四二、五生、東京女學館出身
 君は長野縣人、鴨川才次郎の三男にして明治九年十月を以て生れ、同二十八年分れて一家を創立す。夙に實業界に入り、現時利原鐵山會社社長にして、傍ら前記諸會社の重役として知られ、前代議士たり。家族は尙二男正治(大一一〇生)、一〇生あり。長女安子(明四一、一生、東京女學館出身)は東京府人松平橋に嫁せり(東京、麴町、永田町二ノ五九電燈銀座四〇三〇)。

るや庶務部長に擧げられ、今日に至る家族は尙三男晴比古(大一一〇、三生)四男梓(同四二、九生)二女美枝子(同四五、五生)あり。二男明郎(同七七、一〇生)は茨城縣人川又ふくの養子となり、A五四七(東京市外長崎町大和田一九四〇電大塚一〇八四)。
 參照 宇佐美辰五郎 鴨川治三郎 宇佐美勝夫の項

局印刷部彫刻課長となり、今日に至る(東京、小石川、武島町一)。
妻 明九、三生、菊地唯夫二女
男 明三〇、六生
女 明三四、一〇生、長男昌妻、兵庫
 君は宮城縣人、萱場朝治の二男にして明治四年二月を以て生れ、同四十一年兄三郎方より分れて一家を創立す。夙に東京高等師範學校を卒業し、青森和歌山各師範學校を経て、大正十二年鹿兒島縣第一師範學校長に任じ、現在に至る。家族は尙五男治(大四四、四生)あり(鹿兒島市藥師町二二)。

鴨川 武 從三位勳三等、工學博士、東京帝國大學名譽教授、香川縣在籍
妻 明一〇、二生、香川、廣瀬富士太
女 明三六、九生、御茶水高女出身
 當家は香川縣に於ける舊家にして、舊幕時代は苗字帶刀を許されたる家柄なり。君は先代重太郎の弟にして、元治元年八月を以て生れ、明治三十二年家督を相続す。初め大阪に出て、藤澤南岳に漢學を學び、しが後工學に志し、同二十七年東京帝國大學工學科大學助教授に任じ、同三十八年文部省より歐米諸國に留學を命ぜられ、應用電氣化學應用光線化學を専攻す。同四十一年歸朝し、同大學教授に任ぜらる。同四十四年工學博士の學位を受け、後特許局技師を兼任す。大正十四年辭して、閑地に就き、現時東京帝國大學名譽教授たり。兄重太郎(嘉永六、八生)同妻シモ(慶應元、四生)は弟三郎(明四、三生)を伴ひ分家し、女フミ(同三四、一生)は醫學博士田村均に嫁せり(東京市外長崎町下目黒小池四九八電高輪三三六五)。

君は茨城縣人、市毛次郎左衛門の二男にして、安政二年二月を以て生れ、先代清衛門の養子となり、明治七年家督を相続す。村木商を營み、傍ら東京共成會社取締役たり。直に礦産部局長兼大洗郵便局長、茨城縣電力藤井川電力東部電力各會社の重役たりし事あり。家族は尙庶子トヨ(大九九、二生、生母、茨城、田山い)あり。長女キヨ(同二九、一〇生)は東京府人保田清太郎に養子し、(同二九、八生、茨城、石井安吉)は茨城縣人佐藤元(同二九、八生)に嫁せり(同三四、二生、同庶子)は同縣人石井四郎に嫁せり(同四〇、二生、同庶子)は同縣人鯉淵民次郎に嫁せり(同四二、四生)同妻タケ(同三三、一生)は茨城、川崎傳兵衛三女)は其子女を伴ひ分家せり(茨城、茨城、大貫町)。
 參照 鴨川清の項

君は舊行田藩士、樞木寛則の二男にして、明治二十三年九月を以て生れ、昭和二年家督を相続す。大正五年東京帝國工學科大學を卒業し、製鐵所技師、市計畫東京地方委員會技師を歴任。同十二年内務技師に任じ、大臣官房都市計畫課に勤務し、今日に至り、尙鐵道技師を兼任。東京帝國大學工學部講師を囑託せらる。曩に官命に依り、南洋比律賓群島及歐米各國に出張す。家族は尙二男寛(大一一〇、五生)三男修(同一一五、六生)弟三男(明二七、八生)同妻文子(同三五、九生、京都、中川敬治七女)あり(東京、小石川、久堅町五七電小石川五八九〇)。

鴨川 清 萬興業監査役、川崎第一銀行庶務部長、茨城縣在籍
妻 明二一、二生、現戶主
女 明二一、二生、山形、士、宇佐美
 君は茨城縣人、鴨川治三郎の三男にして、明治十八年一月を以て生れ、同四十四年東京帝國大學法學科大學法學科を卒業し、川崎銀行に入り、同行庶務部長兼監査部長兼庶務部長兼鐵道銀行取締役等を經て、昭和二年川崎第一銀行とな

從五位勳六等、内閣印刷局技師、印刷部彫刻課長、鹿兒島縣在籍
妻 明三五、二生
女 明三五、二生、長男武妻、愛知、
男 明四五、二生
女 明四〇、九生
男 明四二、一〇生
 君は鹿兒島縣人、訓所恒義の三男にして、慶應三年十一月を以て生れ、先代ナカの養子となり、明治二十二年家督を相続す。同十八年印刷部彫刻科工生となり、同三十九年組長に大正四年印刷局技師同十三年内閣印刷局技師印刷

君は長野縣人、唐澤與十の三男にして、明治二十四年二月を以て生れ、大正十二年兄弟多方より分れて一家を創立す。同三年文官高等試験に合格。翌四年東京帝國大學法學科大學政治科を卒業し、内務省となり、尙來内務書記官、茨城縣理事官、内務省事務官、内務省事務官兼内務省參事官兼警務所教授に歴任し、大正十三年内務書記官に任ぜられ、大臣官房文書課長、地方局行政課長兼大臣官房文書課長を経て、現時大臣官房會計課長兼地理課長にして、内務大臣秘書官を兼任し、警務管財局事務官を被仰付。家族は尙長女時子(大一一三、一生)二女佐久子(昭三、二生)あり(東京、麴町、外樓町一官舎電燈座三三〇〇)。
 參照 杉原榮三郎の項

辛島 知己 正五位勳四等、關東廳事務官、專賣局長事務取扱、熊本縣士族
妻 明二七、八生、男爵山内長人四女
女 明二七、八生、男爵山内長人四女
 辛島家は世々細川家の儒臣なり。先代格は西南戰役官途に就き、後熊本市長に選ばれ、勳績十數年市政に盡せり。君は其長男にして、明治十三年十二月を以て生れ、同二十七年家督を相続す。同四十二年東京帝國大學法學科大學政治學科を卒業し、同年文官高等試験に合格。尙來來議院試補同書記官、岩手縣理事官、山梨縣警務部長、長野縣書記官、内務省事務官、山梨縣警務部長、長野縣書記官に任じ、大連民政署長を経て、現時專賣局長事務取扱たり。家族は尙長女信子(大七七、二生)弟文彦(明三九、一生)、東京、依田昌分長女)及其一子弟武雄(同二七、一〇生、工學士、海軍技師)は神奈川縣人茂木六兵衛の養子となり、妹清(同二六、二生)は熊本縣士族池松常雄に同正(同二〇、二生)は同縣人伊喜見謙吉に嫁せり(大連、松山町二官舎電六五〇〇)。
 參照 男爵山内長人、茂木六兵衛、山内長世の項

以て生れ、先代重助の養子となり、同三十九年分家して一家を創立す。現に柄谷合名會社代表社員たり。家族は尙三女久乃(大六、七生)あり。從姪八重子(同三四、一〇生、大阪、柄谷美江)同夫格(同三〇、七生、兵庫、中西遠誠)は共に分家せり(大阪、南、瓦屋町一ノ一四電南二五四五)。
 參照 柄谷重治郎の項

君は長野縣人、唐澤與十の三男にして、明治二十四年二月を以て生れ、大正十二年兄弟多方より分れて一家を創立す。同三年文官高等試験に合格。翌四年東京帝國大學法學科大學政治科を卒業し、内務省となり、尙來内務書記官、茨城縣理事官、内務省事務官、内務省事務官兼内務省參事官兼警務所教授に歴任し、大正十三年内務書記官に任ぜられ、大臣官房文書課長、地方局行政課長兼大臣官房文書課長を経て、現時大臣官房會計課長兼地理課長にして、内務大臣秘書官を兼任し、警務管財局事務官を被仰付。家族は尙長女時子(大一一三、一生)二女佐久子(昭三、二生)あり(東京、麴町、外樓町一官舎電燈座三三〇〇)。
 參照 杉原榮三郎の項

唐澤 嘉七 きつね本家、刺業業
妻 明二五、七生、長野、繩儀左衛門
女 明二五、七生、東京、多田善藏長
 君は東京府人、先代嘉七の長男にして、明治二十年十一月を以て生れ、大正九年家督を相続し、前名光治を改め、襲名す。刺業業を營み、きつね本家と稱す。家族は尙二男輝二(大四、七生)三男隆三(同六、八生)長女玉枝(同八、八生)二女光枝(同二〇、三生)四男光治(同二二、五生)三女静枝(同三一、八生)四女春枝(昭二、二生)あり。姉せん(明一六、二生)は唐澤氏を稱し、一家を創立せり(東京、京橋、築地二ノ三〇電京橋六二二)。
 參照 長谷川半次郎の項

君は東京府人、先代嘉七の長男にして、明治二十年十一月を以て生れ、大正九年家督を相続し、前名光治を改め、襲名す。刺業業を營み、きつね本家と稱す。家族は尙二男輝二(大四、七生)三男隆三(同六、八生)長女玉枝(同八、八生)二女光枝(同二〇、三生)四男光治(同二二、五生)三女静枝(同三一、八生)四女春枝(昭二、二生)あり。姉せん(明一六、二生)は唐澤氏を稱し、一家を創立せり(東京、京橋、築地二ノ三〇電京橋六二二)。
 參照 長谷川半次郎の項

君は長野縣人、唐澤與十の三男にして、明治二十四年二月を以て生れ、大正十二年兄弟多方より分れて一家を創立す。同三年文官高等試験に合格。翌四年東京帝國大學法學科大學政治科を卒業し、内務省となり、尙來内務書記官、茨城縣理事官、内務省事務官、内務省事務官兼内務省參事官兼警務所教授に歴任し、大正十三年内務書記官に任ぜられ、大臣官房文書課長、地方局行政課長兼大臣官房文書課長を経て、現時大臣官房會計課長兼地理課長にして、内務大臣秘書官を兼任し、警務管財局事務官を被仰付。家族は尙長女時子(大一一三、一生)二女佐久子(昭三、二生)あり(東京、麴町、外樓町一官舎電燈座三三〇〇)。
 參照 杉原榮三郎の項

唐澤 俊樹 從五位、内務書記官兼内務大臣秘書官、大内官房會計課長兼地理課長、警務管財局事務官
妻 明三〇、六生
女 明三四、一〇生、長男昌妻、兵庫
 君は宮城縣人、萱場朝治の二男にして、明治四年二月を以て生れ、同四十一年兄三郎方より分れて一家を創立す。夙に東京高等師範學校を卒業し、青森和歌山各師範學校を経て、大正十二年鹿兒島縣第一師範學校長に任じ、現在に至る。家族は尙五男治(大四四、四生)あり(鹿兒島市藥師町二二)。

君は舊行田藩士、樞木寛則の二男にして、明治二十三年九月を以て生れ、昭和二年家督を相続す。大正五年東京帝國工學科大學を卒業し、製鐵所技師、市計畫東京地方委員會技師を歴任。同十二年内務技師に任じ、大臣官房都市計畫課に勤務し、今日に至り、尙鐵道技師を兼任。東京帝國大學工學部講師を囑託せらる。曩に官命に依り、南洋比律賓群島及歐米各國に出張す。家族は尙二男寛(大一一〇、五生)三男修(同一一五、六生)弟三男(明二七、八生)同妻文子(同三五、九生、京都、中川敬治七女)あり(東京、小石川、久堅町五七電小石川五八九〇)。

君は長野縣人、唐澤與十の三男にして、明治二十四年二月を以て生れ、大正十二年兄弟多方より分れて一家を創立す。同三年文官高等試験に合格。翌四年東京帝國大學法學科大學政治科を卒業し、内務省となり、尙來内務書記官、茨城縣理事官、内務省事務官、内務省事務官兼内務省參事官兼警務所教授に歴任し、大正十三年内務書記官に任ぜられ、大臣官房文書課長、地方局行政課長兼大臣官房文書課長を経て、現時大臣官房會計課長兼地理課長にして、内務大臣秘書官を兼任し、警務管財局事務官を被仰付。家族は尙長女時子(大一一三、一生)二女佐久子(昭三、二生)あり(東京、麴町、外樓町一官舎電燈座三三〇〇)。
 參照 杉原榮三郎の項

柄谷重治郎 柄谷合名會社代表社員
妻 明二四、四生、大阪、宗得常七四
女 明二四、四生、大阪、宗得常七四
 君は大阪府人、柄谷重助の二男にして、明治二十一年三月を以て生れ、同四十二年分家して一家を創立す。現に柄谷合名會社代表社員たり。家族は尙長女歌子(大九九、四生)あり(大阪、南、瓦屋町二ノ三二電南四七二二)。
 參照 柄谷善弘の項

君は東京府人、先代嘉七の長男にして、明治二十年十一月を以て生れ、大正九年家督を相続し、前名光治を改め、襲名す。刺業業を營み、きつね本家と稱す。家族は尙二男輝二(大四、七生)三男隆三(同六、八生)長女玉枝(同八、八生)二女光枝(同二〇、三生)四男光治(同二二、五生)三女静枝(同三一、八生)四女春枝(昭二、二生)あり。姉せん(明一六、二生)は唐澤氏を稱し、一家を創立せり(東京、京橋、築地二ノ三〇電京橋六二二)。
 參照 長谷川半次郎の項

君は長野縣人、唐澤與十の三男にして、明治二十四年二月を以て生れ、大正十二年兄弟多方より分れて一家を創立す。同三年文官高等試験に合格。翌四年東京帝國大學法學科大學政治科を卒業し、内務省となり、尙來内務書記官、茨城縣理事官、内務省事務官、内務省事務官兼内務省參事官兼警務所教授に歴任し、大正十三年内務書記官に任ぜられ、大臣官房文書課長、地方局行政課長兼大臣官房文書課長を経て、現時大臣官房會計課長兼地理課長にして、内務大臣秘書官を兼任し、警務管財局事務官を被仰付。家族は尙長女時子(大一一三、一生)二女佐久子(昭三、二生)あり(東京、麴町、外樓町一官舎電燈座三三〇〇)。
 參照 杉原榮三郎の項

柄谷善弘 柄谷合名會社代表社員
妻 明一〇、四生、大阪、柄谷重助姉
女 明一〇、四生、大阪、柄谷重助姉
 君は大阪府人、澤池基太郎の長男にして、明治八年八月を

君は東京府人、先代嘉七の長男にして、明治二十年十一月を以て生れ、大正九年家督を相続し、前名光治を改め、襲名す。刺業業を營み、きつね本家と稱す。家族は尙二男輝二(大四、七生)三男隆三(同六、八生)長女玉枝(同八、八生)二女光枝(同二〇、三生)四男光治(同二二、五生)三女静枝(同三一、八生)四女春枝(昭二、二生)あり。姉せん(明一六、二生)は唐澤氏を稱し、一家を創立せり(東京、京橋、築地二ノ三〇電京橋六二二)。
 參照 長谷川半次郎の項

君は長野縣人、唐澤與十の三男にして、明治二十四年二月を以て生れ、大正十二年兄弟多方より分れて一家を創立す。同三年文官高等試験に合格。翌四年東京帝國大學法學科大學政治科を卒業し、内務省となり、尙來内務書記官、茨城縣理事官、内務省事務官、内務省事務官兼内務省參事官兼警務所教授に歴任し、大正十三年内務書記官に任ぜられ、大臣官房文書課長、地方局行政課長兼大臣官房文書課長を経て、現時大臣官房會計課長兼地理課長にして、内務大臣秘書官を兼任し、警務管財局事務官を被仰付。家族は尙長女時子(大一一三、一生)二女佐久子(昭三、二生)あり(東京、麴町、外樓町一官舎電燈座三三〇〇)。
 參照 杉原榮三郎の項

妻 きやう 明二三、七生、靜岡、小栗慶次郎
女 源一 明四五、一〇生
 君は靜岡縣人川上三郎の二男にして明治十八年三月を以て生れ同四十五年兄吉太郎方より分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し現時日本製糖製造山葉洋行各會社社長にして推されて濱松商工會議所議員たり家族は尙二男流二(大六、一)生あり(東京、下谷、御徒町三ノ一二御園ホテル)

川上 貫一 山口銀行舊名古屋支店長兼橋町支店長、東京府在籍
妻 マサ 明一七、五生、大阪、和田得兵衛女
男 進 明四一、一〇生、東北帝大法文學部在學
女 進 大二、五生、愛知縣立第一高女在學
 君は新潟縣人高崎文次郎の長男にして明治十四年三月を以て生れ同四十一年川上マサの夫となり家督を相続す現時山口銀行名古屋支店長にして橋町支店長を兼ね家族は尙二女泰代(大六、三)三女益代(同九、一)二生ありA一六一(名古屋、東、水筒先町三ノ八〇)電

川上 吉右衛門 日本製糖會社取締役、日本製糖製造、日本汽船漁業、土地興業、新築温泉土地、東邦木材、昭和土地興業各取締役、廣島縣在籍
妻 美枝 明一六、三三、滋賀、土、松村貞
男 純一 大元、八生
女 春子 明四一、一〇生
 君は廣島縣人先代吉右衛門の長男にして明治十年九月を以て生れ同十四年家督を相続し前名を改め親名す現時日本製糖會社取締役にして前記各會社の重役たり現時川上林業佐久養油製造各會社の重役たり事あり家族は尙二男泰男(大六、一)二女文子(同九、一)三男裕也(同四、三)あり妹キツノ(明二一、六)生あり(岩手縣人後藤直助二男清造に嫁せり(大正住吉、天王寺町大通一、一三七電天王寺六九四))

川上 邦良 從五位、子爵
 東京府華族
 當家は先々代控六より家名を揚ぐ控六は舊鹿兒島藩士

川上 精一 熱帯産業監査役
 東京府土族
妻 しゆ 安政二、三三、東京、龜龜岳二女
妻 津 明一〇、一二生、海軍主計中將收三良妹
養子 友次 明三四、四生、靜岡、内藤大作三男、慶大出身、大日本麥酒會社員
 君は靜岡縣人村松八十の長男にして明治元年六月を以て生れ先代銀石の養子となり同十四年家督を相続し現時農商務省に入り又清國に招聘せられ教鞭を執り明治四十四年より三井物産會社の經營せる南洋護謨園を支配し在外十餘年大正八年熱帯産業會社の手に移つるや擧げられて取締役となり現時同社監査役たり和歌園藝等を趣味とす養妹ふん(明一三、四)生は東京府土族千葉風明に嫁せり(神奈川、鎌倉、鎌倉町淨明寺七六電六四三)

川上 宗二 越前電氣取締役、河野水電監査役、福井縣在籍
妻 はな 明一〇、三三、福井、宮永金藏二女
男 宗雄 明三三、四生、慶大經濟科出身
女 のぶ 明四二、六生、福井高女出身
男 武雄 明四四、五生
 君は福井縣人福田彌三右衛門の三男にして明治四年九月を以て生れ先代徳五郎の養子となり同三十八年家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙は姉きく(文久元、九生)あり長女かよ(明二九、二)生は福井縣人宮永金藏弟金太郎に嫁せり(福井、今立、鯖江町)

川上 大三郎 東京府在籍
妻 たけ 明一〇、二生、長野、矢澤和吉二女
 君は東京府人川上金松の二男にして大正三年三月を以て生れ同十四年家督を相続す家主にして養産家たり家

にして成辰の役越羽に轉戦して軍功あり明治四年陸軍中尉に任じ果進して陸軍大將に陞る其間參謀本部次長近衛歩兵第二旅團長大本營參謀參謀總長等に歴補し歐洲を巡遊して軍制を視察すること二回又清韓に遊び同二十八年日清戰役の功に依り華族に列し子爵を授けらる先代素一は其長男にして夙に陸軍に入り歩兵少佐に果進す君は素一の三男にして明治十四年一月を以て生れ大正十四年家督を相続し襲爵仰付けらる姉保枝(明四三、三)生、女子學問院出身は男爵佐竹義風に妹慈子(大元、九)生は林健嗣子流に嫁せり(東京、芝、車町三五)
 參照 男爵佐竹義風、林健の項

川上 國三郎 從五位、地方技師、新潟縣内務部土木課長、長野縣在籍
妻 志津 明二二、一〇生、靜岡、室伏龜次郎二女、日本大出身
男 國介 大九、八生
女 美智 大六、六生
 君は長野縣人百瀬良市の三男にして明治十二年一月を以て生れ後同縣人川上美佐穂の夫となり昭和五年分れて一家を創立す明治三十八年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し同年清國の應聘により四川省川漢鐵路總公司となり大正元年熊本縣農工部技師を経て同八年土木技師に任じ靜岡縣技師となり同十二年地方技師に任ぜられ現時前記の職に在り家族は尙二女泰(大六、一)生あり(新潟市學校町通二番丁官舎)

川上 熊吉 臺南製糖會社取締役、臺灣林産工業、安部幸商店各監査役
 靜岡縣在籍
妻 かれ 明元、一二生、内藤等女
養子 禮治 明二一、一〇生、養子あさ夫、鼓泉、今井一弟
養子 あさ 明三三、一二生、養子禮治妻、靜岡、川上良吉六女
 君は靜岡縣人川上幾太郎の長男にして元治元年十二月を以て生れ明治三十八年分れて一家を創立す同十八年慶應義塾を卒業し實業に入り現時臺灣製糖會社常務取締役外前記會社の重役たり家族は尙孫百合(六一、一)生、養子禮治長女(同三、六)生、同二女(同壽美(昭四、七)生、同三女)あり(東京、麹町、平河町五ノ一四電九四八六七)

川上 浩二郎 從四位勳五等、工學博士、博多灣築港專務取締役、東京府在籍
妻 みつ 明八、四生、東京、川村民男妹
男 洋一 明三二、四生
男 健三 明四〇、九生
男 俊二 明四二、九生
男 俊三 明四四、九生
 君は新潟縣人川上淳一郎の弟にして明治六年六月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學工科大学土木科を卒業し同四十五年工學博士の學位を授けらる農商務技師臺灣總督府技師臨時臺灣基隆築港局技師臺灣總督府工部技師等に歴任し後官を罷めて現に博多灣築港會社専務取締役たり家族は尙四男喜代(大五、三)長女民(同八、八)生、孫不二(同二、一)生、長男洋一(長女)同御代子(同二、一)生、同二女(同京子(昭五、四)生、同三女)あり(東京市外濠野川町田端五九三電小石川一五〇九)
 參照 川上淳一郎、遠藤保太郎、中村金右衛門、二國三樹三の項

川上 淳一郎 勳四等、栃尾銀行頭取、長岡銀行、北越新報社各取締役、新潟新聞社取締役、新潟縣在籍
妻 テイ 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二 明二五、七生
男 三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 二十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 三十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 四十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 五十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 六十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 七十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 八十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十一 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十二 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十三 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十四 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十五 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十六 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十七 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十八 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 九十九 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一
男 一百 明二九、一〇生、長男一男、新湯、川上仙一

川上 高帆 淺野セメント東京支店長
 東京府在籍
妻 貞 明三一、七生、北海道、川島剛一
男 淨 大六、五生
 君は東京府人川上泉の二男にして明治二十二年三月を以て生れ同三十九年家督を相続す現時淺野セメント會社東京支店長たり家族は尙二男注(大七、八)兄千穂(明一三、二)生、妹翠(同二二、七)生あり(東京、芝、三田豐岡町二電高輪三九二)

川上 親晴 從四位勳二等、貴族院議員
 鹿兒島縣土族
妻 ヨマ 明二七、一〇生、亡養子親俊妻、大阪、村上伊之助二女
男 正一 大元、八生、亡養子親俊長男
孫 好子 大元、七生、亡養子親俊長女
 君は鹿兒島縣土族川上正兵衛の長男にして安政二年五月を以て生れ明治八年家督を相続す夙に官界に入り栃木奈良京都各府縣警察部長三重山口愛知熊本各縣書記官富山和歌山各府縣知事都府市長警視總監熊本縣知事等に歴任して大正六年貴族院議員に勅選せらる養子トキ(明二七、五)生、鹿兒島、大重(養子)は分家し同養子(大八、六)生、鹿兒島、高橋(志雄)は其養子となり孫文子(同六、四)生、亡養子親俊二女は大坂府人豊島マサに同富子(同三、一)生、同三女は同府人村上恩に各養子となり(鹿兒島、始良、加治木町)

川上 常郎 正四位勳三等、日本信託銀行頭取、朝鮮電氣興業監査役
 東京府在籍
妻 カメ 明二三、一〇生、愛媛、森川喜四郎長女
男 昌彦 昭三、三三
 君は愛媛縣人川上興吉の三男にして明治五年七月を以て生れ同三十二年兄常次方より分れて一家を創立す同三十年東京專門學校邦語政治科を卒業し大藏省に入り文官高等試験に合格し爾來官界に在る事二十餘年朝鮮

川上 登喜二 從五位、長崎醫科大學附屬藥學專門部教授、東京府在籍
妻 雅 慶應元、九生、東京、土、高瀬雅彦長男、現戶主
養子 雅 明二九、一〇生、佐賀、松浦兼政姉
 君は岩手縣人朝倉義寛の長男にして明治二十一年二月を以て生れ同四十二年川上雅量の養子となる大正四年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し陸軍三等藥劑官榮養研究所技師を経て現職長崎醫科大學附屬專門部教授に任ぜらる昭和三年獨米伊各國に留學を命ぜらる家族は尙長女登美枝(大七、四)生、二女喜代(同三、二)生、養妹美勇喜(明四一、一)生あり同澄江(同四三、一)生は東京府人山本福壽長男常一郎に嫁せり(長崎市片町三ノ七六六)

川上 德太郎 樺太銀行専務取締役
 北海道在籍
妻 トシエ 明一七、一二生、山形、島海直隆妹
男 啓次郎 明四五、一〇生、慶大在學
女 正子 大三、五生、札幌高女在學
 君は山形縣人川上傳七の四男にして明治十年五月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す夙に北海道農技手となり同四十年北海道拓殖銀行に入り後北門銀行に轉じ同行主事として活躍し更に樺太銀行に轉じ昭和三年同行専務取締役に就任し現在に至る家族は尙三男三郎(大六、一)生、三女陽子(昭三、四)生あり長女梅(明四〇、一)生は盛岡高等農林學校教授宮澤浩吾に嫁せり(樺太、大泊、大泊町)

川上 俊彦 北樺太礦業會社、日魯漁業會社長、新潟縣土族
妻 トキハ 明八、一〇生、北海道、土、木本成三二女
男 俊秀 明三五、一〇生
男 俊雄 明三七、五生
男 俊三 明四一、一二生

川上 常郎 正四位勳三等、日本信託銀行頭取、朝鮮電氣興業監査役
 東京府在籍
妻 カメ 明二三、一〇生、愛媛、森川喜四郎長女
男 昌彦 昭三、三三
 君は愛媛縣人川上興吉の三男にして明治五年七月を以て生れ同三十二年兄常次方より分れて一家を創立す同三十年東京專門學校邦語政治科を卒業し大藏省に入り文官高等試験に合格し爾來官界に在る事二十餘年朝鮮

川上 常郎 正四位勳三等、日本信託銀行頭取、朝鮮電氣興業監査役
 東京府在籍
妻 カメ 明二三、一〇生、愛媛、森川喜四郎長女
男 昌彦 昭三、三三
 君は愛媛縣人川上興吉の三男にして明治五年七月を以て生れ同三十二年兄常次方より分れて一家を創立す同三十年東京專門學校邦語政治科を卒業し大藏省に入り文官高等試験に合格し爾來官界に在る事二十餘年朝鮮

川上 俊彦 北樺太礦業會社、日魯漁業會社長、新潟縣土族
妻 トキハ 明八、一〇生、北海道、土、木本成三二女
男 俊秀 明三五、一〇生
男 俊雄 明三七、五生
男 俊三 明四一、一二生

川久保鐵三

君は奈良縣人川久保政多郎の長男にして明治四年二月...

川口愛太郎

君は群馬縣人川口嘉吉の長男にして明治十四年九月...

川口磐夫

君は三重縣人川口清治の長男にして明治十年九月...

川口藤作

君は新潟縣人川口藤七の弟にして明治七年九月を以て...

川口徳三

君は奈良縣人川口山治郎の三男にして明治十一年四月...

川口虎雄

君は長崎縣人川口時清の長男にして明治三十三年二月...

川口木七郎

君は兵庫縣人先代木七郎の長男にして明治三年四月を...

川口彦治

君は高知縣人川口博行の長男にして明治十五年五月を...

川口南海雄

君は福岡縣人川口東の長男にして明治四年八月を以て...

川口佐吉

君は三重縣人川口梅吉の弟にして明治十九年九月を以て...

川口定嗣

君は東京府人川口佐助の長男にして嘉永六年六月を以て...

川口拾吉

君は愛知縣人柴田李右衛門の三男にして明治十五年七月...

川口關之助

君は大阪府人余部傳三郎の三男同宗太郎の弟にして明治...

川口武和

君は東京府人川口佐助の長男にして嘉永六年六月を以て...

川口平三郎

君は兵庫縣人先代平三郎の長男にして慶應二年十二月を...

川口萬吉

君は長崎縣人川口彌八郎の長男にして明治二十二年九月...

カ之部 川(口)

(※印は姻族關係)

川口徳三

君は奈良縣人川口山治郎の三男にして明治十一年四月...

川口虎雄

君は長崎縣人川口時清の長男にして明治三十三年二月...

川口彦治

君は高知縣人川口博行の長男にして明治十五年五月を...

川口南海雄

君は福岡縣人川口東の長男にして明治四年八月を以て...

川口佐吉

君は三重縣人川口梅吉の弟にして明治十九年九月を以て...

川口定嗣

君は東京府人川口佐助の長男にして嘉永六年六月を以て...

川口徳三

君は奈良縣人川口山治郎の三男にして明治十一年四月...

川口虎雄

君は長崎縣人川口時清の長男にして明治三十三年二月...

川口彦治

君は高知縣人川口博行の長男にして明治十五年五月を...

川口南海雄

君は福岡縣人川口東の長男にして明治四年八月を以て...

川口佐吉

君は三重縣人川口梅吉の弟にして明治十九年九月を以て...

川口定嗣

君は東京府人川口佐助の長男にして嘉永六年六月を以て...

川口徳三

君は奈良縣人川口山治郎の三男にして明治十一年四月...

川口虎雄

君は長崎縣人川口時清の長男にして明治三十三年二月...

川口彦治

君は高知縣人川口博行の長男にして明治十五年五月を...

川口南海雄

君は福岡縣人川口東の長男にして明治四年八月を以て...

川口佐吉

君は三重縣人川口梅吉の弟にして明治十九年九月を以て...

川口定嗣

君は東京府人川口佐助の長男にして嘉永六年六月を以て...

川崎富之助 佐賀縣多額納稅者、有明銀行頭取、農業、佐賀縣在籍

川崎友之介 東信電氣、東京倉庫、矢作水力各取役、東京電力、四國水力電氣、日清紡績、水會川電力各取役

川崎友之介 東信電氣、東京倉庫、矢作水力各取役、東京電力、四國水力電氣、日清紡績、水會川電力各取役

川崎友之介 東信電氣、東京倉庫、矢作水力各取役、東京電力、四國水力電氣、日清紡績、水會川電力各取役

川崎知司 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎守之助 明三、八、二生、男爵職之助

川崎守之助 明三、八、二生、男爵職之助

川崎守之助 明三、八、二生、男爵職之助

川崎守之助 明三、八、二生、男爵職之助

川崎秀雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎秀雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎守之助 日本火災保險取役、川崎定徳會社社員、東京府在籍

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎守之助 日本火災保險取役、川崎定徳會社社員、東京府在籍

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎芳雄 川崎貯蓄銀行取役、川崎第百銀行支店長代理

川崎守之助 日本火災保險取役、川崎定徳會社社員、東京府在籍

造船監督官津根長海軍省機務局長等に歴補す大正八年...

川島 一郎 正六位、東京市京橋區長...

川島 税 神戸岡崎銀行、岡崎汽船、第一水産、神樂生絲各社取締役...

川島 鏡一 三井物産株式會社出張所長...

川島 七郎 旭川電力株式會社取締役、太平洋製紙株式會社取締役...

川島 正作 高知市長...

川島 正次郎 勳六等、衆議院議員(千葉縣選出)...

川島 庄之助 東京府多額納稅者、大紙商會取組...

川島 久三郎 山久川島慶社長、足利銀行監査役、栃木縣在籍...

川島 慶次郎 大阪府多額納稅者、タオル商...

川島 孝三郎 川孝、材木商...

川島 信太郎 從四位勳三等、特命全權公使、希臘國駐劄、京都府在籍...

川島 甚兵衛 西陣織物商...

川島 辰之助 川島辰之助商店代表社員、貿易商、東京府在籍...

川島 忠之助 實業家...

川島 齋兵衛 織物商...

川島 三郎 太平洋炭礦株式會社取締役、岡崎縣土族...

川島 重雄 熊本縣多額納稅者、地主...

川島 甚兵衛 西陣織物商...

川島 辰之助 川島辰之助商店代表社員、貿易商、東京府在籍...

川島 忠之助 實業家...

男達夫に嫁せり(東京、牛込、喜久井町四六電牛込三三八)

に嫁せり(千葉、海上、銚子町電二〇三)

川島 鶴吉

君は東京府人伊藤善右衛門の四男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年先代隆の入夫となり家督を相続す...

川島 明八

君は岩手縣人川島民八の四男にして明治八年十月を以て生れ昭和三年兄泰作方より分れて一家を創立す...

川島 義之

君は滋賀縣人川島鶴之助の長男にして明治二十四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名與一郎を改む...

川島 貞造

君は東京府人伊藤善右衛門の四男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年先代隆の入夫となり家督を相続す...

川島 安次郎

君は滋賀縣人卷木庄平の四男にして安政五年四月を以て生れ川島佐次右衛門の養子となり明治六年家督を相続す...

川島 令次郎

君は滋賀縣人川島新太郎の庶子にして明治二十五年三月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す川新と稱し...

川島 豊吉

君は和歌山縣人川島幾右衛門の二男にして明治八年六月を以て生れ同三十九年家督を相続す現時ヤマサ醤油...

川島 與一郎

君は京都府人川島與兵衛の長男にして明治四十五年七月を以て生れ大正十五年家督を相続す...

川島 義之

君は滋賀縣人川島鶴之助の長男にして明治二十四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名與一郎を改む...

川島 貞造

君は東京府人伊藤善右衛門の四男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年先代隆の入夫となり家督を相続す...

川島 明八

君は岩手縣人川島民八の四男にして明治八年十月を以て生れ昭和三年兄泰作方より分れて一家を創立す...

川島 義之

君は滋賀縣人川島鶴之助の長男にして明治二十四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名與一郎を改む...

川島 貞造

君は東京府人伊藤善右衛門の四男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年先代隆の入夫となり家督を相続す...

川島 明八

君は岩手縣人川島民八の四男にして明治八年十月を以て生れ昭和三年兄泰作方より分れて一家を創立す...

川島 義之

君は滋賀縣人川島鶴之助の長男にして明治二十四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名與一郎を改む...

川島 貞造

君は東京府人伊藤善右衛門の四男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年先代隆の入夫となり家督を相続す...

川島 明八

君は岩手縣人川島民八の四男にして明治八年十月を以て生れ昭和三年兄泰作方より分れて一家を創立す...

川島 義之

君は滋賀縣人川島鶴之助の長男にして明治二十四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名與一郎を改む...

川島 貞造

君は東京府人伊藤善右衛門の四男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年先代隆の入夫となり家督を相続す...

川島 明八

君は岩手縣人川島民八の四男にして明治八年十月を以て生れ昭和三年兄泰作方より分れて一家を創立す...

川島 義之

君は滋賀縣人川島鶴之助の長男にして明治二十四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名與一郎を改む...

川島 貞造

君は東京府人伊藤善右衛門の四男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年先代隆の入夫となり家督を相続す...

川島 明八

君は岩手縣人川島民八の四男にして明治八年十月を以て生れ昭和三年兄泰作方より分れて一家を創立す...

川島 義之

君は滋賀縣人川島鶴之助の長男にして明治二十四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名與一郎を改む...

川島 貞造

君は東京府人伊藤善右衛門の四男にして明治九年二月を以て生れ同四十二年先代隆の入夫となり家督を相続す...

川島 明八

君は岩手縣人川島民八の四男にして明治八年十月を以て生れ昭和三年兄泰作方より分れて一家を創立す...

川島 義之

君は滋賀縣人川島鶴之助の長男にして明治二十四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名與一郎を改む...

妻 カズ 明二〇、一生、京都、河原林泉三
 養子 周 明四四、六生、川田正雄弟
 君は東京府士族川田正雄の叔父にして明治十五年一月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學法政科を卒業し現時住友合資社事務部長にして前記各會社の重役を兼ねる風佐々木竹園に學び和歌を良くし歌集「陽炎」其他の著書あり(兵庫、武庫、御影町掛田一七八、一電郵八三七)
 參照川田正雄、高木八尺、高木谷英夫の項

川田長兵衛

從五位勳六等、臺北高等商業學校教授、埼玉縣在籍
 妻 幸 明二五、七生、埼玉、小野禮次長
 女 實 大七、七生

君は埼玉縣人先代長兵衛の長男にして明治十五年八月を以て生れ同三十年家督を相續し前名後一郎を改め名す同四十二年東京高等商業學校専攻部を卒業し函館商業學校教授大分愛知各商業學校校長兼臺灣總督府商業專門學校教授、南高等商業學校校長を経て現時臺北高等商業學校教授にして外遊中たり家族は尙二男英夫(大一〇、三生)二女貴美子(同一〇、三生)三男高(同一四、九生)四男南(同一〇、三生)弟德三郎(同一九、二生)あり同省二郎(同一七、四生)同妻(同一八、四生、埼玉、中村源兵衛孫)は其子女を伴ひ分家し弟金四郎(同一六、二生)は東京府人岡田常次郎の養子となり妹よし(同一二、四生)は群馬縣人後岡鐵彌に嫁せり(臺北、臺北高等商業學校)
 參照岡田常次郎の項

川田鐵彌

高千穂學校校長、東京府在籍
 妻 滿壽美 明一四、一生、高知、士、小松守行長女
 男 正 清 明三三、九生、明大出身
 女 知子 明四〇、九生、二男正清妻、豫備子學院出身
 男 正 晴 明三七、三生、高千穂高商出身

君は東京府士族川田正雄の長男にして文久二年十二月を以て生れ明治四十年家督を相續し東京府立第一中學校校長を経て昭和四年東京府立高等學校校長に任じ現時東京府立第一中學校事務取扱たり家族は尙孫想(大五、四生、養子貫一長男)同妻(同一八、七生、同二男)同安子(同一二、一生、同長女)同澄子(同一三、三生、同二女)あり(東京府外千駄ヶ谷町八三六電四〇一八)

川田正激

正五位勳四等、東京府立高等學校校長、東京府在籍
 妻 貫一 明二七、七生、養子貫一妻
 女 美 以 明二七、七生、養子貫一妻
 白石律三郎二男、長女美以夫、愛媛

川田明治

正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、高知縣在籍
 妻 豐子 明一六、六生、高知、士、山口正德三女
 男 明 英 明四〇、五生
 男 治 雄 明四三、五生

川田龍吉

從三位、男爵、東京府在籍
 妻 春 猪 明三、八生、高知、士、楠瀬齊民長女
 男 吉 衛 明三六、三生、從五位、函館船渠會社監査役
 女 季 子 明三八、六生、女子學院出身

川田龍吉

從三位、男爵、東京府在籍
 妻 春 猪 明三、八生、高知、士、楠瀬齊民長女
 男 吉 衛 明三六、三生、從五位、函館船渠會社監査役
 女 季 子 明三八、六生、女子學院出身

川田龍吉

從三位、男爵、東京府在籍
 妻 春 猪 明三、八生、高知、士、楠瀬齊民長女
 男 吉 衛 明三六、三生、從五位、函館船渠會社監査役
 女 季 子 明三八、六生、女子學院出身

川田龍吉

從三位、男爵、東京府在籍
 妻 春 猪 明三、八生、高知、士、楠瀬齊民長女
 男 吉 衛 明三六、三生、從五位、函館船渠會社監査役
 女 季 子 明三八、六生、女子學院出身

川田龍吉

從三位、男爵、東京府在籍
 妻 春 猪 明三、八生、高知、士、楠瀬齊民長女
 男 吉 衛 明三六、三生、從五位、函館船渠會社監査役
 女 季 子 明三八、六生、女子學院出身

川田龍吉

從三位、男爵、東京府在籍
 妻 春 猪 明三、八生、高知、士、楠瀬齊民長女
 男 吉 衛 明三六、三生、從五位、函館船渠會社監査役
 女 季 子 明三八、六生、女子學院出身

力之部 川(田、谷、地)

畢業し現時函館船渠會社社長にして前記銀行會社の重役たり長女女子(明三一、二生、女子學院出身)は東京府人伊庭貞剛五男勝彌に二女佑子(同三八、一生)は同府人森村茂樹に三女三保子(同四二、一生)は同府人岡野梯二長男武に嫁せり(東京、牛込、中町二九電牛込一〇七九)
 參照川田龍吉、岡野梯二、森村茂樹、森村貞之、小路豐後、森村市左衛門、清水源の項

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

川田友之

大觀社主、出版及貿易仲立業、東京府在籍
 父 高之助 文久三、八生
 母 つね 元治元、一生、東京、海老原登貞長女
 妻 てつ 明二一、一生、兵庫、高瀬吾逸長女
 男 和 枝 明四四、一〇生
 女 泰 代 大五、八生

君は高知縣人川谷權市の二男にして明治十三年二月を以て生れ大正六年兄長一郎方より分れて一家を創立す明治四十年東京外國語學校を卒業し三井物産會社に入り大正十五年大使館商務書記官に任じ現時ソグイェト聯邦在勤を命ぜらるる家族は尙四男幸吉(六一、五、七生)三女昭子(昭四、八生)あり(ソグイェト聯邦帝國大使館内)

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

川谷幸左衛門

從五位勳六等、大使館商務書記官、ソグイェト聯邦在籍
 妻 アヤノ 明二三、四生、長崎、殿村穂穂二女
 男 寛 弘 大七、一〇生
 女 寛 子 明四二、一生

(※印は姻族關係)

木谷眞一に嫁せり(神戸、東山町三ノ三五電漢川一七七)

川村 義郎 鞍山不動産信託、南滿建物各種取

君は静岡縣土族川村爲行の長男にして明治七年二月を以て生れ同三十三年家督を相続す日露戦争終局と共に大連に渡り建築材料販賣家業を営み鞍山及横濱に支店を有し現時前記各會社の重役たり家族は尙ほ妹(明一八、九生)同のふ(同二四、一〇生)の外大叔父太三郎(天保一四、三三)あり弟爲三(明一一、三三)は分家せり(大連、西公園町ケ區一)

川村 鍾次郎 大安生命保險專務取締役

君は長野縣土族川村清吉の長男同龍雄の兄にして明治二年四月を以て生れ同十六年家督を相続す同二十七年東京帝國大學法政科を卒業し現時大安生命保險會社專務取締役たり曾て南滿洲鐵道會社理事に擧げらるる家族は尙長女たづ子(大八、六生)二男次郎(同二〇、一〇生)三男參次(同二四、八生)あり(東京市外巢鴨町駒込染井一電小石川六八八六)

川村 麟也 從四位勳三等、醫學博士、新潟醫科大學教授、山梨縣在籍

君は山梨縣人故川村徳の四男にして明治十二年九月を以て生れ昭和四年兄嘉兵衛方より分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學醫學科を卒業し同大學醫學部講師に任じ後河合工務所を開設し又東洋コンプレックス社土庫地會社を創立す現に前記各會社の重役たり家族は尙三男宏(大四、四生)あり養子チヨ(明三〇、一〇生、佐賀、増本彌平姪)は醫學博士猪子止之助の長男一に嫁せり(大阪、西成、田端通電天下茶屋二八八五)

君は石川縣土族河合嘉太郎の長男にして元治元年八月を以て生れ明治四年家督を相続す同二十五年東京帝國大學工學科建築科を卒業し義に邁進し臺灣電信建設部技師に任じ後河合工務所を開設し又東洋コンプレックス社土庫地會社を創立す現に前記各會社の重役たり家族は尙三男宏(大四、四生)あり養子チヨ(明三〇、一〇生、佐賀、増本彌平姪)は醫學博士猪子止之助の長男一に嫁せり(大阪、西成、田端通電天下茶屋二八八五)

二月埃及政府の招待により同國開催第一回萬國熱帯病及衛生學會に出席し同國大學より名譽博士の稱號を授與せらるる邦文の外獨英文の著書數種あり家族は尙三男明義(大八、九生)三女千代子(同二〇、一〇生)あり(新潟市學校町通二番町五二四七電一四〇一)

川邨 利兵衛 内外綿産査役

君は大阪府人先代利兵衛の二男にして明治十五年七月を以て生れ大正十一年家督を相続し前名佐藏を改め襲名す現時内外綿産査役たり家族は尙三男光男(大三、二生)四男大膳(同五、五生)あり妹エト(明一八、九生)同夫妻三(同二二、一〇生、大阪、山岡千代養父)は其の一子を伴ひ弟勇三(同二二、一〇生)同妻みしほ(同二七、九生、兵庫、與地葉見姉)は其の一子を伴ひ弟伴三(同二六、四生)同妻葉枝(同三六、一〇生、長野、深茂三吉三女)は其の一子を伴ひ弟洋三(同二七、四生、兵庫、土屋英之助長女)は其の二子を伴ひ各分家せり(兵庫、武庫、甲東村段上字庄ノ上一五電西宮一六三三)

川本市 太郎 神戸新道郵便局長

君は兵庫縣人川本定介の長男にして明治十九年八月を以て生れ同四十五年家督を相続す現時神戸新道郵便局長にして兼に東京電氣會社取締役たり(神戸、坂口通六ノ二七電通合一一五二)

君は東京府人河合善兵衛の弟にして明治二十四年二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す大正三年文官高等試験に合格し同四年東京帝國大學法政科を卒業す農商務局工場監督官補等を經て同九年東京帝國大學助教授に任じ歐米各國に留學を經て後歸朝後同十五年同教授に進み今日に至る家族は尙長子純子(大七、三三)二女壽子(同九、二生)三女尚子(同二〇、一〇生)あり(東京市外大井町庚辰四九四八)

川本 新之助 綑帶材料綿布商

君は和歌山縣人川本十助の長男にして明治十年九月を以て生れ同三十九年叔父吉兵衛方より分れて一家を創立す綑帶材料並綿布商を営む(大阪、東、瓦町二ノ二電本局二六二一)

川本 直信 兵庫縣農工銀行取締役兼支配人

君は兵庫縣人川本久三郎の二男にして明治二十年八月を以て生れ大正四年家督を相続す明治四十三年早稻田大學政治經濟學科を卒業し翌年兵庫縣農工銀行に入り現時其取締役にして支配人を兼ねる家族は尙二男正美(大四、一〇生)三男信彦(同六、三三)二女美佐子(同九、五生)四男史郎(同二一、六生)五男和孝(同二四、九生)あり弟一雄(明二六、八生)同妻ひさの(同三三、六生、兵庫、田中松次郎二女)は其に分家せり(同三三、六生、兵庫、平野雪御所町五〇ノ一電漢川三三三三)

川本 勇次郎 神奈川縣多額納稅者、地主

君は神奈川縣人川本七郎左衛門の長男にして明治十年十月を以て生れ同二十九年家督を相続す地主にして直接國稅千四百四十圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙五男勇(大四、七生)あり(横濱、中、西戸部町六八〇電長者町一〇九三)

君は大阪府人西本宗作の三男にして萬延元年一月を以て生れ河合莊九郎の養子となり前名久吉を改め明治三十一年甥庄九郎方より分れて一家を創立す凡に八木銀行取締役に就任し現に在り長女貞(明三八、四生)は大阪府人小出善兵衛長男一に養子菊枝(同二九、三三)奈良、高阪惣七(二女)は同府人平野利兵衛長男利一に嫁せり(小出善兵衛の項、河合莊九郎、小出善兵衛の項)

河合 逸治 從五位勳六等、名古屋高等商業學校教授、静岡縣在籍

君は静岡縣人河合廣次の長男にして明治十九年六月を以て生れ同四十四年東京帝國大學文政學科を卒業し第九高等學校小樽高等商業學校各教授に歴任し大正九年文部省在外研究員として英佛佛國の留學し來國アニスン大學よりマスター・オブ・アーツの學位を受け同十一年歸朝名古屋高等商業學校教授に任ぜられ第八高等學校講師を兼ね現在に至る家族は尙二女美恵子(大九、二二)二男邦人(同二二、二二)三男恒人(同四、一〇)三女美智子(昭二、一〇)四男雅人(同四、一〇)の兄弟五女次(明二、一〇)生、隣婦同妻きた(同三、〇)八生、愛知、三浦久次郎長女、豊橋市立高女出身)弟寛治(同二、四)八生、豊橋市職業紹介所主任)同眞治(同二、七)六生、金澤醫學士)同妻正(同三、九)一〇生、千葉、染谷憲次三女、跡見女學校出身)及其女あり姉かよ(同二、七)三三)は愛知縣人國松重兵衛に嫁し(同三、五)六生、豊橋市立高女出身)は同縣人朝野健吉に嫁し(同三、五)六生、豊橋市立高女出身)下橋町二ノ二七電東一三五〇)

河合 榮次郎 正五位、東京帝國大學教授、經濟學部勤務、東京府在籍

君は東京府人河合欣三郎の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名欣次を改め襲名す河合の花白酒醸造元として知らるる家族は尙二女なつ子(大七、七生)あり妹とみ(明二、七)六生)は其夫常作(同二、三)一〇生、石川、竹守權太郎)に從ひ分家し妹鈴(同三、〇)一〇生)は東京府人吉塚常吉養子虎之輔に同君子(同三、六)六生)は同府人加藤三郎養子幸次に嫁せり(東京市外千住町一ノ一九電淺草二六四)

河合 源七郎 八木銀行取締役

君は東京府人河合欣三郎の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名欣次を改め襲名す河合の花白酒醸造元として知らるる家族は尙二女なつ子(大七、七生)あり妹とみ(明二、七)六生)は其夫常作(同二、三)一〇生、石川、竹守權太郎)に從ひ分家し妹鈴(同三、〇)一〇生)は東京府人吉塚常吉養子虎之輔に同君子(同三、六)六生)は同府人加藤三郎養子幸次に嫁せり(東京市外千住町一ノ一九電淺草二六四)

河合 欣三郎 河合の花白酒醸造元、酒造業

君は東京府人河合欣三郎の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名欣次を改め襲名す河合の花白酒醸造元として知らるる家族は尙二女なつ子(大七、七生)あり妹とみ(明二、七)六生)は其夫常作(同二、三)一〇生、石川、竹守權太郎)に從ひ分家し妹鈴(同三、〇)一〇生)は東京府人吉塚常吉養子虎之輔に同君子(同三、六)六生)は同府人加藤三郎養子幸次に嫁せり(東京市外千住町一ノ一九電淺草二六四)

河合 源七郎 八木銀行取締役

君は東京府人河合欣三郎の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名欣次を改め襲名す河合の花白酒醸造元として知らるる家族は尙二女なつ子(大七、七生)あり妹とみ(明二、七)六生)は其夫常作(同二、三)一〇生、石川、竹守權太郎)に從ひ分家し妹鈴(同三、〇)一〇生)は東京府人吉塚常吉養子虎之輔に同君子(同三、六)六生)は同府人加藤三郎養子幸次に嫁せり(東京市外千住町一ノ一九電淺草二六四)

河合 定二 正五位勳三等、工學博士、海軍造船大佐、大阪工業大學教授

君は東京府人河合欣三郎の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名欣次を改め襲名す河合の花白酒醸造元として知らるる家族は尙二女なつ子(大七、七生)あり妹とみ(明二、七)六生)は其夫常作(同二、三)一〇生、石川、竹守權太郎)に從ひ分家し妹鈴(同三、〇)一〇生)は東京府人吉塚常吉養子虎之輔に同君子(同三、六)六生)は同府人加藤三郎養子幸次に嫁せり(東京市外千住町一ノ一九電淺草二六四)

三十圓を納め同府多額納税者に列し曾て日本機械精工...

河合忠兵衛

井坂屋本店、刃物機械工具卸商...

河合鐵二

川崎第一銀行事務取締役、博多銀行、野田商議銀行常務取締役...

河合藤四郎

豊橋商工會議所常務議員、東三委託愛知縣在籍...

河合由太郎

兵庫縣多額納税者、機寸軸木製造業、兵庫縣在籍...

河合良成

日華生命保険専務取締役、日本ビルディング、帝國火災保険、東京海運船、中央毛織物各取締役...

河合三郎

西備鐵道社長、廣島合同貯蓄銀行、西備鐵道、福山水産市場各取締役...

君は静岡縣人澤木次郎の二男間瀬一郎の兄にして...

河合藤七

宇野製粉所取締役、湯淺貿易社監査役、岐阜縣在籍...

河合德三郎

東京府議員、土木建築請負業、東京府在籍...

河合德平

濱松市参事員、濱松商工會議所議員、濱松魚鳥總社長、濱松瓦斯監査役、静岡縣在籍...

河合義文

從三位勳三等、松江高等学校長、富山縣在籍...

河合良三郎

村山商會代表取締役、東京府在籍...

河相三郎

廣島縣在籍、廣島、石井治郎右衛門長女、明二七、七生...

君は静岡縣人澤木次郎の二男間瀬一郎の兄にして...

河合浪速

信越温泉礦業専務取締役、大日本造園事務所取締役、東京府在籍...

河合博之

從四位勳三等、特命全權公使、ボリランド國駐劄、神奈川縣土族...

河合操

從二位勳一等功三級、陸軍大將、樞密顧問官、大分縣在籍...

河井新耳

ワイシャツ製造業、大阪府土族...

河井浩

森永煉乳専務取締役、東京府土族...

妻 いね 明一三、七生、東京、荒川鐵五郎長女
女 梅子 明三三、二生、東京高女出身
 當家は舊長門國萩藩主毛利家の家臣なり君は先代惣太の長男にして明治六年八月を以て生れ大正元年家督を相續す明治二十九年東京高等商業學校を卒業し鈴木商店に入り後東京製紙電機製造東京石炭等會社の重役たりしが現時森永煉乳會社常務取締役たり弟清(明九、五生)同妻フミ(同一六、四生)山口、士、有田精一(二女)及弟淳(同一七、四生)同妻操(同一八、一五、兵庫、山本五郎長女)は各其子女を伴ひ分家し長女喜久子(同三五、一五)は岡山縣人那須武三郎に嫁し(同一二、一一生)は東京府土族島甲子二に嫁せりA一六〇(東京市外邊谷町宇田川一七)

河井 彌八 正四位勳二等、皇后宮大夫兼侍從次長、靜岡縣在籍
妻 明二一、一〇生、靜岡、鈴木二平女
男 重友 明四三、九生、第六高女出身、日本女大在學
女 アキ 明四三、九生、第六高女出身、日本女大在學
女 なほ 大八、八生、第六高女在學

君は靜岡縣人故衆議院議員河井重藏の長男にして明治十年十月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法政學部を卒業し文官高等考試合格す同四十年貴族院書記官に任ぜられ後同書記官長となる大正十五年内大臣秘書官長に轉じ昭和二年侍從次長兼皇后宮大夫に任ぜられ昭和四年現官に任ぜらるる家族は尙三男泰治(大八、二生)四男興三(同一二七生)弟昇三郎(同一三、一五、法學士、住友製鋼所支配人)同妻高(同一三、一五、貴族院議員伊澤多喜男長女)及其二子あり弟昇二郎(同一二、一五、農學士)は同縣人山崎治郎平の養子となり妹たみ(同一三、一五)は靜岡縣人石岡英太郎に同(同一九、八生)は同縣人農學士結城誠所技師角替利策に長女マサ(同一四〇、九生、跡見女學校東京家政學院専修科出身)は佐賀縣人法學士千葉縣保安課長館林三喜男に嫁せり(東京、麹町、紀尾井町三官舎電九段一八〇一)

河内 幸次郎 ナフトール染料廠取締役、大阪合同、日東染業各廠監査役
妻 大八、一五、生、生母、大阪、今井チ
女 幸子 明三八、一五、生
女 富美子 明四一、三三、生

君は愛知縣人奥村佐助の三男にして明治十年一月を以て生れ先代幸次郎の養子となり二十年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙庶子由子(大六、五生、生母、大阪、今井チ)同妻(同九、七生、生母同上)同功(同一、一〇生、生母同上)同清(同一五、三三、生母同上)あり(大阪、東、南久太郎町二ノ一電場場三〇六六)

河内 照太郎 内子銀行、喜多酒造各廠取締役
妻 愛媛縣在籍
妹 明一五、八生、愛媛、黒川直一郎

河内 信彦 正四位勳二等功三級、陸軍中將東京府士族
妻 安政三、九生、山口、士、岡部庫長女
女 ミチ 明九、二生、山口、士、三浦重輝
女 ミチ 明三〇、一五、生、慶大法科出身
男 信 明三七、四生、長男信雄妻、工學博士中村幸之助長女、雙葉高女出身
男 美 明三四、一〇生、慶大理財科出身
男 樹 明四〇、一五、生、二男適妻、東京、齊藤和女、香蘭女學校出身
男 樹 明三七、一五、生、青山學院高等科出身
男 樹 明四〇、三三、生、東京高等工業學校出身
男 樹 明四二、四生、東京工業大學在學
女 富 明四二、四生、三三、生

君は山口縣土族河内庸平の長男にして慶應二年七月を以て生れ明治三十七年家督を相續す同二十一年陸軍歩兵少尉に任じ大正十年陸軍中將に累進す爾來歩兵第九旅團副官陸軍省人事局陸軍中將司令部歩兵第四十九聯隊長歩兵第二十五旅團長第一師團司令部附等に歷補し同十年豫備役に昭和四年後備役に編入せらるる家族は尙六男正治(大元、九生)孫信幸(同一五、一〇生、長男信

河内 信雄 家主大阪府在籍
妻 慶應二、一〇生、大阪、島吉兵衛女
女 カメ 明四〇、二生、養父龜吉長女
女 マカ子 明四〇、二生、養父龜吉長女
男 龜雄 明四一、一五、生
 君は大阪府人川岸信吉の三男にして明治二十二年十一月を以て生れ先代龜吉の養子となり昭和三年家督を相續す家主たり家族は尙長女恭子(昭二、二生)あり(大阪、港、大正通四ノ一八)

河内 信雄 正四位勳三等功五級、海軍中佐、稅關港務官、神戸稅關港務部長
妻 山口縣士族
女 和子 明一五、一〇生、山口、士、福田亮輔妹
女 長 明四五、二生、山口、士、福田幹輔孫
 君は山口縣土族河北龍水の長男にして明治十一年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十三年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ爾來累進して同中佐に陞る其間日露戰役に出征し大正六年豫備役に編入せらるる同八年稅關港務部長に任じ同十三年稅關港務官に轉任し神戸稅關港務部長に補せられ今日に至る妹ナサメ(明二、二生)は山口縣人松村久七二男清吉に嫁せり(神戸、山本通三丁目稅關官舎電燈合二四六〇)

河内 信雄 百十銀行、大和護謄栽培各廠取締役、山口縣士族
妻 明一、九生、山口、士、揚井清
女 東一郎 明三九、一〇生、生母、山口、岡村タケ

河北 一男 從四位勳三等功五級、海軍中佐、稅關港務官、神戸稅關港務部長
妻 山口縣士族
女 和子 明一五、一〇生、山口、士、福田亮輔妹
女 長 明四五、二生、山口、士、福田幹輔孫
 君は山口縣土族河北龍水の長男にして明治十一年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十三年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ爾來累進して同中佐に陞る其間日露戰役に出征し大正六年豫備役に編入せらるる同八年稅關港務部長に任じ同十三年稅關港務官に轉任し神戸稅關港務部長に補せられ今日に至る妹ナサメ(明二、二生)は山口縣人松村久七二男清吉に嫁せり(神戸、山本通三丁目稅關官舎電燈合二四六〇)

河上 謹一 正六位勳五等、住友銀行、九州製鋼各廠監査役、山口縣士族
妻 弘一 明一九、六生
男 弘一 明一九、六生

君は山口縣土族河上又三郎の長男にして安政三年三月を以て生れ明治十五年家督を相續す同十一年東京帝國大學法政學部を卒業し農商務文部各書記官外務省通商局長上海及紐育駐劄領事東京高等商業學校長等に歴任し退官後實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり(明一七、一〇生)は山口縣土族大野守衛亡直枝の未亡人にして妹タツ(文久二、八生)は法學博士河上肇の母にして二女スミ(明二二、一一生)は東京府人勝守貞二郎弟亮二に嫁し二男大三(同二六、一一生)は分家せり(神戸、西須磨下二丁所六電須磨六一)

河上 邦彦 橫濱商工會議所副會頭、橫濱船渠稅關港務會會長、橫濱新港倉庫總取
妻 山口縣士族
女 明一、一〇生、山口、佐伯勝太郎
女 明二、一〇生、山口、佐伯勝太郎

君は山口縣土族河上逸の長男にして明治二年一月を以て生れ同三十四年家督を相續す同二十七年東京帝國大學工學部機械科を卒業し現時前記諸會社の重役たり推されて橫濱商工會議所副會頭にして義に日本郵船會社理事たり(東京市外大崎町下大崎七九電高輪四四五)

河上 哲太 正五位勳四等、衆議院議員(愛媛縣選出)、愛媛縣在籍
妻 大二、三生
男 眞通 大二、三生

君は愛媛縣人河上節太郎の長男にして明治十四年十月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し義に國民新聞經濟部長たりし事あり大正六年以來衆議院議員に當選する事五回現に立憲

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

君は東京府士族河上房申の長男にして明治十八年二月を以て生れ同三十三年家督を相續す同四十四年東京帝國大學農學部を卒業し大正五年專賣局技師となり高崎水戸支局製造課長宇都宮地方專賣局製造課長等を經て昭和二年東京地方專賣局勤務を命ぜられ現時東京地方專賣局澁橋工場製造掛長たり家族は尙二女頼子(大

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

河内 幸次郎 ナフトール染料廠取締役、大阪合同、日東染業各廠監査役
妻 大八、一五、生、生母、大阪、今井チ
女 幸子 明三八、一五、生
女 富美子 明四一、三三、生

君は愛知縣人奥村佐助の三男にして明治十年一月を以て生れ先代幸次郎の養子となり二十年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙庶子由子(大六、五生、生母、大阪、今井チ)同妻(同九、七生、生母同上)同功(同一、一〇生、生母同上)同清(同一五、三三、生母同上)あり(大阪、東、南久太郎町二ノ一電場場三〇六六)

河内 照太郎 内子銀行、喜多酒造各廠取締役
妻 愛媛縣在籍
妹 明一五、八生、愛媛、黒川直一郎

河内 信彦 正四位勳二等功三級、陸軍中將東京府士族
妻 安政三、九生、山口、士、岡部庫長女
女 ミチ 明九、二生、山口、士、三浦重輝
女 ミチ 明三〇、一五、生、慶大法科出身
男 信 明三七、四生、長男信雄妻、工學博士中村幸之助長女、雙葉高女出身
男 美 明三四、一〇生、慶大理財科出身
男 樹 明四〇、一五、生、二男適妻、東京、齊藤和女、香蘭女學校出身
男 樹 明三七、一五、生、青山學院高等科出身
男 樹 明四〇、三三、生、東京高等工業學校出身
男 樹 明四二、四生、東京工業大學在學
女 富 明四二、四生、三三、生

君は山口縣土族河内庸平の長男にして慶應二年七月を以て生れ明治三十七年家督を相續す同二十一年陸軍歩兵少尉に任じ大正十年陸軍中將に累進す爾來歩兵第九旅團副官陸軍省人事局陸軍中將司令部歩兵第四十九聯隊長歩兵第二十五旅團長第一師團司令部附等に歷補し同十年豫備役に昭和四年後備役に編入せらるる家族は尙六男正治(大元、九生)孫信幸(同一五、一〇生、長男信

河内 信雄 家主大阪府在籍
妻 慶應二、一〇生、大阪、島吉兵衛女
女 カメ 明四〇、二生、養父龜吉長女
女 マカ子 明四〇、二生、養父龜吉長女
男 龜雄 明四一、一五、生
 君は大阪府人川岸信吉の三男にして明治二十二年十一月を以て生れ先代龜吉の養子となり昭和三年家督を相續す家主たり家族は尙長女恭子(昭二、二生)あり(大阪、港、大正通四ノ一八)

河内 信雄 正四位勳三等功五級、海軍中佐、稅關港務官、神戸稅關港務部長
妻 山口縣士族
女 和子 明一五、一〇生、山口、士、福田亮輔妹
女 長 明四五、二生、山口、士、福田幹輔孫
 君は山口縣土族河北龍水の長男にして明治十一年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十三年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ爾來累進して同中佐に陞る其間日露戰役に出征し大正六年豫備役に編入せらるる同八年稅關港務部長に任じ同十三年稅關港務官に轉任し神戸稅關港務部長に補せられ今日に至る妹ナサメ(明二、二生)は山口縣人松村久七二男清吉に嫁せり(神戸、山本通三丁目稅關官舎電燈合二四六〇)

河内 信雄 百十銀行、大和護謄栽培各廠取締役、山口縣士族
妻 明一、九生、山口、士、揚井清
女 東一郎 明三九、一〇生、生母、山口、岡村タケ

河北 一男 從四位勳三等功五級、海軍中佐、稅關港務官、神戸稅關港務部長
妻 山口縣士族
女 和子 明一五、一〇生、山口、士、福田亮輔妹
女 長 明四五、二生、山口、士、福田幹輔孫
 君は山口縣土族河北龍水の長男にして明治十一年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十三年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ爾來累進して同中佐に陞る其間日露戰役に出征し大正六年豫備役に編入せらるる同八年稅關港務部長に任じ同十三年稅關港務官に轉任し神戸稅關港務部長に補せられ今日に至る妹ナサメ(明二、二生)は山口縣人松村久七二男清吉に嫁せり(神戸、山本通三丁目稅關官舎電燈合二四六〇)

河上 謹一 正六位勳五等、住友銀行、九州製鋼各廠監査役、山口縣士族
妻 弘一 明一九、六生
男 弘一 明一九、六生

君は山口縣土族河上又三郎の長男にして安政三年三月を以て生れ明治十五年家督を相續す同十一年東京帝國大學法政學部を卒業し農商務文部各書記官外務省通商局長上海及紐育駐劄領事東京高等商業學校長等に歴任し退官後實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり(明一七、一〇生)は山口縣土族大野守衛亡直枝の未亡人にして妹タツ(文久二、八生)は法學博士河上肇の母にして二女スミ(明二二、一一生)は東京府人勝守貞二郎弟亮二に嫁し二男大三(同二六、一一生)は分家せり(神戸、西須磨下二丁所六電須磨六一)

河上 邦彦 橫濱商工會議所副會頭、橫濱船渠稅關港務會會長、橫濱新港倉庫總取
妻 山口縣士族
女 明一、一〇生、山口、佐伯勝太郎
女 明二、一〇生、山口、佐伯勝太郎

君は山口縣土族河上逸の長男にして明治二年一月を以て生れ同三十四年家督を相續す同二十七年東京帝國大學工學部機械科を卒業し現時前記諸會社の重役たり推されて橫濱商工會議所副會頭にして義に日本郵船會社理事たり(東京市外大崎町下大崎七九電高輪四四五)

河上 哲太 正五位勳四等、衆議院議員(愛媛縣選出)、愛媛縣在籍
妻 大二、三生
男 眞通 大二、三生

君は愛媛縣人河上節太郎の長男にして明治十四年十月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し義に國民新聞經濟部長たりし事あり大正六年以來衆議院議員に當選する事五回現に立憲

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

君は東京府士族河上房申の長男にして明治十八年二月を以て生れ同三十三年家督を相續す同四十四年東京帝國大學農學部を卒業し大正五年專賣局技師となり高崎水戸支局製造課長宇都宮地方專賣局製造課長等を經て昭和二年東京地方專賣局勤務を命ぜられ現時東京地方專賣局澁橋工場製造掛長たり家族は尙二女頼子(大

河上 春生 從五位勳五等、專賣局技師、東京地方專賣局澁橋工場製造掛長
妻 東京府士族
女 英 安政四、五生、東京、士、武笠清太郎姉
女 光子 明二二、九生、男爵關義壽妹

年来使來つて互市を請ふや迪齋即ち條約文を草す同二年秋二百俵を賜はり同六年長進す著はす所甚だ多く書經解南征日記最も顯はる長子無嗣子なし末弟休家を嗣ぐ氏に内務省に出仕同縣治局府縣課長となり爾來果進して臨時建築局事務官貴族院書記官速記課長通信書記官電信燈臺用品製造所長通信大臣秘書官等に歴任し明治三十六年東京郵信局長に任ぜられ東京市長に就き同四十四年を以て退き亦詩文に長ぜり同四十四年東京帝國大學法政學科を卒業在學中同監督官大藏大臣秘書官大藏書記官となり大正三年英佛駐在財務官附を命ぜられ大正五年末歸朝主計局長兼算決課長主計局長等を經て昭和四年大藏次官に任ぜられ今日に至る家族は尙弟三(明二、一、生、林學士)同黨(同三、一、生、農學士)あり同族(同九、一、生、理學士)は東京府人山川操の後を嗣ぎ同族(同三、一、生、東京美術出身)は同府人故染木兼吉の家を相續し妹衣子(同二、八、一、生、府立第三高等女出身)は宮城縣人高橋勝五郎三男法學士平吉に嫁せり(東京、四谷、車道町二八電四谷三三〇) 參照河田田杰の項

河津清兵衛

從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中尉、愛知縣多額納稅者 愛知縣在籍

河津 暹

從三位勳二等、法學博士、東京帝國大學教授、經濟學部勤務、專修大學學監、東京府士族 明二〇、八、生、東京、神田金樹妹 妻 英芝 御茶の水高女出身

君は愛知縣人先代清兵衛、一男にして明治十五年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す愛知縣多額納稅者にして兼て河津合名會社代表社員たり家族は尙弟三(明一七、四、生)同妻たま子(同二四、七、生、愛知、寺本一史妹)及其一男三女あり妹鈴子(同三三、一、生)は愛知縣人兼松寅之助養子正名に嫁せり(名古屋、中、旅籠町二四電南二〇三)

君は東京府士族河津清之の長男にして明治八年一月を以て生れ同二十七年家督を相續し大正六年本家伯父祐賢の家を繼ぎ明治三十二年東京帝國大學法政學科を卒業し更に大學院に進み同三十四年英國兩國に留學し經濟學を専攻す同年東京帝國大學法政學科大學助教授に任じ同三十七年歸朝す同四十年法學博士の學位を受け教授に進み現に經濟學部勤務にして傍ら専修大學等二三の私立大學に出づ同四十五年歐米各國に出張仰付けらるる家族は尙三男武邦(大六、六、生)四男祐元(同八、二、生)五男祐光(同二〇、一〇、生)亡伯父祐賢妻ま(慶應二、一〇、生、東京、吉田錦太郎妹)あり異母弟益雄(明一六、一、生、法學士)同妻萬里(同三〇、一〇、生、山形安達一郎二女、學習院女學部出身)は其子女を伴ひ其生家河津氏を嗣ぐ(東京市外葛村喜多見成城一三二七電碓一六九) 參照安達一郎男爵高木喜寬武富敏彦武豊川 順彌の項

河津 政吉

大阪府在籍 材木商 大阪府在籍

君は大阪府人河津熊次郎の三男にして明治九年八月を以て生れ大正九年家督を相續す材木商を營む家族は尙三男正三郎(大元、一〇、生)四男貞夫(同七、二、生)あり妹ワ(明一二、八、生)は大阪府人河津喜三郎の養子となり姪ツル(同三〇、二、生)は分家せりA二二三六B一六二(大阪、南、瓦屋町二番町五四) 參照河手拾二の項

河手 拾二

三妻 妻 五い 明二三、五、生、長野、松島中助三女

支店長石炭部長等を経て現時前記各會社の重役たり家族は尙弟恒三(明一三、一〇、生)同妻ワ(同二四、一、生、熊本、藏原惟平四女)及其二子妹朝尾(同二一、八、生)あり(東京、小石川、白山御殿町一三三電小石川二四五八)

河出 静一郎

成美堂、出版業 慶應三、八、生、三重、丹羽九右衛門 門妹 明四〇、二、生、東京府立第三高等女出身

君は岐阜縣人河出八兵衛の三男にして安政四年二月を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す出版業を營み成美堂として知らるる家族は尙孫文雄(大八、三、生、藤原養子彌太郎二男)同澄子(同四、一、生、同三女)同宣子(昭三、二、生、同四女)あり(東京、日本橋、箱屋町一四電日本橋二七七七) 參照河東田經清の項

河東田 經清

日東工業社社長 東京府士族

君は舊仙臺藩士河東田法經の長男にして明治九年九月を以て生れ同十九年家督を相續す夙に英吉利法律學校に學び故日本銀行總裁富田鐵之助の知遇を受け日本郵船會社に入り外國航路船の事務長となり後第三銀行に轉じ庶務課長横濱支店長に進み北海道拓殖銀行富士製紙ニテ鐵工日本石油金剛山電氣東洋電氣萬壽生命保險日本絹布各會社の重役に擧げらる現時日東工業會社長たり家族は尙三男順(大元、一、生)四女敦子(同七、一、生)あり長女清子(明三三、七、生)は男爵關義壽に二女静子(同三四、一〇、生、學習院女學部出身)は東京府人醫學博士渡邊定に嫁せり(東京市外澁谷町櫻丘九五電青山二九二) 參照男爵關義壽の項

河波 荒次郎

衆議院議員(福岡縣選出)、農業 福岡縣在籍

君は福岡縣人河波宗五郎の長男にして慶應元年八月を以て生れ明治十八年家督を相續す夙に同志社を同二十一年早稻田大學法政學科を卒業し現に農業を營み選ばれて衆議院議員たり家族は尙孫壽々枝(大一一、五、三、生、三男孝夫長女)同瑞枝(昭二、一、生、同二女)同一彦(同五、七、生、同長男)あり弟侃爾(明四、一、生)同妻アサ(同元、一、生、福岡、太田與四郎妹)は其子女を伴ひ分家し妹キヨ(同二、一、生)は福岡縣人山上清輔弟茂樹に同シズ(同二〇、二、生)は同縣人内田九三郎に二女(同三、四、三、生)は同縣人田中秀穂に養妹ハナ(同元、七、生、福岡、高野イセ長女)は同縣士族占部謙吉に嫁せり(福岡市南中洲電二七〇五)

河南 鶴之助

西宮酒造廠常務取締役 兵庫縣在籍

君は兵庫縣人河南與兵衛の二男にして慶應元年十月を以て生れ明治四十二年分れて一家を創立す現時西宮酒造會社常務取締役たり養子丑松(明三一、一、生、大阪、高須藤吉六男)は其妻、な(同三〇、二、生、大阪、近成廣之助長女)及其二女を伴ひ分家せりA一〇〇〇(西宮、濱松原三五電西宮五九七)

河西 惟一

正四位勳二等功四級、陸軍中將 長野縣在籍

君は長野縣人河西東雄の二男同東一の叔父なり明治八年二月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同二十九年陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉に任じ大正十三年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し參謀本部員兼陸軍大學校教官近衛少將第三聯隊附陸軍省人事局課員同人事局補任課長第三十三聯隊長歩兵第八旅團長陸軍士官學校校長等に歴補し大正十三年豫備役編入仰付らる日露戰役は乃木軍參謀となり世界戰爭には歩兵第三十三聯隊長として又歐洲に出張を命ぜられし事あり家族は尙三男三郎(大四、一〇、生)孫

和泉(昭四、一、生、長男太郎長男)あり長女和氣子(明三九、一〇、生)は和歌山縣人花木梅吉三男盛彦に嫁し二男次郎(同四二、一、生)は外祖父殿井隆興の養子となり(東京市外落合町下落合二九九) 參照河西東一の項

河西 三九郎

日本化學工業專務取締役、東洋 衆議院議員(山梨縣選出)、東京電 東京發信電報社社長、東京電 東京電力、昭和電力、各電氣、東京 山梨貯蓄銀行、富士山土地、富士 山梨電氣鐵道各監査役 山梨縣在籍

君は山梨縣人河西兵衛の四男にして當主豐太郎の弟なり明治十四年四月を以て生れ同三十八年東京帝國大學法政學科を卒業し住友銀行に勤務す現時日本化學工業專務取締役にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙三女利子(大九、一、生)二男乾二(同二、三、生)四女貞子(同四、一、生)ありA七八三(東京、四谷、南町八電四谷三三〇) 參照小川清、河西豐太郎次女和親の項

河西 善兵衛

兵庫縣多額納稅者、河西善商店、 兵庫縣在籍

君は兵庫縣人先代善兵衛の長男にして明治九年三月を以て生れ大正三年家督を相續し前名貞信を改め善名す會て糖具染料商を營みしも現時糖具染料商河西善商店を經營し兵庫縣多額納稅者たり家族は尙孫敏子(大一一、一〇、生、養子律雄長女)あり叔父龜藏(慶應三、四、生)は神奈川縣人清宮ヤスの入夫となれり(神戸、榮町通三ノ三六電三宮二六八) 參照三宮野榮介の項

河西 東一

東京電燈會社社員 長野縣在籍

明八、九、生、山口、土、佐藤謙之助妹

君は長野縣人河西健次の長男同惟一の男にして明治三十四年十月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正十五年東京帝國大學法政學科を卒業し現時東京電燈會社員たり家族は尙弟守雄(明四〇、三、生)ありA一二七二(東京市外落合町下落合二九九) 參照河西惟一の項

河西 豐太郎

衆議院議員(山梨縣選出)、東京電 東京發信電報社社長、東京電 東京電力、昭和電力、各電氣、東京 山梨貯蓄銀行、富士山土地、富士 山梨電氣鐵道各監査役 山梨縣在籍

君は山梨縣人河西兵衛の二男にして同三九郎の兄なり明治七年二月を以て生れ同十八年家督を相續す現時東京電燈會社關東瓦斯會社社長たる傍ら前記銀行會社の重役に任じ又推されて衆議院議員に當選すること三回現に其任にあり家族は尙弟寛一郎(明九、七、生、京都工商會社取締役、寶商會社、直輸出入業)同妻と(同二二、五、生、山梨、市川文藏四女)及其子女あり(同二五、一〇、生)は同縣人河西兵衛に二女嘉惠(同三〇、三、生)は同縣人矢野新三長四男市之助に三女清子(同三二、七、生)は同縣人金丸傳四郎養子二郎に四女時子(同三四、三、生)は同縣人松谷謙郎長男進に五女澁江(同三五、五、生)は同縣人三三七三郎長男五郎に嫁せり(東京市外大久保町西大久保二八七電四谷五五五一) 參照市川文藏、大木親雄、河西三九郎の項

妻 ナリエ 明五、五生、坂本昌照二女
男 通良 明四〇、一一生、長男通良妻、京
女 正子 大元、九生

君は岡山縣人河野平二の二男にして元治元年二月を生て生れ明治三十五年兄孫太郎より分れて一家を創立す風司法省法學校を卒業し同二十一年判事登用試験に合格判事に任ぜられ大分地方裁判所判事たりしが同三十五年之を辭し辯護士を開業し今日に至る傍ら前記銀行會社の重役にして推されて大分辯護士會長に擧げらるる義に大分市會議員同議長たり家族は尙ほ孫通昭(昭三、一一生、長男通良長男) 同通敏(昭五、六生、昭二男)あり二女信子(昭二五、八生)は大分縣人矢野新二男醫學士彌十に三女富子(昭二八、八生)は福井縣人帝國製糖會社取締役小畑勇吉に四女節子(昭三五、四生)は大分縣人商科下村馬淵義夫に五女勝子(昭三七、五生)は同縣人法學士小林利一に嫁せり(大分市大分四五〇)

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

君は岐縣人陸軍騎兵大佐河野春庵の三男にして明治十九年一月を以て生れる同三十八年陸軍士官學校を卒業し同三十九年陸軍騎兵少尉に任じ大正五年同大尉に進む同八年宮内技師に任ぜられ現に調馬師として主馬寮勤務たり家族は尙ほ四女慶子(昭一三、三男昭(昭二、陸軍騎兵中佐)同妻イタク(愛媛、村上宗治姉)同健壽(昭一九、九生、陸軍騎兵中佐)同妻コトシエ(昭二二、三男、兵庫、川田謙二長女)及其子女弟健六(昭二五、一一生)七弟陸軍騎兵少佐健吾妻しけ(昭三一、八生、靜岡、鈴木金平長女)及其子女弟健雄(昭二七、五生、工學士、陸軍工兵少佐)同妻コト(昭三八、一一生、栃木

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

君は愛媛縣人河野喜太郎の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治三十八年家督を相續す現に河野製糖工業株式會社代表社員及株式會社取締役社長兼會社河野製糖店代表社員たり家族は尙ほ六男寅吉(昭四四、一一生)七男貞吉(昭七一、一一生)孫長治郎(昭六六、一一生、長男福太郎男)同恭子(昭一五、一一生、同四女)同辰子(昭三三、一一生)同五女(昭四五、二生、同六女)伯母ミツ(天保一、四生)あり二男林治郎(昭三七、一一生)は分家し妹ヤス(昭二〇、四生)は愛媛縣人野本吉兵衛弟男に嫁せり(昭五八八八)愛媛、喜多、大洲町

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

君は長崎縣人河野西田貞政の二男にして萬延元年一月を以て生れ先代秋景の養子となり明治十六年家督を相續す現時肥前銀行専務取締役に任じ義に西海銀行取締役たり長男秋郷(昭一三、一一生)は同妻カガ(昭一九、三生、長崎、土、小中直臣二女)を伴ひ分家し(昭二一、三三)も亦分家し長女タケチ(昭一九、七生)は福岡縣人猪股十七八に孫郷(昭四〇、五生、長男秋郷長女)は長崎縣人山本富樹に妹トヨ(昭元、一〇生)は同縣人古賀徳治に同トヨ(昭四、七生)は同縣人赤山重藏に嫁し孫秋千代(昭二、三三、長男秋郷二男)は前記秋夫の養子となれり(長崎、南高來、安中村)

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

河野 健秀 從五位勳四等、陸軍騎兵大尉、宮内技師、調馬師、主馬寮勤務
父 春庵 安政四、一一生、現戶主
母 辰子 明二五、一一生、東京、土、中村忠太四女、山脇高女出身

河野 恒三 東京銀行主計課長兼計算課長
妻 八重 明二五、二生、神奈川、二宮豐藏二女

河野 道繼 肥前銀行専務取締役
妻 ヨハル 明九、一一生、長崎、田浦敷二養子

家セリA二七〇〇(京都、左京、聖護院西入ル六電上二二九四)

河邊 三郎 男爵

當家は藤原鎌足の弟御食子大連の後裔なり四十三世を經て教長に至る世々伊勢神宮の大宮司たり先代博長に至り明治十七年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる明宮祇候青山御所祇候被仰付又貴族院議員に當選せり君は先代博長の庶子にして伯爵萬里小路通房の甥子爵森俊成の從弟なり大正二年七月を以て生れ昭和五年襲爵被仰付家族は尙弟治雄(大正、五生)同博雄(同八、四生)妹文子(同三、一生)弟秀雄(同五、三生)あり姉保子(明三九、二生)は東京府人陸軍歩兵大佐杉村鳳簡の養子となれり(東京市外代々橋町橋ヶ谷三三四)

河邊 久雄

君は長野縣人降旗力藏の三男にして明治十二年五月を以て生れ同三十九年先代小靜の入夫となり家督を相續す同年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同四十二年判事に任じ爾來高田區熊谷區浦和區東京區大阪地方各裁判所判事大阪東京各地方裁判所部長大正十三年大審院判事に任じ昭和二年現職東京控訴院部長に補せらる其間高等試験委員を囑託せらる昭和三年ベルギー條約改訂會議帝國委員顧問として羅馬に出張す民法改正委員會幹事を囑託せらる公務の餘暇中央大學明治大學日本大學法政專門學校に講師たり著書として『國際私法論』『親族法講義』等あり(東京市外代々橋町原宿二〇四電青山六六六)

河邊 益次郎

中屋本店、空場商
東京府在籍
妻 小 静 明一三、一〇生、長野、堀内東吾
妻 小 静 明一三、一〇生、長野、堀内東吾
妻 小 静 明一三、一〇生、長野、堀内東吾

河村 信一

正五位勳五等、第八高等學校教授
京都府土族
妻 初江 明二四、四生、石川、村田重治長
女 二子 大五、六生

河村 清兵衛

三重縣多額納稅者、合同電氣、志摩電氣鐵道各取締役、醬油醸造業、三重縣在籍
妻 清之助 明三九、八生
女 好 明四五、一生

河村 曉

工學博士、三菱製鐵、東京鋼材各取締役、日本鐵鋼協會理事
妻 明一九、一生、山形、穴澤清藏妹

河村 徹

臺灣日日新報社長兼專務取締役
東京府在籍

女 モト子 大元、二生
女 よれ子 大四、一生

河村 嘉一郎

君は佐賀縣土族河村藤四郎の長男にして明治十八年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記會社の重役にして兼に唐津製鐵會社社長の外唐津銀行唐津製鐵會社の重役たりし事あり家族は尙長女茂子(大六、二生)二女豐子(同九、一生)三女昌子(同二、七生)四女昭子(同四、九生)弟第二郎(同二、四、六生)同妻桃枝(同二、九、二生、醫學博士井上通泰長女)及其子女あり長女壽美(同三一、三生)は東京府人西川鐵次郎養子榮祐に二女藤枝(同三六、九生)は同府人萩島藤枝に嫁せり(佐賀、東松浦、唐津町)

河村 金五郎

從三位勳二等、日本郵船、近海郵船各取締役、東京府土族
妻 松 安政元、一生、岡山、河村量長女
妻 松 明三、七生、子爵松七郎叔母
妻 松 明三五、四生、慶大法學部出身、三妻銀行員
妻 松 明三五、四生、慶大法學部出身、三妻銀行員

河村 唯輔

宇都宮市議員、宇都電氣鐵道、宇都鐵工所各取締役、酒造業
妻 昌子 大七、八生
女 誠 二七、二生

河村 徹

臺灣日日新報社長兼專務取締役
東京府在籍

河村 利次郎

萬延元、三生、東京、辻米次郎二女
妻 カツ 明二七、八生、北海道、桑折京三
妻 カツ 明二七、八生、北海道、桑折京三

河村 國助

勳七等、鎮南浦商會會議所副會頭
石炭商、山口縣在籍
妻 邦夫 明四三、九生

河村 靜水

正五位勳四等、朝鮮總督府檢事、釜山地方法院檢事正、山口縣土族
妻 靜子 明一四、五生、養父貫一長女
妻 廉平 明三六、五生、長女明子夫、山口
妻 廉平 明三六、五生、長女明子夫、山口

を以て生れ大正四年家督を相続す同三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し爾來東京朝鮮鮮本に於て辯護士を開業せしが同七年檢事に任じ旭川地方同區裁判所檢事を經て同八年臺灣總督府法院檢察官に轉じ臺南臺中各地方法院檢察官臺南地方法院檢察官に轉じ臺南廳補正現時臺北地方法院新竹支部檢察官たり家族は尙二男元邦(六一〇、一一生)あり(臺灣、新竹市)

菅野五郎治

百一銀行取締役、農業
福島縣在籍
妻 明一、一、生、福島、渡邊彌七叔
母 明三、五、五、生
男 英助 明四〇、一、生、長男英助妻、福島
女 ミツエ 明四〇、一、生、長男英助妻、福島
弟 明四〇、四、生

君は福島縣人先代五郎治の長男にして明治七年三月を以て生れ大正十年家督を相続し前名嘉助を改め襲名す農業を營み傍ら百一銀行取締役に任じ福島縣多額納税者たりし事あり家族は尙五男(六一八、一一生)孫律子(昭三、一一生、長男英助長女)あり四男恒助(明四四、五、生)は福島縣人菅野清助の養子となり弟清助(同一〇、一、生)同妻トキ(同一二、九、生、福島、渡邊喜之助長女)は共に分家し長女ヤス(同三二、四、生)同夫理助(同一九、五、生、工學士)も亦共に分家せり(福島、伊達、榮川町)
參照 渡邊彌七の項

菅野留次郎

扶野合同運送、喜多方合同運送各務取締役社長、本宮合同運送運送專務取締役、會陽製絲二本松工場監査役、福島縣在籍
妻 明一、一、二、生、新潟、設樂爲藏
男 與一 明三六、二、生
女 サタ 明三六、三、生、長男與一妻、福島
弟 薄井龜三郎四女
妻 盛 明二六、六、生、長女タケ夫、福島
女 タケケ 明三一、一、二、生、養子盛妻
君は福島縣人菅野與三郎の三男にして明治元年九月を以て生れ大正六年甥子の松方より分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役たり家族は尙孫佐和(昭三、一、生、長男與一長女)同キヨ(大七、一、一、生、養子盛妻長女)同キヨ(同九、九、生、同二女)同勉(同一一、九、生、同長男)同敏夫(昭二、一、生、同三男)あり(福島、安達本宮町)

女 同キヨ(同九、九、生、同二女)同勉(同一一、九、生、同長男)同敏夫(昭二、一、生、同三男)あり(福島、安達本宮町)

菅野與惣治

三井物産業務課參事
東京府在籍
妻 サメ 明二九、一、二、生、岩手、遠藤政直
君は岩手縣人菅野忠之助の二男にして明治十年一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治三十二年東京高等商業學校を卒業し三井物産會社に入り現に同社業務課參事たり(東京、小石川、原町一〇電小石川八六八)
參照 遠藤政直の項

勘解由小路資淳

子爵
舊公卿家
妻 豐子 明元、八、生、伯爵副島道正姉
當家は權大納言鳥丸光廣の第二子參議資忠の後なり資忠別に一家をなし勘解由小路と稱す夫より七世を經て資生に至り明治十七年子爵を授けらる先代資承は其孫にして宮内省出仕明宮祇候東宮侍從貴族院議員等に歴任せり君其後を承く君實は山口縣人松村義一の二男にして大正十一年一月を以て生れ子爵武者小路公共弟實篤の養子となり同十四年外祖父資承の後を相続し前名淳二を改め襲爵仰付らる叔父光生(明二六、一、一、生)は分家し伯爵(同二二、九、生)は實業家志賀直温長男小説家直哉に大叔母富子(同一二、三、生)は子爵武者小路寺長先代實世に同立子(安政三、一〇、生)は伯爵甘露寺受長先代實世に同立子(慶應二、五、生)は男爵川口武和先代武定に同立子(明元、七、生)は伯爵鳥丸光大先代光亨に嫁し先代表承二女好子(同二二、四、生)は貴族院議員松村義一に嫁し君の實母たり(東京市外大久保町西大久保南裏四四八松村義一方)
參照 伯爵鳥丸光大、伯爵甘露寺受長、伯爵副島道正、男爵川口武和、松村義一、武者小路實篤、男爵周布兼道子爵千種有秀收産七の項

漢那憲和

從四位勳二等功五級、海軍少將、參議院議員(沖繩縣選出)
神戶縣在籍
妻 オト 安政六、九、生、沖繩、那覇正光長
女 安政六、九、生、沖繩、那覇正光長

妻 ます子 明二五、二、生、侯爵尙裕大叔母
女 幸子 大四、九、生
君は沖繩縣士族漢那憲和の長男にして明治十年九月を以て生れ同三十五年祖父憲和の後を承け家督を相続す同三十四年海軍少尉に任じ累進して海軍少將に陞る其間金剛濟遠各航海長警手分隊長として職役に従ひ軍令部參謀兼海軍大學校教官對馬艦長海軍々令部參謀兼取扶桑伊勢各艦長橫須賀防備隊司令兼海軍艦政本部技術會議々員等に歴補す昭和三年沖繩縣より推されて衆議院議員に當選し同五年再選せられ現に其任に在り立憲民政黨に屬す家族は尙二女喜子(大九、九、生)三女百合子(同一四、八、生)四女敏(昭四、七、生)あり(東京、小石川、水道端町二ノ六四)
參照 侯爵尙裕大叔母尙順尙順尙琳の項

簡牛九夫

從五位、衆議院議員(福岡縣選出)
大藏大臣秘書官、福岡縣在籍
父 俊介 元治元、一、一、生、現戶主
母 キラ 明五、一〇、生、福岡、波多江貞右衛門養子
妻 ちか 明二六、一、二、生、神奈川、木田り
君は福岡縣人簡牛俊介の長男にして明治二十七年一月を以て生れ大正九年早稻田大學政治經濟科を卒業し同十二年獨逸に留學昭和二年歸朝後農林省通信官等に囑託として勤務し同五年郷黨より推されて衆議院議員に當選し立憲民政黨所屬にして現時大藏大臣秘書官たり家族は尙弟耕三郎(明三〇、八、生)同妻イヅ(同三二、一一、生、群馬、青木孫太郎長女)妹ツヅ(同三八、八、生)弟後藏(同四三、一一、生)あり妹ワヲ(同三三、三、生)は福岡縣人柴田良一に同セツ(同三五、一〇、生)は同縣人福田喜四郎に嫁し弟正人(同二二、七、生)は前記田り其藏長男平吉に嫁し弟正太郎(文久二、三、生)同妻スミツの養子となり大叔父松太郎(文久二、三、生)同妻スミ(慶應二、一一、生、福岡、富田徳七四女)は共に分家せり(東京、龜町、永田町一ノ二一)

簡野道明

從五位勳六等、著述家
東京府士族
妻 ノブエ 元治元、四、生、愛媛、今井賢姉
男 高明 明三八、二、生
女 しげ 明四三、七、生、二男高明妻、滋賀竹内喜之助二女

君は愛媛縣士族簡野義任の長男にして慶應元年四月を以て生れ明治三十四年家督を相続す凡に吉田藩學文武館に入りて漢學を専攻し多年東京女子高等師範學校の教授に任ず辭職後或は支那に遊びて彼地の碩學と交り古書を採集して史蹟並に名勝を探討し斯學の振興に貢獻す著書十數種あり其編纂する所の漢文讀本は殆ど全國中等程度學校の教科書として採用せられ外「字源」「論語解義」「唐詩選詳説」の三書は最も廣く世に行はる家族は尙孫學義(大六、一一、生、長男啓長男)同典子(昭三、一〇、生、二男高明長女)あり長男啓(明二三、三、生)は其妻光(同二七、一〇、生、京都今村哲二郎從妹)と共に弟香三(同六、一一、生)同妻ノブ(同六、一一、生、愛媛、近田佐久馬姉)は其子女を從(四女女子(同四〇、一〇、生)は其夫信行(同三七、一一、生、東京、渡邊温竹四男)に隨ひ各分家し三女よし(同三三、四、生)は東京府人山口文太郎二男萬次郎に嫁し(同四、一一、生)は大阪府人小野木喜三郎に二女須貞(同三〇、四、生)は山梨縣人醫學博士神山能實留に嫁せり(東京、小石川、白山御殿町一〇七電小石川一〇六二)
參照 神山能實留の項

勸修寺經雄

從三位、伯爵
舊公卿家
母 玉子 安政四、六、生、愛知、土、小笠原長淡妹
當家は藤原鎌足七代の孫内舍人良門の子内大臣高藤の後にして高藤の時より勸修寺と稱す夫より十四世權中納言勸修寺經後より二十五代を經て先代顯允に至り明治十七年伯爵を授けらる顯允に軍籍に入り西南日清兩役共に軍功あり後貴族院議員に擧げらる君は其長男にして明治十五年四月を以て生れ同三十三年家督を繼ぎ襲爵す義に掌典に任ぜられ後貴族院議員に當選せしも現時閑地に在り弟末雄(明三三、一、生)は京都府人小谷とよの入夫となれり(京都、上京、衣棚橋木町下ル今樂屋町三一五電上六〇四)

觀世元滋

觀世宗家、能樂師
東京府士族
妻 明二、六、生、愛知、青山吉右衛門長女
女 明三六、二、生、京都、杉浦治郎右衛門養子
當家は能樂觀世流の宗家にして其始祖觀世清次に始ま

冠權四郎 地主
東京府在籍
妻 まき 同二八、五、生、東京、佐々木延養
養子 重安 明二八、五、生、東京、佐々木延養
君は東京府人先代權四郎の長男にして慶應元年一月を以て生れ明治二十九年家督を相続し襲名して前名安之助を改む地主たり家族は尙孫政子(大一一、二、生、養子重安長女)同權一郎(同一四、一、生、同長男)同幸二郎(昭四、七、生、同二男)あり二女みち(明二四、七、生)は東京府人内山平三郎に三女久子(同三八、九、生)は同縣人田宮惣左衛門に嫁し(文久二、二、生)は同府人木村龜之助に嫁し六男英(明三七、九、生)は分家し四男安三郎(同三〇、七、生)は同府人柳倉次郎に五男延(同三六、四、生)は同府人佐々木重安に各養子となれり(東京市外日暮里町二五一電下谷六五九二)
參照 内山平三郎、田宮惣左衛門の項

キ之部

木内 榮司

第十九銀行 常務取締役
長野縣在籍

妻 まつ 明一七、六生、長野、岡部次郎長

男 武夫 昭四、六生

君は長野縣人木内儀三郎の長男にして明治五年十二月を以て生れ同四十二年家督を相續す現に第十九銀行常務取締役に在り兼に諏訪倉庫會社取締役たり家族は尙長女みよ(大九、五生)あり養子花枝(明四二、三生)長野、市川與平妹)同夫清(同三三、五生、長野、木内五郎二男)は分家せり(長野、南佐久、大澤村)

木内喜右衛門

正五位勳五等、千葉縣多額納稅者
安政四、一、二生、千葉、藤崎忠義

妻 はるの 明一八、一、一、鳥取、桑田熊藏妹

男 保定 明四三、六生

君は千葉縣人先代喜右衛門の長男にして明治十年十一月を以て生れ同十九年家督を相續し前名庫太を改め襲名す同三十七年東京帝國大學文部大學哲學科を卒業し東京府立第三中學校教諭を経て大正九年東京音樂學校教授に任じ同校生徒主事兼教授たりし昭和六年之を辭し現時閑居に在り直接國稅一千六十八圓を納め千葉縣多額納稅者たり家族は尙二男連作(大三、六生)三男信敬(同六、一、一、生)四男知美(同九、七生)長女斐子(同二五、一〇生)あり妹こゝろ(明一三、六生)は千葉縣人茂木順三郎叔父新三郎に同(同二一、一、一、生)は茨城縣人濱平右衛門に同(同二一、一、一、五生)は鳥取縣人桑田芳藏に同(同二九、三、三)は徳島縣人寺澤巖男に嫁せり(東京、本郷、駒込追分町三一電小石川一〇九三)

木内 五助

從五位、司稅官、大津稅務署長
長野縣在籍

參照 桑田熊藏、桑田芳藏、濱平右衛門、茂木順三郎、濱河合良成、桑田豐吉、濱町村金彌、濱松本順吉、濱山岡俊、濱山崎登次郎の項

妻 悦

明三四、九生、長野、久保太兵衛
二女

君は長野縣人木内文藏の長男にして明治二十二年八月を以て生れ同二十七年姉きよめの後を承け家督を相續す大正四年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し住友銀行に入りしも同七年辭し爾來長野縣工場監督官補長野縣屬岩手郡紫波郡各郡長關東廳事務官に歷補し大正十二年司稅官に任じ横須賀松江各稅務署長に補せられ今日に至る家族は尙二男管(大八、一、一、生)長女晴子(同二一、八、一、生)三女千壽子(昭二、一、一、生)あり父文藏(天保一四、一、一、生)は弟政藏(明二五、四、一、一、生)同妻みさを(同三三、五、一、生)長野、木内四郎三女)を伴ひ分家し姉やを(同五、六、一、生)は長野縣人並木朝太郎に同(同九、一、一、生)は同縣人藤本善右衛門長男斐雄に同(同八、一、一、生)は同縣人木内二助長男直之助に嫁し同(同三、一、一、生)は同縣人池田茂登二に各養子となれり(大津、稅務署内)
參照 沢伊藤傳兵衛の項

木内宗三郎

佐久銀行 常務取締役
長野縣在籍

妻 喜八 明六、五生

男 喜八 明六、五生

孫 太一郎 明三三、三、三、長男喜八妻、長野

孫 佐久子 明三三、三、三、長男喜八妻、長野

孫 京二郎 明三七、三、三、長男喜八二男

孫 潤三郎 明三九、六、三、長男喜八三男

孫 つる 明四一、九、三、長男喜八長女

孫 みよ 明四一、九、三、長男喜八長女

君は長野縣人木内七郎の三男にして弘化三年八月を以て生れ明治二年木内八右衛門の經家を再興す現時佐久銀行取締役に在り家族は尙孫德五郎(明四五、六、三、長男喜八五男)曾孫信太郎(大四五、六、三、孫太一郎長男)あり長女しよ(明四、四、一、生)は長野縣人市川喜三郎に二女せり(同九、七、一、生)は同縣人黒澤利左衛門五男彌八郎に三女て(同二、一、一、生)は同縣人柳田七助に五女は(同二五、一、一、生)は同縣人西澤泰輔長男定茂に嫁し二男眞藏(同二八、三、一、生)同妻一女(同二五、一、一、生)

長野、柳澤健太郎姉)は共に分家せり(長野、南佐久、岸野村)
參照 柳澤健太郎の項

木内 政藏

正七位、東京帝國大學教授、理學
部勤務、東京府在籍

妻 研一 大一一、一、一、生

男 研一 大一一、一、一、生

君は東京府人木内松藏の長男にして明治二十五年七月を以て生れ大正二年家督を相續す同五年東京帝國大學理學部實驗物理學科を卒業し三菱造船會社技師となり現時東京帝國大學教授にして理學部勤務たり家族は尙長女ふさ(大七、五、一、生)二女鈴子(同二〇、一、一、生)二男雄二(同二五、六、一、生)あり姉きよ(明二〇、一、一、生)同夫誠造(同二六、一、一、生)京都、池上津造弟)は其子女を伴ひ分家せり(東京、本郷、曙町一三三ノ一)

木内 彌吉

ヤマト糊本舖、糊製造業
東京府在籍

妻 新彌 大一一、一、一、生

男 新彌 大一一、一、一、生

女 やす 明三三、一、一、生

女 久 明四〇、五、一、生、養子大吉妻

女 ウノ 明二八、一、一、生、東京、恒川新助

君は東京府人坂井孝の父にして慶應二年二月を以て生れ先代はまの入夫となり明治二十八年家督を相續す糊製造業を營みヤマト糊本舖として知らる(東京、本所、東兩國一ノ一六電本所一三四四)
參照 恒川新助の項

木方 慶助

岐阜縣多額納稅者、工業
岐阜縣在籍

妻 慶次 明一九、一、一、生、現戸主

男 慶次 明一九、一、一、生、現戸主

女 大子 明二四、一、一、生、長男慶次妻、岐

女 山田 明二四、一、一、生、長男慶次妻、岐

君は岐阜縣人木方慶藏の長男にして慶應元年一月を以て生れ木方孫七の養子となり後家督を相續し大正十五年退隱す工業を營み現に岐阜縣多額納稅者にして直接國稅二千四百七十八圓を納む家族は尙孫次郎(大一一、〇、一、一、生)

キ之部 木(口、子、越、佐)

(※印は姻族関係)

二生、長男慶次(二男)同(昭五、六生、同二女)あり(岐阜、稲葉、南長森村)
参照 村井治兵衛(岩田友右衛門の項)

木口重彦

日本加工織布常務取締役
岡山縣在籍
安政四、二生、河合房治郎長女

君は岡山縣人木口重彦の長男にして明治十六年八月を以て生れ前名九一を改め昭和三年家督を相続し明治三十七年早稲田大學政治科を卒業し現時日本加工織布會社常務取締役たり家族は尙二男武彦(大六、一、二生)三女寛子(同一、一生)あり妹由喜(昭二八、八生)は岡山縣人加藤榮作に嫁し弟準平(同二五、一生)同妻恒(同三一、二生、岡山、大石清三郎長女)は其二子を伴ひ分家せり(東京、牛込、市谷町二ノ二四電牛込三三七)

木子七郎

日本赤十字社大阪支部病院技師
建築主任、木子七郎建築事務所、建築設計監督、東京府土族
昭二七、一、一生、大阪、新田長次

君は東京府土族木子清敬の四男にして現戶主幸三郎の弟なり明治十七年四月を以て生れる同十四年東京帝國大學工科大学建築科を卒業し大正二年建築設計監督の業務を開始し今日に至る現時前記の外新潟縣組合の設計委託技師たり又曾て歐米各國及支那地方に出張視察す(大六、八、一、一生)大阪、東、十二軒町一九電東二四三〇)
参照 新田長次郎(新田長三郎新田仲太郎新田昌次)の項

木越安綱

從二位勳一等功二級、男爵、陸軍中將、貴族院議員、日本揮發油總監査役、東京府土族
昭四、一、一生、長野、士、柳田國男

木佐三郎

松江銀行取締役、農業
昭二九、一〇、一生、島根縣多額納税者、現戶主

木下浅吉

正五位勳五等、醸造試験所技師
東京府在籍
昭二〇、六、一生、東京、三好助右衛門

木下伊平

和歌山縣多額納税者、農業
和歌山縣在籍
昭一〇、九、一生

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下守雄

昭二六、四、一生
昭二六、四、一生、島根縣多額納税者、大阪商船會社員
昭三六、五、一生、四男進妻、大阪、島根藏

木下宇三郎

從三位勳二等功三級、陸軍中將
熊本縣在籍
昭四、九、一生、熊本、士、水上四郎

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

木下英太郎

大正電氣、二岡電燈各社長、東京報知機電取締役、東京府在籍
昭三七、四、一生、慶應大學經濟學部出身

キ之部 木(佐、崎、澤、下)

(※印は姻族関係)

キ之部 木(下)

女 章 大五、九生、名古屋市立第一高女
君は大阪府人木下九平の三男にして明治十三年七月を以て生れ先代弘の養子となり同十七年家督を相続す同四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時名古屋市收入役に於て部長を兼ね家族は尙三男隆(大九、二生)あり(名古屋、南、瑞穂町東、割六二電南三四)

木下 金藏 木下商店実業執行社員、肥料商、大阪府在籍
安政元、一〇生、福井、木下治野右衛門二女

男 哲太郎 明三、九生、青山學院出身、米國留學
明三、九生、長男哲太郎妻、東京、齋藤順三長女、米國留學

女 房子 明三、九生、樟蔭高女專攻科出身
明三、九生、一〇生、樟蔭高女專攻科出身

男 五郎 明四、九生、慶大在學
君は大阪府人木下武兵衛の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正十五年家督を相続す明治二十八年大阪高等商業學校を卒業し肥料商を營み木下商店業務執行社員にして兼て朝鮮窒素肥料販賣會社専務取締役たりし事あり家族は尙六男富藏(大三、八生、佛國留學)あり三男秀三郎(明三八、八生)は分家し妹キリ(同一五、七生)は大阪府人永井利兵衛に同ヒモ(同一二、四生)は同府人前田一郎に同シモ(同一二、一〇生、大手前高女出身)は兵庫縣人岸本信太郎に同政子(同三二、九生、出身校同上)は同府人岩田正一(二男正次郎に嫁せり(大阪、住吉、阿倍野町一、七〇電戎四〇四六)参照 岩田正次郎、岸本信太郎、齋藤順三、永井利兵衛の項

木下 國明 正六位勳四等功五級、海軍主計大佐、東洋冷蔵監査役、富國商會代表者、東京府在籍
明一、九〇生、兵庫、黒河内信彌妹

男 孝 明四、三三
君は長野縣人木下實太郎の二男にして明治十一年一月を以て生れ先代孫市の養子となり同十九年家督を相続す早稲田大學を卒業し海軍主計官となり主計大佐に進み後豫備役に編入さる其間金剛主計長横須賀佐世(船支店內)

木下 季吉 從四位勳三等、理學博士、學術研究會會員、東京帝國大學教授、理學部勤務、熊本縣在籍
明二、九〇生、熊本、本多蘇熊妹

男 吉雄 大四、八生
君は熊本縣人木下助之の三男にして明治十年一月を以て生れ同十四年兄彌八郎方より分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學理學部物理科を卒業し大學院に入り後獨逸各國に留學し同四十三年理學博士の學位を授けらる大正三年東京帝國大學理學部助教授に任ぜられ同十一年教授に進み現在に至る家族は尙長女誠(大六、二生)二女修(同一〇、九生)三女安(同一二、一〇生)二男雅友(同一五、一〇生)四女弘(昭四、八生)あり(東京、本郷、駒込曙町二八)参照 木下彌八郎、木下道雄の項

木下 正中 正四位勳三等、醫學博士、木下産科婦人科病院院長、醫師
東京府在籍

男 正一 明七、九生、大分、下瀬謙太郎妹
明治女學校出身

男 正二 明三、四、六生、醫學士、九州帝國大學醫學部産科婦人科教室勤務
明四、一、二生、長男正一妻、清水莊一郎長女、御茶の水高女出身

男 正三 明三、九、五生、理學士、帝國發明協會研究所勤務
明四、一、二生、御茶の水高女出身、東京女大在學

男 弘三 明四、七、七生、靜岡高等學校理科在學
大正、五生、御茶の水高女在學

女 弘子 大正、五生、御茶の水高女在學
當家は若州小濱藩の出身なり君は先代藩の長男にして木下東作の兄なり明治二年八月を以て生れ同三十七年家督を相続す同二十八年帝國大學醫學部卒業し同三十年獨逸に留學し同三十二年帝國大學醫學部助教授に任ぜらる後醫學博士の學位を授けられ同教授

(※印は姻族關係)

保各海軍經理部課長に歴補す現時前記各會社の重役たり長女朝(明四一、九生)は長野縣人小笠原正賢弟健に二女壽美子(同四二、八生)は茨城縣人高野盛に嫁せり(東京市外流橋町角管二六八電四谷五一八八)参照 黒河内信彌、永井大助の項

木下 佐市 鐵道木下組専務取締役、北鮮木材株式會社取締役、大崎合同運送監査役、東京府在籍
明二、五生、神奈川、伊東治郎三女

男 乾一 大九、一〇生
女 静江 大九、一〇生

女 君 大五、一〇生
君は山梨縣人佐野佐市郎の長男にして明治二十一年二月を以て生れ先代安太郎の養子となり大正十二年分れて一家を創立す現に鐵道木下組専務取締役に於て前記會社の重役たり家族は尙三女昌子(六一、二生)あり(東京市外入新井町新井宿一三三〇電高橋二六三六)参照 永井大助の項

木下 治郎 佐賀縣多額納稅者、酒造業
明二、〇、五生、佐賀、松本兵作妹

男 勝郎 明三、九、五生
女 ナミエ 明四、二、五生、長男勝郎妻、福岡

女 マサ 明四、一、一〇生
女 マサ子 明四、一、一〇生

女 マサ子 明四、一、一〇生
君は佐賀縣人木下七三の二男にして明治十二年四月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す酒造業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅二千五百七十四圓を納む家族は尙二男虎清(大六、八生)四女スズ子(同一七、五生)三男善三郎(同九、一〇生)四男光政(同一二、一〇生)五女ヨシ子(同一四、一〇生)六女武子(昭三、八生)孫麗子(同五、八生、長男勝郎長女)あり(佐賀、三養基、北茂安村)参照 永井大助の項

木下 茂 山一證券取締役兼大阪支店長
長崎縣在籍
明三、三三、三三、長崎、土、山口豊妻

男 高明 大五、一〇生
授に進み産科婦人科講座を擔當す大正四年歐米諸國を巡遊し歸朝後職を辭し現時木下産科婦人科病院院長たり兼て財團法人養育會理事に擧げらる家族は尙七女静子(大八、五生)あり長女篤子(明二八、一〇生、御茶の水高女出身)は福井縣人木下是の死跡を相続し醫學博士木下益雄を夫に迎へ三女直子(同三三、四生、出身校同上)は山口縣人石川正二男醫學士正臣に四女宜子(同三七、六生、府立第二高女及津田英學塾出身)は東京府人栗原純一(同九、七生)は滋賀縣人西村文四郎に同嫁(同一六、九生)は工學博士松村鶴造に同嫁(同一九、五生)は東京府人西尾爲忠二男豊に同嫁(同二六、四生)は京都府人垣東和三郎に嫁せりA二〇八四(東京、本郷、森川町九六電小石川七三)

木下 成太郎 勳四等、衆議院議員(北海道選出)
北海道土族
明一、六、一〇生、父彌八郎四男

男 三三 明二、九、四生、養子三三彦妻、故特命全權公使政尾藤三養子

男 辰巳 明三、七、五生、養子三三彦妻、故特命全權公使政尾藤三養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

男 辰巳 明四、三、五生、孫辰巳妻、北海道豊岡佐一郎養子

キ之部 木(下)

女 昌子 大三、七生
君は福岡縣人西村武助の三男にして明治十八年五月を以て生れ先代キチの養子となり同四十五年家督を相続す現時山一證券會社取締役兼大阪支店長たり家族は尙二女光子(六一、一〇生)三男武久(同一二、六生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋西良手一三四電芦屋五六四)参照 山口豊三郎の項

木下 七郎 靜岡縣議員、靜岡縣多額納稅者
三十五銀行監査役、農業
靜岡縣在籍

妻 安政六、九生、靜岡、山田儀一妹

養子 國彦 明二、七、三、九生、靜岡、佐藤伸三三女

君は靜岡縣人山田眞太郎の二男にして明治十五年五月を以て生れ元勝間田銀行東洋銀行各頭取たりし先代七郎の養子となり大正九年家督を相続し前名辛一を改め號名す農業を營み傍ら前記銀行の重役を兼ね縣下の多額納稅者にして直接國稅九百九十八圓を納む現に推されて靜岡縣議員たり(靜岡、榛原、勝間田村)参照 永井大助の項

木下 重作 木下商會専務取締役、北陸冷蔵東洋冷蔵各取締役、製氷機冷蔵商、靜岡縣在籍
明二、〇、八生、靜岡、岩崎平作妹

男 千江子 大二、一〇生
女 博 明四、七、七生

君は靜岡縣人木下米藏の二男にして明治十七年一月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す製氷機冷蔵機商を營み現時木下商會専務取締役に於て前記會社の重役を兼ね家族は尙二男信夫(大四、三三)三女勝代(同六、二生)四女多都乃(同八、二生)三男重芳(同一〇、一〇生)四男忠雄(同一三、三三)五女久子(昭二、九生)ありA二一七(東京、麹町、平河町五ノ五電九段二六二七)

木下 昇平 日本郵船上海支店長
鳥取縣在籍

君は鳥取縣人木下達藏の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し直に日本郵船會社に入り果進して同社香港支店長となり現に上海支店長たり家族は弟規

長たり家族は尙二女美津子(大九、六生)三女敏子(同一、六生)四女澄子(同一三、八生)弟茂(明三三、八生)妹チエ(同四四、二生)あり弟實(同三五、一〇生)は分家せり(孟買、日本棉花會社支店內)

木下 齊十郎 和歌山縣多額納稅者、伊都製絲、合同莫大小紡績各取締役、醸造、和歌山縣在籍
嘉永三、三三、三三

妻 齊 嘉永三、三三、三三

養子 純子 大元、一〇生、大阪、道元忠右衛門孫

君は和歌山縣人先代齊十郎の長男にして明治七年八月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名政一郎を改め號名す醸造業を營み現時前記各會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者にして直接國稅二千三百三十圓を納む弟齊(明二、一〇生)は大府人道元忠右衛門の養子となり妹トキエ(同一三、一〇生)は和歌山縣土族瀬戸佐太郎に同嫁(同一二、六生)は奈良縣人林房太郎長男雄太郎に嫁し弟齊太郎(同一、八生)は分家せり(和歌山、伊都、妙寺町)参照 木下齊太郎、道元忠右衛門の項

木下 齊太郎 伊都製絲専務取締役、合同莫大小紡績各取締役、和歌山縣在籍
明一、八、一〇生、奈良、片岡安雄妹

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

男 齊 明一、七、八生、福井、石原篤養子

キ之部 木(下)

(※印は姻族關係)

高等女學校校長を兼ね大正六年京都府女子師範學校校長... 七年桃山高等女學校校長を兼ね同八年奈良女子高等師範...

木下 唯助

岡山縣多額納稅者、興行主 岡山縣在籍

妻 嘉志久 明一九、五生、岡山、中野岩藏長

男 唯一 明四四、五生

養子 シノ 明三三、二生、熊本、下川熊次郎

養子 サメ 明三八、二生、熊本、藤本久藏孫

養子 マツエ 明三八、一〇生、福岡、柴田春吉

養子 ハル 明四二、二生、福岡、鹿兒島福太

養子 秀子 明四二、二生、佐賀、阪井清吉姪

養子 キミ子 明四三、五生、廣島、戸田サカ女

君は香川縣人矢野植次の二男にして明治十五年一月を...

以て生れ先代藤十郎の養子となり大正九年家督を相続...

額納稅者たり家族は尙長女嘉津子(大九、九生)四男格...

郎(同四、一一生)養子エミ子(同八、五生、大分、...

柏ノエ女)養妹松野(明二七、五生)叔母曾與(天保二、...

四生)あり(岡山市千日前)

木下 有 三菱銀行理事、内國課長

父 左文 嘉永六、一一生、長崎、中島九左

母 フサエ 萬延元、五生、兵庫、藤田實三郎

妻 千代 明二三、五生、東京、西村長兵衛

男 廉 明四五、一一生

女 千恵子 明四二、一一生、東京府立第三高

君は長崎縣土族木下左文の二男にして明治十六年三月...

を以て生る同三十九年東京高等商業學校を卒業し三菱

銀行に入り果進して調査部長京都支店長等に歴任し...

木下 忠次郎

香川縣多額納稅者、丸金醬油社 長、醬油醸造業、香川縣在籍

妻 サナ 明四、一一生、香川、長西英三郎

男 忠重 明三三、八生

男 元義 明三八、八生

君は香川縣人先代忠次郎の長男にして明治三年九月を...

以て生れ同三十三年家督を相続し前名忠を改め製名す...

醬油醸造業を営み現に丸金醬油社長にして直接國稅...

千四百五十四圓を納め香川縣多額納稅者たり二女正子...

(明二八、二生)は大阪府人彌谷森之助に嫁せり(同二...

三、六生)は香川縣人森川貞長男番梅に嫁せり(香川...

小豆、苗羽村)

木下 貞太郎 正五位勳五等、大阪府東成區長

妻 フキ 明二〇、三生、大阪、村田敬太郎姉

男 直文 明三三、一〇生

男 直敏 明三三、一〇生

男 直俊 明四二、二生

君は大阪府人木下直三郎の長男にして明治四年二月を...

以て生れ大正三年家督を相続し現に大阪府師範學校を...

卒業し現に大阪府東成區長たり家族は尙三男直三(大...

二、一一生)三女芳子(同二、一一生)孫和子(明二、八...

生、長男直文長女)同直三(同四、七生、同長男)あり...

A五二九(大阪、三島、吹田町二〇電五二)

參照 瀧橋與一(瀧井善四郎)の項

木下 東作 正五位、醫學博士、大阪毎日新聞

妻 波 明一七、三生、埼玉、土、佐野靜

男 治雄 明四五、三生

君は京都府人木下直三郎の長男にして明治四年二月を...

以て生れ大正三年家督を相続し現に大阪府師範學校を...

卒業し現に大阪府東成區長たり家族は尙三男直三(大...

二、一一生)三女芳子(同二、一一生)孫和子(明二、八...

生、長男直文長女)同直三(同四、七生、同長男)あり...

A五二九(大阪、三島、吹田町二〇電五二)

參照 瀧橋與一(瀧井善四郎)の項

木下 政治 大正府在籍

妻 檢 明三四、八生、奈良、平井太郎三

男 太 明一五、五生

君は大阪土着の舊家にして代々農を業とし舊幕時代...

には名主を勤めたる家柄なり君は先代周太郎の長男に...

して明治三十三年九月を以て生れ大正十年家督を相続...

す家主にして表産家たり家族は尙長女春子(大一一、...

四生)二男嘉夫(昭四、一〇生)あり(大阪、東淀川、天...

神橋筋九ノ一)

參照 瀧橋與一(瀧井善四郎)の項

木下 益雄 正五位、醫學博士、熊本醫科大學

妻 篤子 明二八、一〇生、醫學博士、木下正

男 是雄 大六、一一生

君は宮崎縣人田村義雄の二男にして明治二十一年十一...

月を以て生れ大正四年先代篤子の入夫となり家督を相...

續す同二年東京帝國大學醫學科大學を卒業し岡山醫學專...

門學校教授東京帝國大學助教授に歴任し同十五年熊本...

醫學科大學教授に任ぜられ現に附屬圖書館長たり同七年...

米瑞各國に留學を命ぜられ同十一年醫學博士の學位を...

受く家族は尙二男佐(大一一、一〇生)長女章子(同二...

生)あり(熊本市東坪井町六電一五三〇)

參照 瀧橋與一(瀧井善四郎)の項

木下 道雄 正五位、勳四等、宮内事務官、大

妻 シノ 明三一、八生、熊本、土、木下彌

君は京都府土族木下照の二男にして醫學博士木下正中...

木下 利福

子爵 舊中足守藩 明二二、八生、栃木、横尾宜弘妹

母 テル 學習院女學部出身

當家は中納言木下家定の後なり家定豐臣秀吉の北政所...

の舍兒なる縁を以て秀吉に寵遇せられ羽柴の號を許さ...

れ播州姫路二萬五千石を領す其次男宮内少輔利房若州...

高濱三萬石を領し關ヶ原の役西軍に當し其所領を失ひ...

しも大阪役の軍功に依り更に備中足守二萬五千石に封...

ぜらる夫より九世を経て先代利安は其明にして東京帝國大學...

子爵を授けらる先代利安は其明にして東京帝國大學文...

科大學文科を卒業し歌人として知らる君は其三男に...

して大正十一年二月を以て生れ同十四年家督を相続し...

襲爵被仰付家族は尙叔父利明(明二〇、一〇生、法學...

士)あり(神奈川、鎌倉、鎌倉町大町名越一三三七電...

三七七)

參照 瀧橋與一(瀧井善四郎)の項

木下 俊哲 正三位、子爵 舊豐後日出藩

妻 速子 明一四、一一生、子爵平松時陽妹

男 俊照 明三三、一〇生、正五位、陸軍砲

兵少尉

女 フク 明三七、一一生、長男俊照妻、京都

大野藤太郎妹

女 雅子 明三七、三生

當家は中納言木下家定の三男右衛門大夫延俊の後なり

十年六月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す明治...

四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大正二...

年文官高等試験に合格岡山縣警部となり後岡山縣和氣...

部長内閣書記官を経て宮内省に入り東京警務官侍從兼...

皇后宮事務官内閣書記官事務官秘書課長を経て昭和...

六年五月前記の職に轉ず家族は尙長女淳(大六、七生)...

二男公雄(同四、一一生)三男泰雄(昭三、四生)あり姉...

トネ(明一八、一一生)は千葉縣人鈴木三郎に嫁せり(東...

京、麹町、紀尾井町宮内省官舎電九段一一〇)

參照 瀧橋與一(瀧井善四郎)の項

木下 盛三郎 鳥取縣多額納稅者、會社員

妻 太郎 明一九、九生、廣島、村上泰彦妹

女 津喜 大元、八生

君は鳥取縣人木下彦四郎の長男同信の兄にして明治九...

年三月を以て生れ同三十七年家督を相続す會社員に...

て直接國稅九千八百九十七圓を納め縣下の多額納稅者...

たり義に木下合名會社社長たりし事あり家族は尙二男武...

助(大六、三生)三男圭三(同九、七生)四男準四郎(同...

一、七生)五男泰助(同五、一一生)あり長女登茂...

(明三一、二生)は分家し二女美喜(同四、一一生)は鳥...

取縣土族木下義統に三女奈津(同四三、七生)は同縣人...

矢吹輝太郎長男久壽に嫁せり(鳥取、日野、阿昆村)

參照 瀧橋與一(瀧井善四郎)の項

木下 彌八郎 正五位勳四等功五級、中央開業

妻 三愛子 明一二、四生、故文學博士佐々政

男 國助 同三四、五生

女 薩 明四〇、七生、長男國助妻、福岡

君は熊本縣土族木下助之助の二男にして同季吉の兄に當...

る明治三年十二月を以て生れ同二十九年家督を相続す...

延俊父に代り姫路の城を守り關ヶ原の役東軍に當した...

木下 文次

正四位勳二等功五級、陸軍中將、 佐賀縣土族

妻 ノ 明一八、一一生、佐賀、原口幸八二

男 茂壽 大元、八生

女 節子 大元、八生

君は佐賀縣土族木下善次の長男にして明治八年一月を...

以て生れ同三十四年家督を相続す同二十九年陸軍士官...

學校を卒業し同三十年陸軍歩兵少尉に任じ昭和二年陸...

軍中將に果進す其間第十八師團參謀陸軍士官學校教官...

第十六師團參謀歩兵第五十六師團隊長等第二師團參...

文官高等試験に合格す爾來長野縣屬熊本縣廳本上益城...

木下 政治

大正府在籍

妻 檢 明三四、八生、奈良、平井太郎三

男 太 明一五、五生

君は大阪土着の舊家にして代々農を業とし舊幕時代...

には名主を勤めたる家柄なり君は先代周太郎の長男に...

して明治三十三年九月を以て生れ大正十年家督を相続...

す家主にして表産家たり家族は尙長女春子(大一一、...

四生)二男嘉夫(昭四、一〇生)あり(大阪、東淀川、天...

君は京都府土族木下照の二男にして醫學博士木下正中...

木下 道雄

正五位、勳四等、宮内事務官、大

妻 シノ 明三一、八生、熊本、土、木下彌

男 廣雄 大一二、四生

君は故京都帝國大學總長木下廣次の二男にして明治二...

十年六月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す明治...

四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大正二...

年文官高等試験に合格岡山縣警部となり後岡山縣和氣...

部長内閣書記官を経て宮内省に入り東京警務官侍從兼...

皇后宮事務官内閣書記官事務官秘書課長を経て昭和...

十年六月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す明治...

木下 彌八郎

正五位勳四等功五級、中央開業

妻 三愛子 明一二、四生、故文學博士佐々政

男 國助 同三四、五生

女 薩 明四〇、七生、長男國助妻、福岡

君は熊本縣土族木下助之助の二男にして同季吉の兄に當...

る明治三年十二月を以て生れ同二十九年家督を相続す...

同三十五年東京帝國大學農科大學を卒業し更に工科大...

學に學ぶ日露戰役に出征し凱旋後農務技師となり大...

正七年職を辭して實業界に入り現時中央開業會社事務...

取籍たり家族は尙二男順二(大三、八生)あり三女シ...

木原 秀藏 日本調味料醸造専務取締役
 福岡縣在籍
 妻 トモ 明二六、六生、福岡、松本與吉郎
 男 秀一 大六、二生
 養子 シゲノ 明三六、一一生、長崎、永田八曾
 八三女

君は福岡縣人木原勝六の四男にして明治十五年二月を以て生れ大正九年兄茂太郎より分れて一家を創立す明治四十年中央大學を卒業し直ちに片倉製糖紡績會社に入り引續き大正元年より同七年まで支那四川省商工局に招聘せられ同八年日本調味料醸造會社を創立し現時同社専務取締役に家族は尙長女久世(大九、八生)三男壽三郎(同一三、三生)二女スズ子(昭三、七生)あり(福岡、糟屋、席内村電古賀二)

木原 襄太郎

酒造業
 兵庫縣在籍
 妻 三つ 明一九、九生、兵庫、船井長治郎
 男 輝吉 明三八、一一生
 男 輝明 明四一、九生

君は兵庫縣人木原善吉の長男にして明治十四年六月を以て生れ大正六年家督を相續し酒造業を營む家族は尙四男康正(大四、八生)五男昌吉(同一二、三生)ありA三〇二八B八四二(兵庫、武庫、御影町上東八三三電御影三〇三)

參照 船井長治(山口市之助)の項

木原 仙八

正五位勳二等功五級、陸軍中將
 廣島縣在籍
 妻 ヤエ 明一四、六生、東京、士、菅谷三三三
 男 武正 明三七、一〇生
 男 正三 明三三、一〇生

君は福岡縣人木原正利の二男にして明治三年五月を以て生れ後母ユキと共に分家し大正七年家督を相續す先是明治二十九年陸軍士官學校を卒業し翌年陸軍歩兵少尉に任じ爾來進んで陸軍中將に階る其間廣島縣隊區司令官第一師團司令部附等を歴任し大正十五年豫備役編入を受けらるる義に日露戦役の功に依り功五級金鶏勳章を授けらるる家族は尙二男朝彦(明四五、三生)は廣島縣人丹羽利男に嫁せり(東京市外杉並町阿佐ヶ谷四九五)

木原 大藏

大和銀行、大和田貯蓄銀行各役
 監査役、福井縣士族
 妻 はる 明四五、三生、養母こと長女
 男 康夫 明四三、三生
 君は福井縣人島田本路の四男にして明治七年八月を以て生れ先代ことの養子となり同三十五年家督を相續す現時前記各銀行の重役たり長女小枝(明三六、六生)は東京府人永田敏三郎長男慶治に嫁せり(福井、敦賀、敦賀町)

木原 忠兵衛

大阪府多額納税者、家主
 大阪府在籍
 妻 しな 明二九、一一生、大阪、井上徳兵衛
 男 通夫 大五、七生

君は大阪府人先代忠兵衛の二男にして明治二十五年九月を以て生れ大正七年家督を相續し前名廣を改め製名才資産家にして義に木原銀行を經營し現時大阪府多額納税者に列す家族は尙三男和夫(大七、四生)長女保子(同一〇、一一生)及左馬雄(明三九、五生)あり妹芳子(同三七、一一生)同静子(同三九、九生)は共に其生母大阪府人山崎きよの養子となり同武子(同四二、一〇生)同市子(同四三、一一生)弟正三(大六三、六生)も亦共に其生母同府人上田カヲの養子となり(大阪、東、安土町一ノ一二電本町七四二)

參照 井上徳兵衛の項

木原 晴雄

博多商工會議所議員、高島屋旅館
 旅館業、福岡縣在籍
 妻 とよ 明三四、九生、福岡、一關哲次郎
 男 喜久馬 大一〇、九生

君は福岡縣人新免末吉の二男にして明治三十年三月を以て生れ先代ヒサの養子となり大正九年家督を相續す高島屋旅館と稱し旅館業を營む推されて博多商工會議所議員たり家族は尙二女令子(大一二、三生)再従弟鹿所(明三三、八生)福岡、辻徳次郎長男ありA一〇一五B二〇七(福岡市博多上祇園町二八二電一〇五)

木原 通一

木原商店代表取締役、岡山電燈
 中國製紙、備前織物、山陽中央電
 電各取締役、中國合同電氣監
 査役、愛媛縣在籍
 妻 慶三、一一生、愛媛、盛重善藏
 長女

木原 猷胤

帝國聯合電球電氣常務取締役、日本
 電氣聯合電球、城南電氣商店、城
 北電氣商店、中央電氣商店各監
 査役、東京府在籍
 妻 止 明一三、一一生、東京、岩崎衛生五
 男 義胤 明三九、九生
 男 胤 明四一、一一生

君は千葉縣人木原五平の二男にして明治二年十月を以て生れ同二十八年兄長吉より分れて一家を創立す曾て日本防備木材會社専務取締役となり尋て株式會社東京電球製作所専務取締役に専ら事業の經營に任じ同所の東京聯合電球會社と改稱するや専ら取締役に任じなり現に帝國聯合電球會社前記會社の重役たり昭和四年日本電燈使節として渡米す和歌を好み茶集及渡米百首箱根めぐり等の集あり長女君(明三〇、八生)は福岡縣人里村静一に二女(同三三、一一生)あり(東京府人田淵好平に三女(同三四、一一生)は愛媛縣人下村重春に四女(同三六、六生)は北海道人當麻五三郎に嫁せり(東京、四谷、南町八八四三九九)

木原 元次

從五位勳六等、地方事務官、愛知
 縣内務部長地方課長、茨城縣士族
 妻 嘉永元、一一生、木原佐助長女

木邊 孝慈 正四位、男爵、眞宗木邊派管長、
 江州錦織寺住職、僧家
 妻 静子 明二〇、七生、故公爵一條實孝養
 女 弘子 明四五、三生
 女 行子 大五、一一生

當家は本願寺三世覺如上人宗昭の長男存覺の後なり存覺宗親親鸞の開基せる江州錦織寺に入り一向専念の旨を傳ふ夫より十四世を経て正五位淳慈に至る君其後を承く君は伯爵大谷光照の伯父にして明治十四年四月を以て生れ同二十七年先代淳慈の養子となり其法統を紹ぎ前名尊行を改め同二十九年特旨を以て男爵を授けらる前田慧雲博士等に就て佛學を修め現時錦織寺住職にして眞宗木邊派管長たり長女彰子(明三九、一一生)は子爵藤谷爲寛子爵藤谷爲隆に嫁せり(滋賀、野洲、中里村)參照 公爵一條實孝、侯爵醍醐忠重、伯爵大谷光昭子爵藤谷爲寛、伯爵野常羽、伯爵南部利英、子爵小倉義季、子爵藤原義家、子爵水野忠亮、亮、男爵一條實基、廣瀬千秋の項

木全 由三郎 關西工作所専務社長、肥料商
 長庫縣在籍
 妻 保之助 明四四、七生
 養子 幸次郎 明一、六生、三重、伊藤佐七弟
 孫 幸次郎 明一九、二生、養子幸次郎妻、愛
 知、木全伊兵衛二女
 孫 昌子 明四三、一一生、養子幸次郎二女
 孫 啓之助 明四三、一一生、養子幸次郎長男
 君は兵庫縣人木全伊左衛門の三男にして慶應元年九月を以て生れ明治二十三年兄伊兵衛より分れて一家を創立す肥料商を營む現時關西工作所社長たり家族は尙孫得二郎(大二、一〇生)、養子幸次郎(二男)同養明(同四、九生、同四男)あり同貞子(明四〇、二生、同長女)は愛知縣人荻野四五六に嫁せり(神戸、榮町通二、四五電三三三六七)

參照 荻野藤太郎の項

木俣 千代八 濱松商工會議所議員、遠州織物同
 業組合長、遠州電氣鐵道、遠州織機
 日本形染各取締役、都市計畫地
 方委員、遠州織物工業組合顧問、
 靜岡縣在籍
 妻 とめ 明二、三生、靜岡、浦谷良平妹
 養子 政八 明一、八生、先代千代八四男
 孫 清子 明四〇、一一生、養子政八長女
 孫 千代次 明四一、一一生、養子政八長男
 孫 豊次 明四四、三生、養子政八二男
 孫 知恵子 大二、八生、養子政八二女

當家は寛政年間より棉花及木綿織物製造販賣業を連續營業せり君は先代千代八の長男にして慶應三年四月を以て生れ明治二十五年家督を相續し前名千代太郎を改め製名す現時前記會社の重役にして推されて濱松商工會議所議員遠州織物同業組合長たり昭和五年靜岡縣知事より産業功勞者として表彰せられ同年五月天皇陛下靜岡縣行幸の御拜謁被仰付又同年日本産業協會總裁伏見宮殿下より表彰狀を賜はるる家族は尙孫養作(大四、一一生)、養子政八(三男)同米子(同八、四生、同四女)同富美子(同一〇、九生、同五女)あり長女良子(明三七、一一生)は靜岡縣人中村久千に嫁し孫律子(大一一、七生、養子政八七女)は同縣人大竹すの養子となり弟良八郎(明六、一一生)は同妻みち(同一六、一一生)同夫三郎(同九、一一生)静岡、秋山山(同一四、三生)は同其一女を伴ひ分家せりA二一三六(靜岡、濱名、北濱)

木間 瀧策三

從四位勳四等、大阪タイム式精米
 社長、山陽中央電氣、岡山電燈各
 監査役、浪速購買組合組合長、
 大阪住宅利用信用購買組合組合長、
 千葉縣在籍
 妻 フサ 明一五、一〇生、男爵橋元正雄
 男 幸三 明四〇、二生
 女 幸子 明四一、四生

木俣 幸八

木俣物産代表社員
 靜岡縣在籍
 妻 五い 明二一、二生、靜岡、山本喜一郎
 養子 郁子 大三、二生、靜岡、木俣良八郎五
 長女

君は靜岡縣人先代幸八の長男にして明治十七年二月を以て生れ同四十二年家督を相續し製名して前名平八郎を改む現に木俣物産名會社代表社員たり亡姉に夫喜三太郎(明一三、一一生、靜岡、鈴木三郎弟)は其一子に伴ひ分家し妹正(同二七、七生)は靜岡縣人水野曉一に嫁せり(靜岡、濱名、北濱村)

木俣 守一

正五位、男爵
 舊彦根藩國老

博士の學位を授けらるる家族は向二男繼二(六七、五生)三男繼三(同九、二生)四男繼四(同二、八生)の外兄...

木村 戒自

正四位勳二等功三級、陸軍中將 東京府在籍 妻 ハルエ 長女 明一三、二生、愛媛、士、森氏男...

君は三重縣人木村光綱の三男にして明治五年一月を以て生れ大正十年兄繼八方より分れて一家を創立す...

木村 和誠

正四位勳五等、畜産試験場技師兼 農林技師、畜産試験場長 山形縣土族...

君は山形縣土族木村平四郎の孫にして明治十三年九月を以て生れ同三十八年家督を相続す...

木村 久兵衛

宮城縣多額納税者、木久、吳服商 宮城縣在籍 妻 たま 明一六、三生、宮城、佐藤源七長女...

木村 清

阪和電氣鐵道社長、大阪海上火災保險、大阪商船各社取締役 大阪府在籍 妻 歌子 明一八、一生、東京、吉川慎一...

木村 久壽彌太

勳三等、三菱商船理事、三菱銀行 三菱信託、三菱製糖、三菱製粉、三菱造船...

キ之部 木村

(※印は姻族関係)

國大學農科大學農學科を卒業し同大學助手となり大正五年畜産試験場技師に任ず現に畜産試験場長にして農林技師を兼ね昭和五年歐米各國に出張を命ぜらるる妹友...

木村 勝藏

東京電氣材料代表取締役、末廣煉炭礦業、松原炭礦、東洋電氣製作所各社取締役、鳥取縣土族...

君は鳥取縣土族今井鐵太郎の長男にして明治二十年十月を以て生れ先代勝藏の養子となり同三十九年家督を相続す...

木村 喜兵衛

兵庫縣多額納税者、海商銀行、池田屋各社監査役、本木村酒造業 兵庫縣在籍...

木村 吉太郎

大阪府會議員、大阪市會議員 大阪府在籍 妻 エイ 女 明三三、二生、大阪、谷口福松二...

木村 九兵衛

山形縣多額納税者、鶴岡銀行、莊内貯蓄銀行、鶴岡水電氣各社取締役、農業、山形縣在籍...

木村 熊治郎

吉野銀行、吉野橋本、洞川電氣索道各社取締役、奈良縣在籍 妻 ハナ 明三三、一〇生、大阪、深井幸三...

木村 庫之助

横濱電氣工業、大安生命保險、木村商店各社長、東京電燈、日清毛織、大正製作所各社監査役 神奈川縣在籍...

妻 ナヲ 明七、七生、養父利右衛門六女
男 富太郎 明二六、一、二生
女 富貴 明三二、一、生、長男富太郎妻、新
 源四郎 明三七、一〇生
男 恒夫 明四三、一、生
女 貞 明四五、四生

君は千葉縣人鈴木太郎の二男にして明治四年二月を以て生れ後神奈川縣人木村利右衛門の養子となり大正八年分れて一家を創立す現時横濱電氣工業會社社長の外前記諸會社の重役たり兼に横濱商工會議所議員に推され又相模紡績製絲大日本自轉車等各會社の重役たり家族は尙六男米雄(明四五、一、生)孫寛(六一、一、四、生)長男富太郎(長男)あり二男仲二郎(明二九、九、九)は分家し長女延(同三六、七、七)は岩手縣人梅澤芳三に嫁せりA一六二〇(横濱、中、根岸町一〇三三號本局九三〇)參照||保阪潤治白井大真の項

木村桂七郎

木村林業社長、日本木煉瓦、大阪乾漕工業各取締役
 靜岡縣在籍

男 金助 明三五、八、生、林學士
女 寛子 明四一、一〇、生、二男金助妻、靜岡、平野陸則長女
女 順子 明三三、二、生、亡養子忠雄妻、濱松高女出身

木村惠吉郎

從五位勳三等、東京商科大学教授、兼豫科教授、東京府在籍

妻 よし 明二〇、一、二、生、東京、士、多忠賀
女 繁雄 明二〇、一、二、生、東京、士、松井

に當選し同六年若槻内閣成立と共に内閣總理大臣秘書官に任ぜられ現在に至る又直接國稅千七百十六圓を納め縣下の多額納稅者たり妹清(明二四、七、七)は鳥取縣土族庄司康に嫁せり(東京、本郷、駒込上富士前町七三電小石川三三〇)

木村五郎

水澤電氣取締役、茨城農工銀行監査役、茨城縣在籍

妻 静余 明三九、五、五、生、柳生銀藏長女
男 博彦 明一五、三、三、生

木村甲一

正五位勳五等、東京帝國大學書記官、會計課長兼庶務課勤務、靜岡縣在籍

妻 たま 慶應三、九、九、生、靜岡、服部甚五郎
女 静子 明二五、一、一、生、靜岡、竹村知雄長

君は靜岡縣人木村春平の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十四年早稻田大學法律科を卒業し同四十二年文官高等試験に合格し逓信郵便貯金局書記官補爲替貯金局書記官同副事務官に歴任し大正八年東京帝國大學書記官に轉じ會計課長にして庶務課勤務を兼れ今日に至る家族は尙三男(同二〇、九、九)四男俊夫(同二二、九、九)長女あつ(同二五、七、七)二女ひと(同四四、一、一)弟三郎(明四一、六、六)あり七妹あつ(同二二、一、一)四生、靜岡、松永田一郎(五男)は其一男一女を併ひ分家せり(東京市外目黒町下目黒九一七電高輪一四七)

木村弘藏

東京汽船社長、東京通運、小林組各監査役、東京府士族

母 伊 弘化四、一、一、生、鳥取、士、徳田良
妻 りよ 明一、二、二、生、鳥取、士、高原小
男 富士雄 明三三、六、六、生、早大商科出身
女 千代子 明四〇、一、一、生、長男富士雄妻、東京、鳥松造二女

君は東京府人木村信郷の長男にして明治十年一月を以て生れ同三十七年家督を相続す同三十六年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し大学院に學び同三十九年東京高等商業學校教授となり大正五年應用化學及商品學研究の爲米國に留學し同九年東京商科大学豫科教授兼同大學教授となり同十年同大學豫科主事に補せられ現前記の職に在り家族は尙二女久子(大八、六、六)三女妙子(同二〇、一、一)四女貞子(同二二、二、二)二男昭雄(昭二、一、一)弟隆吉郎(昭二二、八、八)あり妹まさ(同二九、三、三)は東京府人長谷川謙介長男敬三に嫁し弟修吉郎(同二八、二、二)は分家せり(東京、牛込、市ヶ谷田町三ノ二五電牛込三六一〇)參照||松井文二郎の項

木村慶市

ストック商會代表取締役、毛織商、東京府在籍

妻 ゆう 明三四、二、二、生、東京、増島安五郎
女 明三五、五、五、生

木村健次

玩具商、東京府在籍

妻 カ 明三〇、七、七、生、兵庫、長久源之助
男 卓逸 明一五、四、四、生

君は兵庫縣人木村仁作の四男にして明治二十一年八月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す玩具商を營む家族は尙長女静江(大七、二、二)二女豊(同九、九、九)三女トキ(同一一、一、一)四女ヒロ(昭二五、四、四)あり(東京、淺草、御藏前片町一九電淺草五二四七)參照||増島安五郎の項

木村幸次郎

東洋製糖、大東雜貨各監査役、山城屋本店、洋酒食料品商、大阪府在籍

妻 千代 明一六、一、一、生、大阪、松下俊吉叔
女 喜美 明四〇、五、五、生、青山學院女學部出

木村耕造

第一銀行西陣支店長、京都府在籍

妻 こ 明二二、一、一、生、京都、禰原鏡吉
男 宇 大三、一、一、生

木村皓一

丹生村長、丹生産業組合長、農業、香川縣在籍

木村謙之助

八草嶽山應取取締役、唐戸屋嶽山應監査役、東京府在籍

男 鏡二郎 明三六、九、九、生
女 茂子 明四四、一、一、生
女 良子 明四五、一、一、生

木村源兵衛

武陽銀行應取取締役、多摩川水力電氣監査役、東京府在籍

妻 ノア 明三六、七、七、生、東京、森田芳之助
女 芳男 明四五、一、一、生
女 ナオ 明四五、一、一、生

木村小左衛門

從五位勳四等、衆議院議員(鳥根縣選出)、内閣總理大臣秘書官、鳥根縣多額納稅者、鳥根縣在籍

妻 波江 明二三、一、一、生、鳥根、秦莊右衛門長女
女 門三、一、一、生、鳥根、秦莊右衛門

君は鳥根縣人木村義三郎の二男にして明治二十一年二月を以て生れ同三十六年家督を相続し大正七年前名吉郎を改む凡に早稻田大學に學び實業界に入り鳥根縣農工銀行を初め十數會社の重役を兼れしが大正十三年衆議院議員に當選し是等の大部分を辭し内務大臣秘書官明治神宮造營局參事内閣總理大臣秘書官に歴任し兼て大喪使事務官を兼れ大正四年七月大蔵大臣秘書官に任ぜらる同五年二月鳥根縣より推されて衆議院議員

木村駒吉

内外電熱器、大阪電球、泉州織物各應取取締役、電氣協會監事、鹿兒島縣在籍

妻 恵 明一〇、一、一、生、大阪、山田連三女
男 明三五、四、四、生、京都帝國大學
女 幸子 明四二、一、一、生、二男惠妻、兵庫有坂忠平二女、縣立神戸第一高女出身

木村権右衛門

大阪府多額納稅者、木村銀行應頭取、大阪府在籍

木村権右衛門

大阪府多額納稅者、木村銀行應頭取、大阪府在籍

キ之部 木(村)

妻 ナツ 女 明七、七生、大阪、奥村彦兵衛三
男 喬 明二六、一生、長男喬雄妻、奈良
男 作治郎 明三、一、生、京大理工科出身
木村家は遠く元祿の昔猪飼村農家六八人の祖頭を勤め
し舊家なり君は先代権右衛門の長男にして明治七年十
一月を以て生れ大正三年家督を相続し前名喬を改め襲
名す現に木村銀行頭取にして同府多額納税者たり曾て
衆議院議員に選出せらるる家族は尙五男五郎(大正、八
生)孫雅信(同一、一、生、長男喬雄長男)弟作藏(明二
七、四生)同妻照枝(同三、四、生、東京、平瀬彌代次
二女)弟作三郎(同三、七、一、生)妹サダ(同四、一、生)
同里子(大正、三、生)あり妹千代子(同三、九、四、生)は福
岡縣人宮川浩に嫁し長女芳子(同三、七、七、生)三男修藏
(同三、九、一、生)は各分家し妹基(同九、一、二、生)も亦
分家して大阪府人井上男雄に嫁せり(大阪、東成、猪
飼野町五二八電天王寺二五〇)

木村 さく 新橋演舞場取替役、新喜樂、割
君は東京府人木村せんの女にして明治十七年八月を以
て生れ大正十四年妹さたの後を承け家督を相続し新喜
樂と稱し割葉業を営む傍ら新橋演舞場取替役たり妹さ
た(明二、一、生)は新潟縣人今井直に嫁せり(東京、
京橋、築地三ノ一五電東橋一〇一)

木村作五郎 大阪府多額納税者、金融業
大阪府在籍
妻 とよ 明一五、六生、大阪、黒川勝次郎
妹 明四一、一、生
男 忠三郎 明四一、一、生
女 かう 明四三、一、生
君は大阪府人木村作五郎の庶子にして明治十一年六月
を以て生れ大正十年家督を相続し前名傳三郎を改む金
融業を営み大阪府多額納税者なり家族は尙二男三郎
(大正、四、生)三女きみ(同八、一、生)三男善三郎(同
一、一、三、生)あり長女つる(明四〇、四、生)は分家せり
(大阪、東、平野町二ノ三九電本局五三六)
参照 黒川勝次郎門下三郎の項

木村作次郎 美濃新聞社長
岐阜縣在籍

(※印は姻族關係)

男 不二雄 明三五、一〇生
男 公平 明三八、七生
男 知常 明四一、五生
男 輝四郎 明四四、七生
君は大阪府人上田其助の長男にして明治五年七月を以
て生れ同三十四年先代ふみの入夫となり家督を相続す
夙に東京法學院に學び大垣市會議長岐阜縣會議員
に擧げられ大正九年衆議院議員に選ばれる現時美濃新聞
社長たり家族は尙庶子幹雄(大、一、四、八、生、生母、岐阜、
渡邊ツル)同信子(昭二、一〇、生、生母同上)あり長女
たか(明二九、一〇、生)は岐阜縣人坂東英一に亡妻姪よ
れ(同一八、四、生)は同縣人村木鶴吉に嫁せり(大垣、
竹島町一)

木村 作助 大阪府多額納税者、金融業
大阪府在籍
妻 ノヅ 明九、六生、先々代作助長女
男 慶次郎 明三五、六生
男 三郎 明四〇、九生
男 隆夫 明四三、一、生

木村 定治郎 愛知縣多額納税者、ナヤマ起毛毛
社員、愛知縣在籍
妻 とく 明一七、八生、愛知、芳村勘三郎
男 長四〇、一〇生、東京帝大在學
女 富美子 大五、二生、愛知第一高女在學
女 貞 明四三、四生、愛知第一高女高等
科出身

木村 四郎 從五位勳六等、朝鮮總督府判事、
海州地方法院部長、兵庫縣在籍

キ二〇

妻 ことゑ 女 明三二、四生、兵庫、足立末吉二
君は兵庫縣人木村藤三郎の五男にして明治二十一年八
月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を
卒業し直に朝鮮總督府司法官試補となり同六年判事に
任ぜられ爾來成興地方法院元山支廳大邱地方法院光州
地方法院同浦支廳大邱支廳各判事成興光州各地
方法院部長に歴補し現時海州地方法院部長たり家族は
尙兄藤太郎(明二、七、生、現戶主)同妻つた(同一、二、八
生、兵庫、山口澄之妹)及其子女あり兄一治(同一、四、
九、生)同妻まさ(同一、二、一〇、生、兵庫、藤村芳太郎長
女)は其一子を伴ひ分家し姪子(同三、四、一、二、生、
一、九、生)は同縣人田岡友太郎の養子となり(朝鮮、
黃海道、海州地方法院内)

木村 四郎兵衛 大阪堂島米穀取引所取引員
大阪府在籍
妻 ひろ 妹 明二三、八生、大阪、和田藤三郎
男 純 一 大五、五生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

木村 重治 從四位勳三等、立教大學經濟學部
長、東京府在籍
妻 やゑ 次郎長女 明二〇、八生、愛知、土、染川竹
女 重 明四一、六生
女 靜子 明四三、七生
女 英子 明四四、八生

キ之部 木(村)

東京高等商業學校教授に轉じ同八年英語社會學及史學
研究の爲再び米國に航し同九年東京商科大学豫科教授
兼附屬商業專門部教授に任じ同十二年長崎高等商業學
校長となり昭和五年四月官を辭し母校立教大學經濟學
部長となる家族は尙二男陽二郎(大元、七、生)四女邦子
(同八、七、生)あり(東京市外杉並町阿佐ヶ谷一電萩窪
一五三)

木村 重行 正四位勳二等功四級、退役陸軍主
計總監、東京府士族
妻 たけ 子 明二〇、八生、京都、武田まつ養
男 重夫 大七、九生
女 芳 明四四、二生
女 春 明四五、四生
女 壽 大二、一、生
君は愛知縣士族木村喜太郎の長男にして明治元年五月
を以て生れ同三十年家督を相続す夙に陸軍士官學校及
陸軍經理學校を卒業し同二十二年陸軍歩兵少尉に任じ
同三十一年陸軍監督補に轉じ大正十年陸軍主計總監に
累進す其間陸軍經理學校教官第二軍糧部部長同陸軍監
理部長等十六師團經理部長陸軍經理學校校長朝鮮軍監
理部長等に歴補し現時退役たり家族は尙十一女祝子(大
一、一、生)あり長女貞(明二七、一〇、生)は奈良縣人福
島檢二に二女雪(同二九、一〇、生)は東京府人佐藤勇助
に三女花(同三一、四、生)は千葉縣人大家鹿雄に嫁し四
女時(同三三、一、生)同夫勝三郎(同二五、一〇、生、栃
木、金子政吉二男)は其子女を伴ひ分家せりA二五〇
(東京市外大久保町西大久保二一九)

木村 茂 正四位勳二等功五級、豫備陸軍主
計總監、廣島縣士族
父 樹 嘉永二、六生、廣島、高根傳藏長
母 政 安政二、六生、廣島、土、齋木定
妻 キクヨ 明二七、一〇、生、廣島、上野二朗
君は廣島縣士族木村樹作の長男にして明治六年二月を
以て生れ同三十年家督を相続す同二十八年陸軍士官學
校を卒業し歩兵少尉に任じ同三十七年轉じて陸軍一等
主計に任ぜられ大正十五年陸軍主計總監に累進す其
間陸軍省經理局第八師團經理部主計陸軍經理學校教

官第十八師團經理部主計陸軍經理部主計第五師
一各師團經理部長陸軍經理學校校長等に歴補し後豫備役
に編入せらるる日露戰役に功あり功五級金鷲勳章を賜ふ
家族は尙養子裕子(大、一、二、生、大阪、坂口米藏姪)
あり二女敏(明三三、七、生)は廣島縣人桑田智に妹計恵
(同一、四、一、生)は同縣人佐藤松太に同て(同一、四、
六、生)は同縣人桑田千三郎に嫁せり(東京市外大久保
町西大久保二一九)

木村 靜彦 賀茂鶴酒造社社長
廣島縣在籍
妻 富士 明三〇、二生、岡山、大橋長藏長女
男 環 明一〇、八生
女 河野伸次郎三女
君は廣島縣人豊田立碩の三男にして元治元年三月を以
て生れ明治十六年先代キヨの入夫となり家督を相続す
現時賀茂鶴酒造社長たり家族は尙孫健次郎(大、四、
三、生、長男環養子、東京、山下三郎二男)あり三男功
(明二二、九、生)同妻愛子(同二五、八、生)、岡山、士、
岡田敬次長女)は其一子を伴ひ分家し長女エイ(同二五
一、二、生)は廣島縣人山下三郎に嫁せりA一三八四(廣島
賀茂、西條町電四六)

木村 修三 從四位勳三等、九州帝國大學教授
農學部勤務、鹿児島縣士族
父 壯 介 安政二、二生、現戶主
妻 龍子 明三三、二生、後備海軍中將寺垣
男 壯三 大六、三生

木村 駿吉 從五位勳三等、日本無線電信電話、
帝國會館金庫各取替役、辦理士
東京府在籍
君は鹿児島縣士族木村壯介の長男にして明治十九年一
月を以て生れ同四十四年東京帝國大學農科大學農學科
を卒業し農商務省屬託となり大正四年盛岡高等農林學
校教授に任じ宇都宮高等農林學校教授に轉じ現時九州
帝國大學教授にして農學部勤務たり大正十年農業經濟
研究の爲歐米各國に留學す家族は尙二男剛三(大、九、
三、生)三男銳三(同一、四、二、生)あり(福岡市鳥飼町一ノ
三九七)
参照 木村壯介、寺垣猪三、三子爵田村不顯、津原辰
雄、坂見玉孝、原白土琢三の項

(※印は姻族關係)

君は舊幕臣木村芥舟の二男にして慶應二年十月を以て
生れ明治二十二年兄洗吉より分れて一家を創立す同
二十一年帝國大學理科大學物理學科を卒業し同二十三
年第一高等中學校教諭第二高等學校教授海軍技師を
經て同三十四年英國に遊學し翌三十五年歸朝海軍技師に
任ぜられ同三十七年無線電信機械創製の功により勳五
等に叙せられ更に同三十九年勳三等に陞敘せらるる後官
を辭し辦理士を閉業し傍ら前記各會社の重役たり長女
舞子(明二六、三、生)は熊本縣士族津留信人に二女亮子
(同二七、三、生)は靜岡縣人大島一生に三女多賀(同三
〇、九、生)は陸軍少將櫻井忠武に四女千賀(同三
三、三、生)は東京府人大山綱國に五女綾子(同三五、
一、生)は同府人美術批評家税所篤二に嫁せりA三九八
(東京市外中野町桃園三四電中野二五〇)
参照 大山綱國、櫻井忠武の項

木村 順太郎 森崎屋商店社長、麻生商店監
査役、福岡縣在籍
妻 フサ 明一八、九生
男 孝太郎 明二六、七生、長男孝太郎妻、福
男 シズエ 岡、原市太郎二女
男 重吉 明四三、三生
男 菊子 明四三、九生、七男重吉妻、大分
女 テル 村上巧兒長女
女 クニ 明四〇、一〇生

君は福岡縣人木村二三の長男にして文久元年三月を以
て生れ後家督を相続す現時森崎屋商店社長にして前記
會社の重役たり兼に島田不動產會社取締役たりし事あ
り家族は尙孫俊雄(大、三、一、生、長男孝太郎長男)同禮
次郎(同四、一、一、生、同二男)同君子(同七、四、生、同長
女)同徳子(同一〇、一、一、生、同二女)同武夫(同一二、一
〇、生、同三男)あり二男謙三郎(明二一、一、生)三男茂
三(同二三、四、生)八男喜八郎(同三五、一、二、生)は各分
家し弟富次郎(同三三、三、生)同妻タメ(同三七、一、二、生、福
岡、清水壽作三女)は其子女を伴ひ叔父儀三郎(天保五
一、生)も亦其一女を伴ひ各分家し長女カツ(明二八、七
生)は福岡縣人島田吉左衛門の養子となり二女ヒサ(同

君は兵庫縣人木村藤三郎の五男にして明治二十一年八
月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を
卒業し直に朝鮮總督府司法官試補となり同六年判事に
任ぜられ爾來成興地方法院元山支廳大邱地方法院光州
地方法院同浦支廳大邱支廳各判事成興光州各地
方法院部長に歴補し現時海州地方法院部長たり家族は
尙兄藤太郎(明二、七、生、現戶主)同妻つた(同一、二、八
生、兵庫、山口澄之妹)及其子女あり兄一治(同一、四、
九、生)同妻まさ(同一、二、一〇、生、兵庫、藤村芳太郎長
女)は其一子を伴ひ分家し姪子(同三、四、一、二、生、
一、九、生)は同縣人田岡友太郎の養子となり(朝鮮、
黃海道、海州地方法院内)

君は兵庫縣人木村藤三郎の五男にして明治二十一年八
月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を
卒業し直に朝鮮總督府司法官試補となり同六年判事に
任ぜられ爾來成興地方法院元山支廳大邱地方法院光州
地方法院同浦支廳大邱支廳各判事成興光州各地
方法院部長に歴補し現時海州地方法院部長たり家族は
尙兄藤太郎(明二、七、生、現戶主)同妻つた(同一、二、八
生、兵庫、山口澄之妹)及其子女あり兄一治(同一、四、
九、生)同妻まさ(同一、二、一〇、生、兵庫、藤村芳太郎長
女)は其一子を伴ひ分家し姪子(同三、四、一、二、生、
一、九、生)は同縣人田岡友太郎の養子となり(朝鮮、
黃海道、海州地方法院内)

君は兵庫縣人木村藤三郎の五男にして明治二十一年八
月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を
卒業し直に朝鮮總督府司法官試補となり同六年判事に
任ぜられ爾來成興地方法院元山支廳大邱地方法院光州
地方法院同浦支廳大邱支廳各判事成興光州各地
方法院部長に歴補し現時海州地方法院部長たり家族は
尙兄藤太郎(明二、七、生、現戶主)同妻つた(同一、二、八
生、兵庫、山口澄之妹)及其子女あり兄一治(同一、四、
九、生)同妻まさ(同一、二、一〇、生、兵庫、藤村芳太郎長
女)は其一子を伴ひ分家し姪子(同三、四、一、二、生、
一、九、生)は同縣人田岡友太郎の養子となり(朝鮮、
黃海道、海州地方法院内)

君は兵庫縣人木村藤三郎の五男にして明治二十一年八
月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を
卒業し直に朝鮮總督府司法官試補となり同六年判事に
任ぜられ爾來成興地方法院元山支廳大邱地方法院光州
地方法院同浦支廳大邱支廳各判事成興光州各地
方法院部長に歴補し現時海州地方法院部長たり家族は
尙兄藤太郎(明二、七、生、現戶主)同妻つた(同一、二、八
生、兵庫、山口澄之妹)及其子女あり兄一治(同一、四、
九、生)同妻まさ(同一、二、一〇、生、兵庫、藤村芳太郎長
女)は其一子を伴ひ分家し姪子(同三、四、一、二、生、
一、九、生)は同縣人田岡友太郎の養子となり(朝鮮、
黃海道、海州地方法院内)

キ二一

キ之部 木(村)

(※印は姻族關係)

三〇、二生)は同縣人岩崎久米吉三男鶴龜に三女マツ(同三八、二生)は福井縣人森久米太郎弟彌一郎に妹マ...

木村 尚一 京都市電氣局長 和歌山縣在籍 養父 大次郎 嘉永五、一〇生

君は和歌山縣人木村清太夫の三男にして明治二十年一月を以て生れ後先代大次郎の養子となり大正四年家督...

木村信太郎 邦畫家、日本美術院同人 茨城縣土族

君は茨城縣土族木村信義の長男にして明治九年七月を以て生れ大正十二年家督を相續す武山と號し邦畫家と...

木村新太郎 十一層商店社長、洋器具商 東京府在籍 養父 浦助 安政五、一〇生

君は宮城縣人木村久兵衛の弟にして明治十九年五月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治四十二年東...

男 彰三 明四一、一生 女 保重 明四四、三生 男 保子 大三、一生

君は千葉縣人須賀重太郎の二男にして明治三年六月を以て生れ先代浦助の養子となり同三十八年家督を相續...

木村甚三郎 正五位勳三等、退役海軍中佐 東京府土族 養父 孝子 明一七、二生

君は舊幕臣木村春東の長男にして明治四年九月を以て生れ同三十四年家督を相續す夙に佛國に留學し同國海...

木村政次郎 東北砂鐵礦務取締役、東京毎日 新聞社社長、木村同族代表社員 東京府在籍

君は岡山縣人木村勲介の長男にして文久元年六月を以て生れ明治四十二年家督を相續す先是同二十六年慶應...

女 實子 大五、七生 君は千葉縣人林長五郎の四男にして慶應元年七月を以て生れ先代とみの養子となり明治二十八年家督を相續...

木村 清一 燈籠取締役、鳥取縣在籍 因伯時報社専務取締役、鳥取電 燈取締役

君は鳥取縣人浦島政平の四男にして明治二十年二月を以て生れ大正五年先代静子の入夫となり家督を相續す...

木村清五郎 四谷區會議員、砂利商 埼玉縣在籍 養子 知巳 門四男

君は埼玉縣人木村利平の二男にして明治十年十二月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す砂利商を營み...

木村清五郎 七十七銀行専務取締役、仙臺不 動產取締役、紅久監査役 宮城縣在籍

木村清三郎 長岡縣在籍 新湯縣長 妻 ヨリ 明七、五生、新湯、佐藤甚八郎三 男 清司 明二九、一〇生、内務省社會局事 務官

君は新潟縣人太田仁平次の六男にして明治二年六月を以て生れ先代小太郎の養子となり同十九年家督を相續す...

木村清四郎 從五位勳二等、貴族院議員、千代 田生命保險(五)取締役、預金部 運用委員會委員、岡山縣在籍

君は新潟縣人太田仁平次の六男にして明治二年六月を以て生れ先代小太郎の養子となり同十九年家督を相續す...

木村清四郎 從五位勳二等、貴族院議員、千代 田生命保險(五)取締役、預金部 運用委員會委員、岡山縣在籍

妻 てつ 慶應三、一〇生、東京、門松藤七 男 茂雄 明四四、一〇生、學習院在學 女 養子 明四三、二生

君は岡山縣人木村勲介の長男にして文久元年六月を以て生れ明治四十二年家督を相續す先是同二十六年慶應...

木村 清治 衆議院議員(福島縣選出)、四倉銀 行力進社、平製水、共同人造肥 料各取締役、磐城セメント監 査役、醫師、福島縣在籍

君は福島縣人木村支策の二男にして明治三年八月を以て生れ同十九年先代兄順策の後を承け家督を相續す夙...

木村 精一 從四位勳四等、會計検査院検査官 第一部第一課長、岐阜縣在籍 養母 ヨカ 安政二、二生、岐阜、木村彦四郎

妻 五つ 明一六、一生、養父長四郎長女 男 剛 明三七、二生、經濟學士、北海道 拓殖銀行員

君は岐阜縣人松尾源吉の二男にして明治十一年十二月を以て生れ後先代長吉の養子となり大正三年家督を...

木村仙次郎 廣島畜産專務取締役、淺板製 所監査役在籍 妻 ヒサ 慶應三、二生、廣島縣、木谷鶴吉姉 孫 東司 明三二、四生、分家二男柳二男 男 市三 明三三、一〇生 男 春小 明三九、四生、四男市三妻、廣島 木村久吉二女

君は廣島縣人木村市藏の長男にして安政二年八月を以て生れ後家督を相續す現時廣島畜産會社専務取締役に...

木村 壯介 從三位勳一等功三級、海軍軍醫中 將、鹿兒島縣土族 妻 レン 慶應二、一〇生、福島、士、恒屋 男 健三 明一九、一生 男 修三 明二七、一生、長崎高商出身 男 健三 明二七、一生、長崎高商出身 男 健三 明二七、一生、長崎高商出身

キ之部 木(村)

(※印は姻族關係)

キ之部 木(村)

(※印は姻族関係)

各軍醫長佐世保海軍病院長海軍醫學校長海軍省醫務局長等に...

木村多四郎

西陣御召製造業 京都府在籍 妻 エネチ 明三九、一一生、京都、吉川宗兵...

木村泰治

第一土地建物地租取締役社長、臺北中央市場、臺北魚市場各代表取締役...

君は秋田縣土族木村謙齋の六男にして明治五年四月を...

以て生れ大正六年男尚平方より分れて一家を創立す現時第一土地建物地租取締役社長の外前掲諸會社の重役...

木村退三

醫學博士、木村病院、醫師 東京府在籍 母 ケイ 明元、五生、東京、土、田原敬知...

木村竹治郎

喜久屋食堂、割烹業並酒場 大阪府在籍 妻 シカ 明一七、八生、兵庫、中澤芳次郎...

木村種三郎

地主 大阪府在籍 妻 ヤスノ 明一六、一〇生、大阪、高浦友三...

木村時秀

醫學博士、東京帝國大學醫學部講師、東京帝國大學醫學部講師、東京帝國大學醫學部講師...

木村徳衛

醫學博士、東京帝國大學醫學部講師、東京帝國大學醫學部講師、東京帝國大學醫學部講師...

木村徳兵衛

木村徳兵衛商店社長、愛國生命保險監査役、米穀肥料問屋業 東京府在籍...

大阪府人播本源三郎の養子となり(大阪、東成、猪飼野町五八〇)

木村長四郎

シャラング工場社長、中國製鐵社、大阪府在籍 妻 カヨ 明二四、一一生、京都、本田善右...

木村恒夫

從四位勳三等功五級、陸軍少將、仙臺陸軍教導學校校長、熊本縣在籍...

木村常吉

茨城縣多額納稅者、下館銀行取締役、肥料商、茨城縣在籍...

木村篤太郎

京王電氣軌道、渡邊倉庫各取締役、東京鐵鋼製造監査役、辯護士、奈良縣在籍...

キ之部 木(村)

(※印は姻族関係)

の多額納稅者にして傍ら前記銀行の重役たり家族は尙孫欣一(大四、四生、長男得治長男)同壯二郎(同八、七生、同二男)同壽子(同三、四生、同長女)...

木村常助

大同銀行常任監査役 和歌山縣在籍 妻 しう 明一三、八生、三重、城内政市妹...

木村登太郎

南海信託取締役 和歌山縣在籍 母 ノア 元治元、一一生、祖父理三郎長女...

君は和歌山縣人木村徳太郎の長男にして明治二十二年一月を以て生れ同十四年家督を相続す同十五年神戶高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり...

生)は同縣人大谷誠一に録し弟茂(同三四、一一生)叔母マ(同六、七生)は各分家せり(和歌山、日高、松原村)...

木村時定

醫學博士、東京帝國大學醫學部講師、東京帝國大學醫學部講師、東京帝國大學醫學部講師...

木村徳兵衛

木村徳兵衛商店社長、愛國生命保險監査役、米穀肥料問屋業 東京府在籍...

妻 スエ 明一七、一〇生、熊本、田龍壽姉
元彦 大六、一〇生
君は熊本縣士族城戸源太郎の二男にして明治十四年五月を以て生れ昭和二年男中職方より分れて一家を創立す明治三十九年京都帝國大學法政科政治經濟科を卒業し大阪毎日新聞社東京勤務取締役東京日々新聞主幹等を経て現時大阪毎日新聞社取締役兼主幹たり歐米各國を巡遊すること二回に及ぶ家族は尙ほ長女トシ(大一一、一〇生)ありA一五六三(兵庫、武庫、精道村)蘆屋河原毛一七七〇(二電廣九〇〇)

城戸崎廣三

君は福岡縣人城戸崎源三郎の三男にして明治九年二月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同三十二年東京高等商業學校専攻部を卒業し同三十四年三井物産會社に入り本支店に勤務し大正四年臺灣製糖會社に轉じ現に同社理事にして商務部長の職に在り傍ら南國産業會社取締役たり同三十七八年職役に陸軍二等主計として出征し勳六等に叙す家族は尙二男トシ(大六、三三)二女トシ(同八、七)三女トシ(同二、一〇)一〇生)三男トシ(同四、八)あり(東京市外港町櫻丘七〇電青山一七三七)

城所國三郎

八王子市長
東京府在籍
妻 一 郎 大五、八生
養子 信五郎 明三、七生、長女妻子夫、茨城
女 秀子 明四、一〇生、養子信五郎妻、跡見女學校出身
女 秀子 明四、一〇生
君は東京府人馬場友次郎の二男にして明治十八年四月を以て生れ先代莊治郎の養子となり大正五年家督を相続す夙に酒類紙問屋業を創め大正五年南多摩都會議員に當選し爾來八王子市會議員同商業會議所議員同會頭並に昌榮商事玉南鐵道八王子瓦斯新歌舞伎座中央葡萄酒等各會社の重役に就任し昭和四年推されて八王子市長となり現に其任にあり家族は尙孫久子(昭四、一〇)養子信五郎(長女)同和子(同六、一〇)同二女(八)王子、八幡町一五)

喜田清左衛門

荒物紙商
兵庫縣在籍
母 壽 惠 明七、五生、大阪、藤井與一郎妹
君は兵庫縣人先代清左衛門の長男にして明治三十四年二月を以て生れ大正五年家督を相続し前名耕太郎を改め製名す荒物商を營む家族は尙姉千代(昭二六、三)同夫左二榮(同二八、三)三子、中村菊松(二男)及其一男二女弟次郎(同三九、七)同亮三郎(同四一、七)生)同哲四郎(同四五、一)あり叔母や(同五、一〇)生)は分家せり(西宮、與古道町四一電七三三)

喜田村湖治

醫學博士、喜田村眼科病院院長、醫師、福岡縣士族
妻 直子 明二五、九生、東京、士、岩重邦
同慶取給役
女 善一 明四四、一〇生
女 房子 大二、六生
君は福岡縣人先代西村敬治の二男にして明治九年四月を以て生れ先代篤治の養子となり大正四年家督を相続す先是明治三十五年東京帝國大學醫學部を卒業し同大醫學部手及地方衛生科部長に奉職後獨逸に留學三年歸朝直らに南滿醫學堂教授兼南滿洲鐵道會社大連醫院副院長たりしが現時大阪府に於て開業し喜田村眼科病院長たり同四十二年醫學博士の學位を受く家族は尙二男正次(大四、八)三男健三(同六、六)二女清子(同八、三)ありA二八三二(京都、小山上總町六六電西陣七五九)
參照 岩重邦彦岩重梅四郎岩重邦雄岩重重拾三岩重重亨岩重重平八岩重重好徳の項

喜多嘉七

神戸木村興業專務取締役、材木商、兵庫縣在籍
妻 嘉七 明二二、一〇生
女 美重子 明四三、三三、養孫庄三妻、亡養子清長女
君は奈良縣人先代檢蔵の長男にして明治二十七年七月を以て生れ大正九年家督を相続し前名秀雄を改め製名す酒問屋業を營む家族は尙長女眞美(大一一、七)弟喜久一(昭三三、七)あり妹幹恵(昭三三、一〇)生)は大阪府人喜多兵太郎に嫁し弟檢蔵(同三三、九)生)は其一男一女を伴ひ分家せり(大阪、東、農人橋一ノ一四電東二五)

喜多兵太郎

日之出製糖專務取締役、喜多兵資代社員、徳島縣在籍
妻 武彦 明二〇、八生、徳島、島本藤吉妹
女 千鶴子 明四五、一〇生
女 富美 大四、一〇生
君は徳島縣人喜多勇次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同三十五年家督を相続す夙に大阪高等商業學校を卒業現時喜多兵資會社代表社員にして日之出製糖會社取締役たり同大阪三品取引所取引員となり又江南株式會社取締役たりし事あり家族は尙五女幾枝(大八、三)四男慶郎(同三三、七)六女澄子(同五一、一〇)生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋字井ノ尻電蘆屋二五八一)

喜多又藏

勳三等、日本棉花、泰安紡績、東亞製糖、江防織、全南道製糖、日華製油各社社長、阪和電氣鐵道日華紡織、日本無線電信各社取締役、滿洲棉花、廣瀨取引所各社相談役、喜多代表社員
大阪府在籍
妻 又太郎 明一五、二〇生、大阪、香村英太郎
女 登志 明三三、七生、長女登志夫、大阪
女 滿壽 明四三、一〇生、清水谷高女出身
君は奈良縣人喜多長七郎の二男にして明治十年九月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同二十七年大阪高等商業學校を卒業し日本棉花會社に入り故市中支店高等の責任を得て孟買支店長となり後本館に復歸し支配人職務取締役を経て大正六年同社長に就任し今日に至る傍ら前記各會社の重役に就いて大阪商工會議所

喜多喜太郎

三ッ喜資出資社員
東京府士族
妻 はる 明四、二生、東京、鈴木實一郎妹
男 小二郎 明三〇、七生、三ッ喜資出資社員
男 彌助 明四一、三〇生
君は東京府士族喜多喜彦の長男にして文久三年二月を以て生れ明治七年家督を相続す夙に實業界に入り大日本人造肥料高砂生命保險其他諸會社の重役に就任し現に三ッ喜資會社出資社員たり二女貞(昭二八、六)生)は島根縣人高橋千代司長男に三女綾子(昭三三、一〇)生)は東京府人仲田定之助に養子ひで(同二七、六)生、東京、成岡秀雄姉)は千葉縣人月岡道保に嫁せり(東京市外大井町一三七一電大森七四七)
參照 月岡道保の項

喜多吉兵衛

東京府多額納稅者、東京木村倉庫專務取締役、東海運轉監査役、材木商、東京府在籍
妻 重二 明一三、一〇生、養子きん夫、愛知
養子 きん 明一八、一〇生、養子重二妻、東京、沖島勇吉二女
孫 吉右衛門 明四一、四生、養子重二長男
君は千葉縣人石井太郎兵衛の二男にして明治三年十二月を以て生れ先代みわの入夫となり同二十九年家督を相続し前名鐵太郎を改む材木商を營む東京府多額納稅者にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫正之助(大四、六)生、養子重二(昭三三、一〇)生、同長女同貴久子(同五一、七)同壽賀(同二〇、一〇)生、深川、木場町一七電本所一〇六六)
參照 大橋正太郎源田口虎次の項

喜多源逸

從四位勳三等、工學博士、京都帝國大學教授、理化學研究所研究員、奈良縣在籍

喜多河榮助

鐵業及製材貿易商
大阪府在籍
妻 やく 明四、一〇生、大阪、栗谷品三姉
男 太郎 明三一、三〇生
男 高子 明中全二女
君は京都府人北川多助の二男にして文久三年五月を以て生れ先代榮助の養子となり明治三十三年家督を相続し前名太郎を改め製名す鐵業及製材貿易商を營む夙に大阪土地會社重役に擧げらるる家族は尙孫泰藏(昭三三、一〇)生、長男太郎(昭二六、五)生)は同夫新次郎(同二〇、七)生、大阪、神木由三郎(昭二六、五)生)及其子女と共に二女君子(同二一、一〇)生)は同夫德造(同二三、一〇)生、滋賀、北澤義松(昭二六、五)生)及其子女と共に分家せり(大阪、西、南堀江通一ノ一三電櫻川五四)

喜多見長兵衛

澱粉製造業
京都府在籍
妻 レン 明一六、五生、養父長兵衛二女
男 慶治 明四四、一〇生
君は京都府人榎三郎の三男同重太郎同藤太郎の弟にして明治十一年十二月を以て生れ先代長兵衛の養子となり同十四年家督を相続し前名治三郎を改め製名す澱粉製造業を營む家族は尙三男茂三郎(大五、三)生)二女鈴子(同七、六)生)あり妹カワ(昭二四、九)生)は京都府人大山嘉兵衛に嫁せりA二八二二B二二二(京都、東山、稻町五條下ル三丁目豊浦町三四一電櫻川一〇八三)
參照 榎藤太郎、榎重太郎の項

喜多村貫二

明治製糖專務取締役、上海明華糖廠長、東京府在籍
妻 由喜 明一九、四生、小澤泰明長女
男 浩 明四二、一〇生
男 明四四、八生、長岡高工在學
君は神奈川縣士族喜多村儀嗣の二男にして明治十三年三月を以て生れ同四十二年明信一方より分れて一家を

喜多源治郎

君は奈良縣人喜多源治郎の二男にして明治十六年四月を以て生れ先代亥之祐の養子となり大正五年家督を相続す明治三十九年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し大學院に入り同四十四年同大學助教に任じ大正五年京都帝國大學工學部助教に轉じ同七年工業化學研究の爲英米佛瑞各國に留學し同八年工學博士の學位を受く同十一年同大學教授に任ぜられ工學部に勤務し化學研究所長たり(京都、上京、北白川伊織町六四電上四四〇七)

喜多孝治

從四位勳三等、衆議院議員(大阪府選出)、大阪府在籍
妻 隆 明一五、一〇生、大阪、山脇義住長女
男 隆 大四、七生
君は大阪府人喜多寛次郎の二男にして明治十一年二月を以て生れ同四十四年家督を相続す同三十五年東京法學院英語法學科を卒業し文官高等試驗に合格す同三十六年逓信省となり爾來逓信事務官兼書記官新潟郵便局長逓信省臨時調査局事務官兼監察官臺灣總督秘書官兼參事官同總督府殖産局長兼南州知事兼長官等に歴任し兼に英米各國に留學を命ぜらるる現時郵部より推されて衆議院議員に當選し政友會所屬たり家族は尙長女淑(大六、八)生)あり姉よし(昭七、二)生)は茨城縣人増田子信に嫁せり(東京市外花原町下蛇窪三九〇電高輪A〇〇)

喜多善五郎

金物商
兵庫縣在籍
妻 たみ 明一〇、一〇生、山路新左衛門長女
養子 輝子 明四三、七生、分家弟辰次郎長女
君は兵庫縣人先代善五郎の二男にして明治五年一月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名善藏を改め製名す金物商を營む妹ゆう(昭一三、七)生)は分家し同しう(同二八、一〇)生)も亦其夫辰次郎(昭一三、二)生、兵庫、山路善左衛門(四男)と共に其一女を伴ひ分家せり(神戸、島上町一、三電兵庫九八〇)

喜多樽藏

酒問屋業
大阪府在籍
妻 サト 文久二、一〇生、巖達七二女
母 カズエ 昭三三、三三、奈良、上田儀市郎
妹 昭三三、三三、奈良、上田儀市郎

創立于同三十五年東京高等工業学校機械科を卒業し川崎造船所に入り同三十九年之を辭し鐵工業を自營せしが後之を廢し同四十二年明治製糖會社技師となり爾來同社臺灣内地上海等の各工場長を経て昭和二年同社取締役に擧げられ現時同社上海明華糖廠長を稱せらるるに糖業視察の爲布哇に出張す家族は尙三男治(大三一)生、北大權科在學)長女御幸(同六、六生)二女和子(同八、一生)あり(中華民國、上海、眉州路七六電五〇三五七)

喜多村謙吉

教育二十五銀行頭取、教育養港倉庫、教育倉庫、教育中央倉庫各社取締役、福井縣在籍
 妻 明七、六生、福井、山上宗助三女
 男 作太郎 明二七、七生、慶應義塾出身
 女 知代 明三七、七生、長男作太郎妻、石川、泉喜一郎二女
 養子 明三七、八生、三女和賀夫、大阪生田太三郎三男
 女 和賀 明三九、一〇生、養子要妻、同志社女學校專門部出身
 女 八重 明二六、六生

喜多村家は古くより教育に住して代々石灰商を營む君は福井縣人大和田莊兵衛の七男にして明治二年八月を以て生れ先代作平の養子となり同十六年家督を相続す同二十七年教育銀行を創立して其頭取たりしが現時教育二十五銀行頭取にして傍ら前記諸社の重役を兼るるに教育長教育商業會議所會頭等擧げらるる家族は尙孫至郎(昭四、二生、養子要妻)同北郎(同五、五生、長男作太郎長男)あり長女多喜(明三三、一生、京都府立第一高女出身)は福井縣人加藤朝太郎に二女梅野(同三六、二生、出身校同上)は大阪府人鎌木益三に四女とみ(同四二、七生、出身校同上)は香川縣人箭田正俊に嫁せりA二〇〇〇B四五(福井、教育、教育町)

喜多村助十郎

佐々木村木店代表社員
 愛知縣在籍
 妻 明二一、一〇生、愛知、吉田新三
 男 亮三郎 明四二、四生
 男 晴之助 明四四、二生
 女 富子 大二、一生
 君は岐阜縣人宇野愛之助の弟にして明治七年一月を以

喜多村三木造

高島屋飯田支店支配人
 京都府土族
 妻 田 安政四、二生、祖父致敬長女
 妻 ちかゝ 明二九、三生、和歌山、宮本能吉
 男 正一 大元、一〇生
 君は京都府土族喜多村實之助の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正十一年家督を相続す現時高島屋飯田支店大阪支店支配人たり家族は尙二男典二(大四、一生)弟隆三郎(明二四、六生)同妻エミ(同三五、一〇生)長崎、石島芳之助三女)及其一男あり亡弟次郎妻八重(同九、一〇生、京都、松崎喜卯平姉)は其子女を伴ひ分家せり(京都、綴喜、八幡町)

喜谷市郎右衛門

東京府多額納税者、帝國ホテル、應用製菓各社取締役、日本製菓、大湊水電、帝國自動車工業商會各社監査役、喜谷實母本舖、製菓監査役、東京府在籍
 妻 喜和 明二五、三生、先々代市郎右衛門
 男 喜一 大三、三生
 女 喜代子 明四五、七生
 女 萬喜 明四四、六生
 君は衆議院議員大竹實一の甥にして明治七年十月を以て生れ同四十二年先代喜和の夫となり大正二年家督を相続し前名興亞を改む明治四十二年東京帝國大學醫學部卒業し製菓監査役を兼み喜谷實母本舖として知られ傍ら前記諸社の重役にして東京府多額納税者たり家族は尙二男喜六(大六、六生)二女美喜子(同八、七生)三男喜寛(同二〇、三三)四男喜徳(同二二、五生)あり養妹多代(明二六、一〇生)は東京府人喜谷玉恵の養子となり同府人鎌木錦を夫に迎へり(東京、京橋、大船町六電東橋五五)

喜谷 錦

大湊水電專務取締役、大湊冷蔵會社取締役、帝國自動車工業商會取締役、東京府在籍
 妻 多代 明二六、一〇生、東京、喜谷市郎右衛門養妹
 男 慶一 大三、三生
 君は東京府人鎌木庄五郎の三男にして明治十六年七月を以て生れ大正二年先代多代の夫となり家督を相続す現時前記諸社の重役たり家族は尙二男禮二郎(大九、一〇生)三男勇三(同六、一〇生)長女喜美子(同八、九生)四男祐五郎(同二〇、六生)二女豊子(同二二、三三)三女富子(同二四、八生)五女智恵子(昭五、四生)あり(東京、小石川、白山御殿町一〇七電小石川二〇六七)

喜連川多一

南海鐵道主計課長
 大阪府在籍
 妻 喜 明一八、八生、大阪、細井徳太郎
 男 隆 大六、五生
 女 秀子 大六、七生

喜屋武元持

沖繩縣多額納税者、米穀肥料商
 妻 マツ 明一、一〇生、沖繩、喜屋武幸
 君は沖繩縣土族喜屋武元傳の長男にして明治十一年四月を以て生れ同三十一年家督を相続す米穀肥料商を營み現時沖繩縣多額納税者に列し直接國稅四千二百七十四圓を納む家族は尙二女静子(大二三、八生)あり長女清子(明三〇、五生)は沖繩縣人田名眞康に妹ツル(同二七、七生)は同縣土族吉田福孫加那に嫁せり(那覇、通堂町二一電三五七)

喜安健次郎

正五位勳四等、鐵道監察官
 愛媛縣在籍
 妻 豊子 明二八、三生、東京、士、高根正二姉

貴志 政亮

臺灣銀行在籍、油頭支店支配人
 山口縣在籍
 妻 浪子 明三五、九生、山口、吉武眞藏長女
 男 英 雄 昭四、二生
 君は山口縣人貴志松之丞の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正十四年家督を相続す下關商業學校出身にして臺灣銀行に入り現時同行油頭支店支配人たり家族は尙長女淑子(大一一、七生)二女美那子(昭三、一生)弟武夫(明二七、一〇生)同妻文子(同二九、三生)山口、岩本貞一長女)及其子女あり(中華民國、油頭、聯里一號)

貴志 彌次郎

正四位勳二等功五級、陸軍中將、和歌山縣土族
 妻 ツユ 明二八、二生、栃木、川村啓三
 妻 重光 明二八、二生、養子エキ夫、高知士、岡田重久弟、陸軍歩兵大尉
 養子 エキ 同三七、九生、養子重光妻、栃木
 君は和歌山縣人貴志正恒の弟にして明治六年六月を以て生れ先代一郎の養子となり同四十二年家督を相続す同二十八年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少尉に任じ大正十四年陸軍中將に擧げらるる其間陸軍省出仕歩兵第三聯隊大隊長參謀本部附同歩兵第六十聯隊附歩兵第三聯隊教官兼研究部員歩兵第六十六聯隊長支那駐屯軍司令部附歩兵第三十一旅團長關東軍司令部附下關要塞司令官等に歴補し豫備役となる家族は尙孫光(大一一、一〇生)養子重光長女)同啓子(同二五、二生)同二女)同彌生(昭三、八生)同三女)あり養子かづみ(明三五、七生)和歌山、栗本重孝妹)は福井縣人加藤喜代次郎に養妹トリ(同二八、二生)は福井縣人西郷次郎に嫁せり(東京、牛込、市谷仲之町四九電牛込二〇九九)

貴志 彌右衛門

大阪府在籍
 妻 ハル 元治元、三生、大阪、長田作之助妹
 妻 カメ 明二一、一〇生、大阪、西尾與右衛門二女
 男 康一 明四二、三生
 女 アヤ 明四三、二生
 女 ミチ 大二三、一生
 女 シヅエ 大五、五生
 當家は先代和歌山縣より出て一家を創立したるに創まる父彌右衛門氏に洋反物商を營み傍ら不動産に投資し貴志家今日の基礎を爲す君は其長男にして生駒勘左衛門の兄なり明治十五年二月を以て生れ大正十二年家督を相続し前名奈良二郎を改め養子す明治四十年東京帝國大學文科卒業し家主たり養子甲南高等女學校名譽教頭たりし事あり家族は尙五女ナミ(大六、六生)六女ヒサ(同九、一生)二男博之助(同二〇、一〇生)あり弟一夫(明三三、一〇生、關西學院高等商業

貴志 米吉

大阪府多額納税者、大阪三品取引所取引員、大阪府在籍
 妻 とく 明一三、一〇生、大阪、麻田吉郎
 養子 喜四郎 明二七、二生、長女光子夫、佐賀山口熊次弟
 女 光子 明三五、三生、養子喜四郎妻
 女 好子 大三、二生
 君は大阪府人武藏野友吉の四男にして明治十年三月を以て生れ同三十三年家督を再興す大阪三品取引所第一部第二部取引員にして大阪府多額納税者に數へられ養子大阪三品商會社長たりし事あり昭和六年結婚章を授けらるる家族は尙六女高子(大八、六生)孫章子(同二二、二生、養子喜四郎長女)あり二女美代子

貴島 圭三

正五位勳五等、替林局技師、大阪替林局長、東京府在籍
 妻 トシ 明二一、七生、廣島、藤井郷三叔母
 君は大阪府人貴島俊の弟にして明治十六年九月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し同四十二年林務技師に任じ爾來秋田大林區署公有林野官造林課長同課長を歴補し同十三年替林局技師に轉じ秋田縣本各替林局長を経て昭和四年大阪替林局長となり今日に至る大正八年シベリヤに同十三年歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙長女秀子(大七、二生)三女都子(同二四、二生)あり(兵庫、武庫、精道村産屋宇寺田二六)

貴田 勝馬

電氣器具商
 山口縣在籍
 妻 スイ 明一七、一生、山口、清水助右衛門二女
 妻 トシ 明二一、一〇生、養父七兵衛長女
 男 順式 大七、三生
 君は福岡縣人島田才次郎の四男にして明治十一年十二月を以て生れ先代七兵衛の養子となり大正十年家督を相続す電氣器具商を營む君は山口縣多額納税者に列す家族は尙養妹トモ(明一九、五生、大阪、河合七兵衛二女)あり妹ツヅ(同二四、二生)同夫雅一(同一九、四生)山口、關光藏二男)は其二男一女を伴ひ分家し養妹リツ(同二二、二生、山口、二階五郎庶子)は福岡縣人黒住萬次郎に嫁せりA二三五〇B一〇七(下關、豊前田一五〇電二三五)

貴田 五兵衛

市岡組、土木建築請負業
 大阪府在籍
 妻 マツ 安政四、四生、磯田紋十郎五女
 妻 スエ 明一九、一〇生、京都、杉建吉太朗姉
 養子 幸太郎 明四一、四生、大阪、小萬竹一弟
 養子 磯子 明四四、三生、養子幸太郎妻、大阪、間口伊之助二女

女 かや子 大ニ、七生
 君は東京府人松崎庄兵衛の五男にして明治十六年二月を以て生れ先代三九郎の養子となり大正十二年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大學院に入る文官高等試験に合格し鐵道院書記同副參事鐵道局參事大臣官房貨物課長鐵道書記官に歴任し米國に留學し歸朝後官を辭して現時東京電氣鐵道取締役兼支那人たり家族は尙二男武雄(大六、八生)あり弟豊三郎(明二五、一〇生、支那大臣官房秘書課長)は同妻茂(同二九、三三、東京、小池順長女)及其二子を伴ひ分家せり(東京、牛込、新小川町二ノ一四電牛込三三〇)

菊池 慎三 從四位勳四等、東京市助役
 愛媛縣在籍
 妻 秀子 明三、五生、愛媛、菊池武虎長女、宇和島高女出身
 男 洋一 大一〇、八生

菊池 鈴太郎 日興證券取締役兼支配人
 神奈川縣在籍
 妻 正作 大八、一〇生
 君は東京府人齋藤金次郎の長男にして明治十八年一月を以て生れ後先代ヨシの養子となり同二十年家督を相續す現時日興證券取締役兼支配人たり家族は尙長女洋子(大一一、六生)二女玲子(同一一、五生)二男公作(昭五、九生)ありA二九九(東京市外入新井町新井)

菊池 武和 京都火災保險、阪神鐵工所、第一ラミ紡績、寶塚尼崎電氣鐵道各取締役、山陽皮革工場長電氣軌道、インライト工業各取締役
 東京府在籍
 妻 スエ 明三、三三、大分、廣瀬市姉
 男 次郎 明二八、三三
 君は東京府土族菊池宗泉の二男にして安政四年九月を以て生れ明治十年兄弟方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり二女千代(明三四、四生)は長野縣人青木一男に嫁せり(兵庫、武庫、御影町但馬口一七三ノ一電郵五七六)
 參照 青木一男の項

菊池 武熊 醫學博士、西宮同生病院長、醫師
 兵庫縣在籍
 妻 ヨネチヨ 昭長女
 當家は先代常三郎の分家に創まる常三郎氏に軍籍に入り果して陸軍軍醫總監に任じ醫學博士たり退職後大阪同生病院長兼外科部長となり等々西宮市に同生病院を開設す君は其長男にして明治十六年七月を以て生れ大正十年家督を相續す氏に熊本醫學專門學校を卒業し大正十一年帝國大學醫學部にて研究し昭和四年六月醫學博士の學位を受く現時西宮同生病院長たり二男典男(大四、九生)は分家弟武三の死跡を相續し妹マス(明二五、四生)は子爵曾根昌孝の母にして同ヨシ(同二七、一〇生)は東京帝國大學醫學部講師平松清平に同スマ(同二九、三三)は東京府土族松井和宗に同綾子(同三三、一〇生)は同府人中山元太郎に嫁し弟武國(同二四、三三)は分家せり(西宮、大瀨町二電五一七)
 參照 子爵曾根昌孝、松井和宗の項

菊池 武次郎 安田銀行玉島支店長
 兵庫縣在籍
 妻 サタ 明二六、一〇生、兵庫、谷屋ハナ
 男 正博 大一一、三三
 君は岩手縣人菊池賢藏の二男にして明治十九年十二月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す氏に盛岡中學校を卒業し第三銀行に入り貸付課次長支店長を經て安田銀行堀江支店長となり現時同玉島支店長たり家族は尙二男徹(昭二、二生)あり(岡山、淺口、玉島)

菊池 武彦 華商會館取締役兼支配人
 華商會館在籍
 妻 眞 昭三八、一〇生
 君は栃木縣人菊池剛二の二男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十二年東京高等商業學校を卒業し北海道炭礦汽船會社に入り後三倉會社に轉じ現時華商會館

宿一電六森三〇三
菊池 清治 從五位、松山高等學校教授
 愛媛縣在籍
 妻 イト 嘉永三、八生、愛媛、菊池儀助二女
 男 龍一 大二三、九生

菊池 清太郎 五十銀行、攝津製絲各取締役
 愛媛縣在籍
 妻 スエ 明一六、九生、愛媛、菊池福一郎
 君は愛媛縣人菊池徹照の四男にして明治十九年一月を以て生れ同四十三年先代兄清治の跡を承け家督を相續し前名清治を改め襲名す同四十四年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し大正十一年松山高等學校教授に任じ現に其任に在り家族は尙二女清子(大七、一〇生)二男高(同一一、一〇生)三男健三(同二三、四生)四男勝(同二五、一〇生)姉カメ(明元、三三)同ソテ(同三、一二生)あり姪カメ(同二六、二二生)姉コノ長女(同三、一二生)あり同ミカ子(同三一、九生、同二女)は愛媛縣人菊池福治郎の家籍に入り同ミカ(同三一、一一生、姉ソテ二女)は同縣人友松榮に嫁せり(松山、二番丁四六)

菊池 第三 從五位勳六等、式部官
 岩手縣土族
 妻 ユキ 明一七、四生、岩手、太田孝太郎長女
 男 俊雄 明三八、一二生
 女 清子 明三七、五生
 女 京子 明四一、九生
 君は愛媛縣人菊池彌太郎の長男にして明治十三年九月を以て生れ同十四年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙五女ヨシ(大八、一〇生)あり長女恭子(明三一、二生)は愛媛縣人末光千代太郎に姉シマ(同四、一〇生)は同縣人菊池八郎に同エイ(同七、九生)は同縣人菊池福一郎に同キキ(同九、八生)は同縣人菊池雄三郎に嫁せり(愛媛、西宇和、八幡濱町)
 參照 末光千代太郎の項

町電三三
菊池 武憲 弘南鐵道銀行代表取締役、陸奥銀行、青森縣在籍
 妻 健雄 安政五、六生、青森、鎌田健三郎弟、現戸主
 父 健雄 安政五、七生、祖父勳次郎長女
 母 しゅん 明一八、八生、青森、古川政孝姉
 妻 ユン 明三五、一〇生
 男 武英 明四〇、三三、長男武英妻、青森月永長藏孫
 女 武丸 明四一、一〇生
 君は青森縣人菊池健雄の長男にして明治十一年十二月を以て生れ現時弘南鐵道會社代表取締役の外前記各銀行の重役たり家族は尙四男武晴(大四、五生)五男武任(同六、一〇生)六男武正(同七、一〇生)六女京子(同一一、七生)孫カメ(昭三、三三、長男武英妻)同英惠(同五、六生、同二女)あり長女ミヨ(明三四、三三)は青森縣人濱田政榮に二女アキエ(同三七、一〇生)は同縣人川口要之助に二女八郎に三女みどり(同三九、六生)は同縣人藤苗唯儀に四女はるの(同四〇、二生)は同縣人猪股幸一に妹なか(同四一、五生)は同縣人北山彦作長男儀正に同とし(同四二、二生)は同縣人宮川富太郎長男慶太郎に同とし(同四三、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四四、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四五、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四六、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四七、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四八、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四九、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五一、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五二、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五三、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五四、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五五、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五六、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五七、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五八、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五九、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六一、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六二、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六三、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六四、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六五、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六六、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六七、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六八、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六九、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七一、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七二、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七三、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七四、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七五、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七六、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七七、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七八、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七九、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八一、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八二、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八三、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八四、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八五、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八六、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八七、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八八、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八九、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九一、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九二、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九三、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九四、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九五、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九六、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九七、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九八、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九九、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九一〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九二〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九三〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九四〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九五〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九六〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九七〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九八〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九九〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九一〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九二〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九三〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九四〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九五〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九六〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九七〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九八〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九九〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同六九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同七九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同八九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九一〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九二〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九三〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九四〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九五〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九六〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九七〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九八〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同九九〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一〇〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一一〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一二〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一三〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一四〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一五〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一六〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一七〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一八〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同一九〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二〇〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二一〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二二〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二三〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二四〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二五〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二六〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二七〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二八〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同二九〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三〇〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三一〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三二〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三三〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三四〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三五〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三六〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三七〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三八〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同三九〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四〇〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四一〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四二〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四三〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四四〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四五〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四六〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四七〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四八〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同四九〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五〇〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五一〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五二〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五三〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五四〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五五〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五六〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五七〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五八〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉隆治に同とし(同五九〇〇〇〇、一〇生)は同縣人高杉

礦會社を經營して社長となり傍ら前記各會社の重役に...

菊地行藏

正五位勳四等、佐賀高等學校教授、宮城縣士族...

菊地太惣治

從四位勳三等功五級、陸軍歩兵中尉、岩手縣在籍...

菊地明夫

宮城縣在籍、宮城縣會議員、渡波町長...

菊地庄之助

秋田縣多額納稅者、五城目軌道、五城目木材各業取締役、製材業...

菊地德次郎

山形縣多額納稅者、酒田商會、山形縣在籍...

菊地平吉

鹽釜倉庫社長、雙立製水倉庫、鹽釜倉庫、新炭商、宮城縣在籍...

菊地新平

從五位勳五等、稅務監督局技師兼、地方技師、大阪稅務監督局鑑定部...

菊野吉右衛門

中越銀行取締役、大谷派井波別、院相談役、富山縣在籍...

菊地平吉

村木商、東京府在籍、明三、一、二生、東京、大西清次...

菊野公長

從三位勳四等、侯爵、貴族院議員、舊公卿家...

菊野庄三郎

俱陽土地商會事務取締役、三宮俱樂部經營主、兵庫縣在籍...

菊地辨藏

宮城縣多額納稅者、金融業、宮城縣在籍...

菊原敬次

富士洋紙店營業取締役、廣林商會、西肥板紙、洋紙合同販賣各業...

菊地茂七

正五位勳三等、海軍少佐、朝鮮道立醫院醫官兼朝鮮總督府道技師、平安北道立江界醫院長...

母 多慶 嘉永五、五生、石川、土、青木三右衛門長女
妻 馨 明三、八生、石川、土、端植太郎二女
男 秀男 明三、八、四生、醫學士
 君は石川縣士族岸秀實の二男にして明治十一年九月を以て生れ昭和五年家督相続す明治三十六年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し熊谷小樽熊本各中學校教授に歴任し現時第四高等學校教授にして創造部長を兼ね大正十一年英米兩國に留學し英語及英文學を研究せり家族は尙三女澄子(大六、六生、石川縣立第一高女在學)あり長女雪子(明四、五、七生)は石川縣醫師會長大河原保智長男法學士保彦に姉志計(同八、一)生は石川縣人市川市三郎長男公證人法學士仙太郎に嫁せり(金澤、中主馬町三電四一七一)

岸 清一 法學博士、辯護士、法制審議會委員、大阪瓦斯取締役、大日本電氣協會監査役、大日本體育協會會長、東京府在籍、協會名譽會長、東京府在籍
妻 壽美 明九、四生、東京、坂井五一長女
男 偉一 明三、九生、東京女學館出身
 君は舊松江藩士岸伴平の二男にして慶應三年七月を以て生れ明治三十二年兄正明方より分れて一家を創立す同二十二年東京帝國大學法科大學法科を卒業し直ちに辯護士となり専ら訴訟事務に従事し屢々東京辯護士會長に擧げられ民事訴訟に就ては第一人者として知らる同四十三年法學博士の學位を授けられ外遊する事前後十數回なり又體育の獎勵普及に努力し大正十年第六回體育協會長となり同十二年大阪に於て開催せる第六回全日本選手權競技大會に會長となり同十四年マニラに於て開催せる第七回大會に名譽會長に推され昭和二年上海に於て開催せる同大會の第一副會長となり又同五年東京に於て開催せる第八回世界オリンピック大會に日本代表委員として参加し國際オリンピック委員會に推され昭和四年アムステルダムに開催せる第九回世界オリンピック大會に日本代表委員として参加せり現時前記各會社の重役たり兼に東京第一辯護士會長たりし事あり美術を好み東京俱樂部員たりA四八〇七〇(東京、芝、伊子町七〇電高輪六二)

岸 孝雄 從七位勳六等、陸軍二等主計、福岡縣在籍
妻 ユキ 明二、九、二生、先代耕三郎養子、門長女
養母 ヒサ 慶應三、六生、福井、青地七左衛門長女
 君は大阪府人岡本和の四男にして明治二十一年一月を以て生れ先代耕三郎の養子となり大正八年家督を相続す明治四十三年大阪高等商業學校を卒業し鐵道商を營み福岡縣多額納稅者にして直接國稅六千七百四十三圓を納む家族は尙亡叔父彦三郎妻コウ(慶應三、二生、靜岡、鈴木權三郎二女)ありA二七七五B七七六(門司露月町二丁目電五一五)

岸 達也 正五位勳四等、判事、大審院判事、東京府士族
妻 サタ 安政三、三、秋田、土、佐良士庄長女
男 盛一 明四、一、生、秋田、土、高橋松坪三女
男 盛次 明四、三、四生
 君は秋田縣士族岸規治の長男にして明治十四年三月を以て生れ同三十八年家督を相続す同三十九年京都帝國大學法科大學法科を卒業し司法官試補となり同四十年判事に任ず爾來盛岡地方札幌函館同地方甲府區同地方大阪地方各同區各裁判所判事高知浦和和地方法院所各部長官東宮各控訴院判事に歴補し昭和三年現職大審院判事となる家族は尙三男幸喜(大六、七)あり妹タカ(明一、九、六)は尙手縣人矢野四郎に同シ(同二、八、四)は同縣人日澤廉次郎に嫁せり(東京市外杉並町阿佐ヶ谷七九六)

岸 右矩 東京府在籍
妻 ミ 明一、一、二生、長野、細川平八妹、東京裁縫女學校師範科卒業
男 美和夫 明三、八、一、二生、法學士、東北帝國大學法文系教授
男 省三 明四、一、三、生、日本大學工學部士科出身
女 きみ 大六、二、生、九段精華高女在學
 君は群馬縣人岸喜代三の孫にして明治十一年二月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十六年明治大學を卒業し現時東京セメント會社取締役たり家族は尙三男典二(大五、八)生、成城高等學校中學校部在學あり(東京、牛込、市谷藥王寺町七一電牛込九九八)

岸 義男 南信電力取締役、木曾川電力、東海電機製造、梓川電力、矢作水力各監査役、東京府士族
妻 清子 明二、六、四生、大阪、久保庄三郎長女
男 純 大一一、四生
 君は京都府士族岸田氏美の二男にして同幸雄の兄なり明治十九年九月を以て生れ大正十二年家督を相続す現に京都商業學校を卒業し大正四年大阪商船會社に入り天津支店社員ケープタウン新嘉坡各在勤員を経て昭和二年同社釜山支店長となり現時同社天津支店長にして傍ら北鮮運輸會社取締役たり家族は尙長女夏子(大六、七)生、二女澄子(同二、一、一)あり妹浪江(明二、二、三)は男爵深尾隆太郎に同妻(同二、八、一)生は岐阜縣人高橋逸夫に嫁せり(天津、日本租界淡路街七)參照岸澤彌吉の項

岸 米藏 兵庫縣多額納稅者、白米商
妻 卯之介 嘉永五、一、生、現戸主
男 明二 四、九生、滋賀、上野治三郎
女 政乃 大五、二生
 君は兵庫縣人岸卯之介の長男にして明治十三年五月を以て生れ白米商を營み直接國稅一千八百四十四圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙三女美代子(大一一、〇、一〇)生、四女幸子(同二、一、五)生、五女和子(昭二、九)生あり(神戸、北長狭通一ノ一七四電釜合四六一七)參照岸卯之介の項

岸 惣八 伊萬里實業銀行頭取
妻 ヨシ 明一、五、六生、佐賀、岸川善太郎
男 吉平 明三、七、一、生
男 八壽治 明三、八、五、生
女 スマ 大二、五、生
女 トシ 大四、二、生
 君は佐賀縣人岸川吉兵衛の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正十五年家督を相続す現時伊萬里實業銀行頭取たり家族は尙四男正巳(明四、五、四)生あり(佐賀、小城、小城町)參照岸川惣八の項

岸 菊郎 北鮮運輸取締役、大阪商船會社津支店長、京都府士族
妻 トク 文久元、三、生、京都、孝學女網長
男 清子 明二、六、四生、大阪、久保庄三郎長女
女 純 大一一、四生
 君は京都府士族岸田氏美の二男にして同幸雄の兄なり明治十九年九月を以て生れ大正十二年家督を相続す現に京都商業學校を卒業し大正四年大阪商船會社に入り天津支店社員ケープタウン新嘉坡各在勤員を経て昭和二年同社釜山支店長となり現時同社天津支店長にして傍ら北鮮運輸會社取締役たり家族は尙長女夏子(大六、七)生、二女澄子(同二、一、一)あり妹浪江(明二、二、三)は男爵深尾隆太郎に同妻(同二、八、一)生は岐阜縣人高橋逸夫に嫁せり(天津、日本租界淡路街七)參照岸澤彌吉の項

岸 源三郎 東京銀行頭取
妻 みの 明二、五、一、生、京都、豐見與平次長女
男 重遠 大八、二、生
女 多喜子 大八、六、生
 君は兵庫縣人岸田源太郎の長男にして明治二十二年一月を以て生れ同三十六年家督を相続す現時東京銀行頭取たり家族は尙二女しげの(大六、二)生、二男和恒(同九、一)生、三男惟孝(同二、一、一)生、四男源四郎(同二、一、一)生あり姉れい(明二、一、九)生は兵庫縣人長田佐太郎長男亮爾に叔母つる(文久二、一)生は同縣人上中正之助に嫁し叔父藤太郎(明四、七)生同妻かすえ(同二、一、五)生、兵庫、近藤豐藏妹は其三子を作ひ分家せり(兵庫、加東、上東條村)

岸 善太郎 小川島捕鯨、北九州鐵道、大郡土
妻 ハマ 安政元、一、生、佐賀、土、吉田卯右衛門二女
男 政 明二、四、生、佐賀、土、中澤集
男 欽一 明三、六、二、生、早大經濟科出身、春秋社社員
 君は佐賀縣人岸川善七の長男にして明治十年一月を以て生れ同四十二年家督を相続す曾て煙草元寶棚を業とし現時前記各會社の重役にして兼に佐賀商會社社長の外關門泰唐津製鋼所各會社の重役たりし事あり家族は尙四男泰造(大一一、二)生、二女美代子(明五、一)生、長崎、松永磯吉孫あり長女ミサチ(同三、八、一)生、唐津高女出身)は醫學士北川彰に養子セリ(同二、四、一)生、佐賀、土、高須銀平妹)は佐賀縣人馬場伸太郎弟周三に同シ(同二、一、五、六)生は伊萬里實業銀行頭取岸

岸 政雄 正四位勳二等功五級、豫備海軍中將、兵庫縣在籍
妻 こさ 明二、一、三、生、兵庫、山田篤治郎長女
男 忠雄 明四、一、九、生
男 陳典雄 明四、四、七、生
 君は兵庫縣士族岸科忠藏の三男にして明治十一年二月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十三年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ大正十四年海軍少將に昇進す其間造船監官造船監督官海軍部需部長與海軍工廠水雷部長兼海軍技術所長海軍艦政本部

岸 小三郎 大阪府在籍
妻 久子 明二、二、五、生、大阪、三橋新右衛門妹
 君は大阪府人先代彌吉の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正八年家督を相続す共に前名彌三郎を改め襲名す岸澤屋本店と稱し旅館及料理業を營む弟藤四郎(明二、三、八)生、同妻タネ(同二、八、二)生、大阪、竹原仙藏(五女)と共に妹やぶ(同二、五、五)生、同夫作藏(同二、四、一)生、大阪、天野榮太郎弟)は其二子と共に各分家せり(大阪、南、大和町四七電扇南一四四)

岸 田小三郎 大阪府在籍
妻 久子 明二、二、五、生、大阪、三橋新右衛門妹
 君は大阪府人先代彌吉の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正八年家督を相続す共に前名彌三郎を改め襲名す岸澤屋本店と稱し旅館及料理業を營む弟藤四郎(明二、三、八)生、同妻タネ(同二、八、二)生、大阪、竹原仙藏(五女)と共に妹やぶ(同二、五、五)生、同夫作藏(同二、四、一)生、大阪、天野榮太郎弟)は其二子と共に各分家せり(大阪、南、大和町四七電扇南一四四)

キ之部 岸(田)

(※印は姻族関係)

キ五二

貴代子 大五、三三
君は大阪府岸田小一郎の兄にして明治十六年一月を以て生れ大正元年家督を相続す...

岸田民助

酒造業
大阪府在籍
妻 満江 明三〇、三三、廣島、橋原徳次郎

岸田恒太郎

九州勸業銀行取締役、福岡肥料
筑前宮田郡各務取役、福岡肥料
妻 ミササ 明三八、一三、福岡、瓜田駒次郎

岸田秀之助

十合呉服店取役
大阪府在籍

嘉永三、一〇生、兵庫、國眼太五
明三三、一〇生、京都、安井喜右衛門長女

岸田正記

衆議院議員(廣島縣選出)
妻 和子 明三九、一二生、廣島、小田得一

君は廣島縣岸田幾太郎の長男にして明治二十八年十二月を以て生れ...

の養子となり叔父多一郎(同二、八生)は同妻キヨミ(同一九、一一生、廣島、武田善長女)及其子女を伴ひ分家せり(廣島市段原町四六九八)

岸田幸雄

日本相互貯蓄銀行取役、日本生命保険取役、富士製紙
妻 球 明二六、一〇生、慶大出身

君は舊藩藩士山脇金蔵の長男にして明治二年九月を以て生れ...

岸田幸雄

因幡水電氣専務取締役、日本電力電氣取締役、美章土地地産監査
妻 幸 一 大一〇、九生、

岸野牧夫

從七位勳六等、徳島縣會副議長、肥料商、徳島縣在籍
妻 テル 明二四、三三、徳島、土、大塚文内二女

岸原重治

從四位勳三等、製鐵所技師、動力部長兼研究所第四室主任
妻 キヨ 明一七、六生、福岡、土、中島慎次郎二女

岸邊福雄

東京市會議員、東洋家政學校長、東洋幼稚園長、京都府在籍

岸村徳平

五十一銀行、和泉貯蓄銀行、岸和田紡績、岸和田煉瓦各取役
妻 ヲノ 明二八、三三、關大専門部高等商學部出身

岸本綾夫

從四位勳二等功五級、陸軍中將、陸軍科學研究所附兼造兵廠附、岡山縣士族

岸本郁之助

大福商會社長、岸本共同監査役、大阪府在籍
妻 ふさ 明三五、一三、兵庫、三木拙二二女

岸本一兵

岸本特殊印刷、日本イール器各務社長、蒲田倉庫取役、岸本商會、ヒアノ蓄音器卸商
妻 まつ 明二〇、七生、福井、島田清太郎

キ之部 岸(野、原、邊、村、本)

(※印は姻族関係)

キ五三

北小路資武 正四位、子爵、日本特産織物、第二日本特産織物、住宅互助各務取締役、舊公卿家
 男 功 光 明二〇、八生、子爵中園輝雄從姉
 男 喜 勝 明三、四生、從五位
 男 喜 勝 明三、四生、長男功光妻、東京
 女 喜 勝 明三、四生、長男功光妻、東京
 女 喜 勝 明三、四生、長男功光妻、東京

北崎 巽 從六位勳六等、京都市收入役、會計課長、石川縣在籍
 男 俊 元 大九、二生
 男 俊 元 大九、二生
 男 俊 元 大九、二生

北崎 秀三 中津銀行專務取締役
 大分縣在籍
 妻 嘉永元、七生、大分、梅津壽平長
 妻 ヨシキチ 明一六、四生、養父長平二女
 妻 ヨシキチ 明一六、四生、養父長平二女
 妻 ヨシキチ 明一六、四生、養父長平二女

北里 柴三郎 正三位勳二等、男爵、醫學博士、貴族院議員、帝國學士院會員、醫學研究會會長、慶應義塾大學醫學部顧問、北里研究所長、東京府醫師會會長、日本結核預防會會長、日本醫師共濟會會長、生命保險獎勵會會長、東京府醫師會會長、東京府醫師會會長、東京府醫師會會長

北里 雄平 從七位勳六等、熊本縣會議員、小國銀行頭取、熊本縣在籍
 妻 龍 夫 明二六、四生、大分、岐部基一妹
 妻 龍 夫 明二六、四生、大分、岐部基一妹

北澤 重藏 甘果太郎本舖、甘果商、長野縣在籍
 妻 嘉 幸 明四三、一生

北澤 種一 正五位勳五等、東京女子高等師範學校附屬高等女學校主事、長野縣在籍
 妻 國 惠 明二、二生、長野、百瀬金吾
 妻 國 惠 明二、二生、長野、百瀬金吾

北島 鐵雄 正五位勳五等、鹿兒島高等農林學校教授、靜岡縣在籍
 妻 唯一 義照弟、現戶主
 妻 唯一 義照弟、現戶主

北島 謙次郎 從五位勳六等、拓務書記官兼外務省書記官、管理局第一課長、佐賀縣在籍
 妻 憲 治 慶應元、二生、現戶主
 妻 憲 治 慶應元、二生、現戶主

北島 七兵衛 和歌山縣多額納稅者、南海酒造、由良染料各種社長、和歌山紡織、取締役、四十三銀行監査役、綿、和歌山縣在籍
 妻 武吉 明二四、二生

北島 精一 秋田縣多額納稅者、平鹿銀行取締役、農業、秋田縣在籍
 妻 文久 二、二生、秋田、小林作太郎
 妻 文久 二、二生、秋田、小林作太郎

北島 多一 從四位勳四等、醫學博士、慶應義塾大學醫學部教授、同醫學部長、北里研究所副所長、中央衛生會委員、日本醫師共濟會生命保險(互)取締役、東京府在籍
 妻 信 成 明三五、二生
 妻 信 成 明三五、二生

北澤 種一 正五位勳五等、東京女子高等師範學校附屬高等女學校主事、長野縣在籍
 妻 國 惠 明二、二生、長野、百瀬金吾
 妻 國 惠 明二、二生、長野、百瀬金吾

北島 謙次郎 從五位勳六等、拓務書記官兼外務省書記官、管理局第一課長、佐賀縣在籍
 妻 憲 治 慶應元、二生、現戶主
 妻 憲 治 慶應元、二生、現戶主

北島 多一 從四位勳四等、醫學博士、慶應義塾大學醫學部教授、同醫學部長、北里研究所副所長、中央衛生會委員、日本醫師共濟會生命保險(互)取締役、東京府在籍
 妻 信 成 明三五、二生
 妻 信 成 明三五、二生

以て生れ同三十四年家督を相続す同二十八年帝國大學醫學部卒業し同三十五年醫學博士の學位を受く後傳染病研究所技師となり内務省技師を兼ね衛生局防疫課長の職に在りしも大正三年之を辭す現時慶應義塾大學醫學部教授同醫學部長にして北里研究所副所長を兼ね中央衛生會委員に擧げらるる家族は尙五男健吉(明四五、三三)あり長女富士見(同三〇、八八)は男爵橋元正雄に嫁せり(一四六〇)東京市外大久保町西大久保四三九電四谷三七七)參照 男爵小池正晃、男爵橋元正雄、男爵井内勇、小池正彪、南弘の項

北島長兵衛

大正製糖專務取締役、東海貿易(代表社員)富山縣在籍 慶應元、一三二、富山、和田和平 妻 加藤治 明二四、二二、山梨、櫻林格造妹 男 魁 大二、八八

君は富山縣人北島長三郎の長男にして明治十八年九月を以て生れ同四十一年家督を相続す同四十三年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙長女喜美子(大六、二二)あり妹(同二六、二二)は富山縣人定塚門次郎に同(同三二、四二)は東京府人佐島治兵衛に嫁し兄弟豊太郎(同二二、三三)富山、和田常太郎(長男)は其一子に伴ひ分家せり(東京、赤坂、青山南町六一三五電富山一八四四)參照 定塚門次郎の項

北島徳一

佐賀縣多額納稅者、酒造業 佐賀縣土族 安政二、一三二、佐賀、土、山田 妻 乙吉伯母 明二七、八八、佐賀、土、中島房 男 常 一 大三、三三

君は佐賀縣土族北島佐八の六男にして明治二十一年三月を以て生れ大正十一年家督を相続す酒造業を營み佐賀縣多額納稅者たり家族は尙長女エイ(大六、一〇)二女トヨ(同二〇、二二)あり姉トモ(明六、九)は佐賀縣人北島俊行に嫁せり(佐賀市西魚町八五)參照 北島俊行の項

北島俊行

姪濱鐵業專務取締役、酒造業 佐賀縣在籍

妻 トモ 明六、九、佐賀、土、北島徳一 男 隆一 明二七、一三 女 ヲサ子 明三五、九、長男隆一妻、佐賀 男 泰三 明三六、一、一、法學士 女 ひで 明四五、五、佐賀高等女學校出身

北島靖

第一銀行支店支店長 文久三、六、静岡、橋本清兵衛 妻 てる 明二八、一、静岡、海野善次郎 男 正 男 大八、九

北島貴孝

從四位、男爵、貴族院議員 舊土族 明三〇、二、佐賀、侯爵菊亭公長妹 妻 幸子 佛英和高女出身

北島義麿

日之出製糖專務取締役 東京府在籍 明二七、九、静岡、杉山左門治 妻 みさ 四女

北代達枝

和歌山商工會議所議員、四十三銀行專務取締役、和歌山縣在籍 明三、一、二、和歌山、小野國次 妻 郎長女 明二九、五、日本銀行員、法學士 男 誠 明三六、八、長男誠彌妻、東京 女 彌 鳥甲子二長女

北園金四郎

三菱銀行專務、九ノ内支店長 鹿兒島縣在籍 明三〇、八、長野、増澤玉八四 妻 八千代 女

北田内藏司

三越常務取締役、二幸商會專取 締役、千葉縣在籍 安政三、七、千葉、田邊藏之丞 妻 慶子 明二四、八、千葉、石橋彌姉 男 利平 明四三、五

北田正平

衆議院議員(千葉縣選出)、辯護士 東京府在籍 明二三、一〇、東京、間居大路 妻 榮子 無平養子 男 隆太郎 明四五、三 女 連子 明四三、七

北田正元

正五位勳四等、公使館一等書記官 東京府在籍 明三三、四、前内閣總理大臣濱 妻 幸 昭三、五 女 口雄幸二女

北田彦三郎

大東海上火災保險社長 東京府在籍 明一九、八、男爵誠之助妹 妻 英子 明一九、七、大阪、殿村平右衛門 男 孝三郎 明四、五、大阪、殿村平右衛門 女 節子 明四、五、大阪、殿村平右衛門

北谷幸八

青森縣多額納稅者、青森縣商業銀行、青森貯蓄銀行、青森無盡各專取締役、青森電燈監査役、買商 青森縣在籍 嘉永四、六、青森、山田唯五郎 妻 文久二、三、青森、細井金兵衛 叔母 明一九、六、養祖父幸八二女 男 幸七 明三三、七 女 幸七 明三六、一〇、長男幸七妻、青森、川村三郎妹 男 政七 明四〇、八 女 ツル 明四二、二

北田久右衛門

岡山縣多額納稅者、岡山合同貯蓄銀行取締役、農業、岡山縣在籍 文久元、五、岡山、北田萬藏長 妻 與年 女 明一八、二、岡山、佐藤佐平二 男 春 明三二、二、長女幾代夫、岡山 女 幾代 明四〇、三、養子一正妻 女 政子 明四〇、三、養子一正妻 女 恒子 大五、九

北田正元

君は自由黨の先輩北田正重の五男同正平の弟にして明治二十一年二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大正元年外交官及領事官試験に合格す外交官補に任ぜられ公使館三等書記官同二等書記官外務省参事官等に歴任し同十一年支那及滿洲に出張し同十三年公使館一等書記官に任じ瑞西國在動を経て現時チ、國策ハリ(在チリ國帝國公使館内) 參照 北田正平、濱口雄幸の項

北田正元

君は高知縣人北代一之の二男にして慶應三年一月を以て生れ大正八年兄弟方より分れて一家を創立す現時前記各銀行の重役にして和歌山商工會議所議員に推さるる家族は尙孫多美(大三、一、長男誠彌長女)同禮一郎(同二五、七、七、同長男)あり長女秀(明三四、三三)は和歌山縣人増田源二に嫁せり(同三二、一〇)は同縣人武田彰に三女晴子(同四二、二)は島根縣人幸田勉に嫁せり(和歌山市玉藻町二、三)

北田正元

君は千葉縣人北田直太郎の長男にして明治十六年一月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十九年慶應義塾法科を卒業し三井物産會社に入り後千代田組大並支店長となり大正五年三越吳服店に入り支店支店長に本店營業部長を経て現時同社常務取締役に擧げられ傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男庸吉(明四五、二)三男英三(大三、八)長女美津(同六、一)二女貞子(同九、九)あり(一八三九)東京、芝、白金今里町五電高輪二七四一)

北田正元

君は千葉縣人北田權三郎の長男にして明治七年十月を以て生れ同三十六年家督を相続す同三十七年東京帝國大學法科大學法科を卒業し直ちに東京海上保險會社に入りしも在職二年にして是を辭し獨逸に航しゲツチ

以て生れ北谷竹次郎の養子となり大正六年養祖父幸八の後を承け家督を相続し前名又吉を改めて襲名す實商を營み傍ら前記銀行會社の重役を兼ね縣下の多額納税者に列し直接納税二千六百二十圓を納む家族は尙ほ孫泰(大二三、一、一、一、長男幸七長女)同貞(同五一、八、八、同二女)同八郎(同三三、三、三、同長男)同信(同五五、七、七、同三女)あり長女みつ(明三七、三、三)は青森縣人船越宗作三男精一に嫁し養姉まさ(同八一、一、一)は同縣人奥野清左衛門の死跡を相続し養兄貞作(同七、二、二、二、青森、増田彦作弟)は北海道人七尾まさの夫となれり(青森市米町一)

北地 鶴松

兵庫縣多額納税者、洋酒食料品商
兵庫縣在籍
妻 きよみ 明四、二、二、大阪、水野昇尋長女
男 儀夫 明三二、一〇、一〇、生
男 儀三 明三六、七、七、生
女 みつ 明三八、九、九、生
男 清三 明三九、八、八、生
男 明三九、八、八、生
女 徳子 明四三、一、一、二、生
女 テル 大三、四、三、生

君は兵庫縣人北地治郎吉の長男にして明治六年十月を以て生れ同三十一年家督を相続す洋酒食料品商を營み縣下の多額納税者たり二女セイ(明三五、四、四)は大坂府人貞井三三に嫁はる(同二二、三、三)は同府人阪口平三郎長男末吉に嫁し弟彌太郎(同九、五、五)同喜三郎(同七一、四、四)は各分家せり(神戸、下山手通四ノ五七電番合四〇五〇)

北出 作次郎

大坂府多額納税者、北出時計店
代表取締役、時計商、大坂府在籍
妻 ミト 養子 明四、五、五、京都、富野定治郎
庶子 四郎 大一〇、八、八、生、生母、大阪、高木
庶子 千代 明四一、一、一、生、生母、大阪、高木

北林 貞道

正五位勳四等、醫學博士、名古屋
醫科大學教授、長野縣在籍
妻 桑代 明二九、五、五、長野、今村信夫長女
男 貞巳 明四四、一、一、生
女 詮代 大三、五、五、生

北原 阿智之助

衆議院議員(長野縣選出)、大正公
債總務局長、農林、長野縣在籍
妻 喜子 明三七、一〇、一〇、生、亡養子文雄妻、
長野、池上明妹

北原 常次郎

機械商
東京府在籍
妻 清太郎 明二六、一、一、生、長男清太郎妻、
明二八、一、一、生、東京、五十嵐富三郎二女
君は東京府人先代常次郎の長男にして慶應三年五月を

(大阪、東、北久太郎町四ノ一電船場九七二)
參照北出富三郎の項

北出 富三郎

北出時計店監査役、時計商
大阪府在籍
妻 ハル 明一八、二、二、大阪、高木孝二長女
男 平太郎 明三九、九、九、生
君は大坂府人北出作次郎の二男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十六年兄作次郎方より分れて一家を創立す時計商を營み現時北出時計店監査役たり家族は尙二男正次郎(大五、五、五)三男浩三(同一一、三、三)あり(大阪、南、三津寺町三三電南一五九一)
參照北出作次郎の項

北出 千畝

從五位、男爵、朝鮮銀行員
奈良縣華族
妻 カン 養母 文久元、六、六、法學博士春木一郎
妻 ちよ 明四二、一〇、一〇、生、大阪、土、狩野
三郎姉、大坂市立高女出身
當家は世々中宮寺宮人にして先代治房に至り家名を起す治房は大和國法隆寺の郷士北畠重重の四男にして維新の際國事に奔走し王家の爲に盡す所多し維新後京都府各縣裁判所長大坂府裁判所長等歴任し明治二十九年勳功に依り華族に列し男爵を授けり後貴族院議員に列す長男具雄其後を繼ぎ風を慶應義塾に學び内務司法各省に勤務し後實業界に入り北海道汽船會社を起して社長に擧げられ又衆議院議員に當選する事二回に及びり君は其弟秀雄の長男にして明治三十一年十二月を以て生れ伯父具雄の養子となり大正十四年家督を相続し翌十五年襲爵す現に朝鮮銀行に勤務す養姉房子(明二六、二、二)は大坂府人久保武三郎に嫁はる(慶應三、一〇、生)は岡山縣人東良三郎に嫁はる(奈良、生駒、法隆寺村)
參照久保武三郎、春木一郎父子爵板倉勝朝の項

北畠 安五郎

日本エナメル専務取締役兼技師
東京府在籍
妻 コヅエ 明一五、四、四、福井、吉井祐藏三女
男 富士雄 大六、八、八、生
女 登久子 明四一、二、二、生

北村 伊三郎

北攝信託監査役、酒造業
大阪府在籍
妻 トヨ 明一六、一、一、大阪、森田次郎姉
養子 貞次 明三三、一、一、生、二女フサ夫、大阪
女 フサ 明三三、一、一、生、養子貞次妻、大手
前高女出身
女 明四四、一、一、生

北村 伊之次

佐世保商工會議所常議員、佐世保
合同運送取締役、長崎縣在籍
妻 イセ 明四六、四、四、生、長崎、伊藤仁左衛門四女
男 シカ 明六、四、四、生、本多妻吉長女
妻 綱義 明四二、一、一、生
養子 岩雄 明三三、一、一、生、二女チサ夫、長崎
女 岩 明三三、一、一、生、養子岩雄妻
女 キヨ 明四五、四、四、生

北村 久吉

美濃合同銀行頭取、三木金物總
監査役、地球ライオンシャベル總
監査役、兵庫縣在籍
妻 ひさ 明四、四、四、生、兵庫、寺脇伊左衛門
女 明三四、七、七、生、兵庫、橋爪靖昌長
男 現戶主
養子 一明 明三六、七、七、生、養子一郎妻、兵庫
妻 長三 明三〇、七、七、生、養子つや夫、兵庫
北村久吉衛門六男
養子 つや 明二一、三、三、生、養子長三妻、兵庫
藤田藤次郎六女

北村 儀三郎

酒造業
大阪府在籍
妻 さた 明二一、七、七、生、兵庫、入江靜叔母
男 儀三郎 大五、九、九、生
女 明四五、五、五、生

北村 儀三郎

酒造業
大阪府在籍
妻 ハル 明三九、一、一、生、弟伊三郎長男
養子 元一郎 明三九、一、一、生、弟伊三郎長男
北村家は古くより大阪府下細河村に土着し代々農業を業とし先々代吉右衛門に至り酒造業を創む君は大坂府人北村吉次郎の長男にして明治四年四月を以て生れ先代吉右衛門の養子となり同十九年家督を相続す祖業を承けて酒造業を營む傍ら同十九年酒造銀行を創立して其頭取となり又前記各銀行會社の重役を兼ね養子富美(明三三、一、一、生、分家養弟富松長女)は大坂府人永田淳治郎二男女二に嫁し養姉シヨ(同九、一、一)同夫富松(同六、三、三、大阪、井阪楠太郎弟)は共に一女を伴ひ分家せり(大阪、豊能、細河村電池田一)

君は和歌山縣人北濱定八の四男にして明治二十一年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す現時日商會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙二女美知子(大八、八、八)三女萬里(同九、一、一)二男欣二(同二一、一、一)八生(四女節子(同三、九、九)あり妹ツヤ(明二五、六、六)は和歌山縣人北野順吉に嫁はる(兵庫、武庫、御影

君は和歌山縣人北濱定八の四男にして明治二十一年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す現時日商會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙二女美知子(大八、八、八)三女萬里(同九、一、一)二男欣二(同二一、一、一)八生(四女節子(同三、九、九)あり妹ツヤ(明二五、六、六)は和歌山縣人北野順吉に嫁はる(兵庫、武庫、御影

北濱 留松

日商會社取締役、太陽會社監査役
和歌山縣在籍
妻 孝 明二六、四、四、生、和歌山、水谷貞治
女 松子 大五、一〇、一〇、生

北濱 儀三郎

酒造業、北攝信託社長
山口銀行、大阪農工銀行各監査
役、酒造業、大阪府在籍
妻 ハル 明三九、一、一、生、弟伊三郎長男
養子 元一郎 明三九、一、一、生、弟伊三郎長男
北村家は古くより大阪府下細河村に土着し代々農業を業とし先々代吉右衛門に至り酒造業を創む君は大坂府人北村吉次郎の長男にして明治四年四月を以て生れ先代吉右衛門の養子となり同十九年家督を相続す祖業を承けて酒造業を營む傍ら同十九年酒造銀行を創立して其頭取となり又前記各銀行會社の重役を兼ね養子富美(明三三、一、一、生、分家養弟富松長女)は大坂府人永田淳治郎二男女二に嫁し養姉シヨ(同九、一、一)同夫富松(同六、三、三、大阪、井阪楠太郎弟)は共に一女を伴ひ分家せり(大阪、豊能、細河村電池田一)

北村 久吉

美濃合同銀行頭取、三木金物總
監査役、地球ライオンシャベル總
監査役、兵庫縣在籍
妻 ひさ 明四、四、四、生、兵庫、寺脇伊左衛門
女 明三四、七、七、生、兵庫、橋爪靖昌長
男 現戶主
養子 一明 明三六、七、七、生、養子一郎妻、兵庫
妻 長三 明三〇、七、七、生、養子つや夫、兵庫
北村久吉衛門六男
養子 つや 明二一、三、三、生、養子長三妻、兵庫
藤田藤次郎六女

君は兵庫縣人北村榮吉の長男にして嘉永四年十二月を以て生れ後家督を相續し大正十四年退隠す現時美濃合同銀行頭取の外前記各會社の重役にして兼て渡瀬銀行頭取三木商會社取締役たりし事あり家族は尙孫昭(六一四、二生、養子、明長女)同昌一(同一五、六生、同長男)同吉子(昭三、四生、同二女)あり養子み(明八、三生、靜岡、松本健次郎妹)は靜岡縣人藤田石太郎に同ける(同三、二、五生、靜岡、鈴木伊之介二女)は前記藤田石太郎弟朝治に同降す(同四、一、五生、兵庫、橋爪靖昌二女)は兵庫縣人服部正胤長男正に嫁せり(兵庫、美濃、三木町)

北村久五郎

森永製菓關西販賣部常務取締役、大阪三河屋菓子糖取務、菓子商、京都府在籍
男 久太郎 明三九、一、一、生、長男久太郎妻、京
女 初子 明四〇、三、生、長男久太郎妻、京
女 芳子 明四五、三、生、長男久太郎妻、京

北村研

極東工業代表社員、榮信社事務理事、土木建築請負業、東京府在籍
母 喜代 明三五、二、一、生、福岡、土、池田鬼
妻 喜代 明三五、二、一、生、福岡、土、池田鬼
君は長野縣人北村喜左衛門の三男にして明治二十三年七月を以て生れ同十八年家督を相續す同四十四年工手學校土木工學科を卒業し内務省土木局に入り内務技師を拜命せしも大正九年辭して極東工業合資會社を創立して土木建築請負業を營み現に同社代表社員にして傍ら榮信社事務理事たり家族は尙二女幸子(六一、一、七生)三女信子(同一三、一〇生)弟源治(明三三、五、五、明大出身、東京朝日新聞記者)あり(東京市外日黒町上日黒駒場七五三電番山一〇〇)

北村澤吉

正五位勳四等、文學博士、廣島文理大學教授、高知縣在籍
妻 益徳 明八、九、生、高知、窪田眞人母
君は高知縣人北村信助の長男にして長瀬兵馬の甥なり明治七年七月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學文科大學漢文學科を卒業し清國直隸省學校司編譯局編譯員に招聘せらるる大正三年廣島高等師範學校教授に任じ支那に出張を命ぜらるる現時廣島文理大學教授兼廣島高等師範學校教授にして昭和三年文學博士の學位を受く家族は尙弟可納(明二五、一〇生)同妻アサ(同一三、二、生、廣島、竹内市松二女)及其子女あり(廣島市國泰寺町九九)

北村四郎

百廿三銀行、滋賀合同貯蓄銀行各取務、滋賀縣在籍
妻 スナ 明一二、一〇、生、京都、平野豊吉
女 三枝 大三、四、生

北村重昌

精養軒總相談役、北村名代表社員、京都府在籍
君は京都府土族北村重禮の長男にして明治七年三月を以て生れ同三十二年家督を相續す現に明治學院に學び祖業を繼承して精養軒を經營し西洋料理業を營み後業務擴張の爲株式會社となし社長に擧げらるる現時同社相談役北村合名會社代表社員たり弟重三(明一五、一、生)同重六(同二〇、一、生)同重七(同二二、一、生)同重八(同二六、一、生)は各分家し養姉美津(同三七、七、生、東京、土、原六郎女)は三重縣土族長峰郎に嫁

君は大阪府人先代源助の二男にして明治十七年二月を以て生れ同三十九年家督を相續し後前名芳三郎を改む金銀業を營み大阪府多額納稅者たり兼に大阪府會議員に擧げられし事あり家族は尙六女ヌエ(六一、二、生)姉リエ(慶應二、五、生)同カメ(明八、一、二、生)の外弟源次郎(同二二、一、二、生)同妻ユキ(同二八、二、生、大阪、寺田清藏妹)及其四男一女あり弟萬治郎(同二〇、一、二、生)は大阪府人北村吉松の養子となれり(大阪、東淀川中津南通三ノ六〇電北二五二一〇) 參照 寺田清藏平田利吉の項

北村源助

大阪府多額納稅者、金銀業、大阪府在籍
妻 カ 明一六、八、生、大阪、吉村駒三郎
女 ヨシ 明四三、六、生
女 シン 明四四、一、生
女 ヒデ 大二、一、生

北村梧一

靜岡銀行、靜岡土地各監査役、靜岡縣在籍
母 孝吉 明四〇、三、生、現戶主
女 孝吉 明四二、四、生
女 孝吉 明四三、四、生

北村重敬

從五位勳五等、奈良縣女子師範學校長、高知縣土族
妻 清衛 明一四、九、生、養父龜次長女
男 重憲 明三三、四、生
男 龍夫 明三七、一、生
男 龍子 明四二、九、生、三男龍夫妻、愛媛
君は高知縣土族垣内美輝の長男にして明治七年九月を以て生れ先代清衛の次男となり同二十九年家督を相續す同三十五年東京高等師範學校を卒業し鳥取秋田神戶各縣師範學校校長師範學校校長を経て昭和六年奈良縣女子師範學校校長に補せらるる家族は尙孫重一郎(六一四、一、生、長男重憲長男)同英二郎(昭五、一、生、同二男)あり長女文子(明三三、六、生、鳥取高女出身)は高知縣人岡林秀太郎長男男馬に二女芳子(同三九、九、生、沖繩高女出身)は山形縣人理學士松川久司に嫁せり(奈良市包町五九)

北村七郎

三井物産總務、三井名譽員、佐賀縣土族
妻 ヒロ 明八、三、生、兵庫、淺田貞太郎妹
女 八重 明四四、二、生、跡見女學校出身
君は舊佐賀藩士百崎義隆の二男同俊雄の弟にして元治元年六月を以て生れ明治八年同藩士北村保六の養子となり家督を相續す同十八年東京高等商業學校を卒業し三井物産會社に入り累進して同社横濱支店長となり在職二十年擧げられて同社監査役に就任し現に同會社職託にして三井合名會社監査員を兼ね二女ハル(明三二、一、生、横濱高女出身)は三菱海上火災保險會社大阪支店長和歌山縣人谷井一三女壽(同三五、九、生、出身同上)は滋賀縣人見玉一造弟醫學博士桂三に四女榮(同三八、四、生、出身同上)は實業家山下龜三郎長男太郎に五女福(同四四、一、生、跡見女學校出身)は和歌山縣人迫間房太郎長男一男に六女都留(同四二、一、生、出身同上)は長崎縣人熊本太郎に嫁せり(東京市外入新井町新井宿一六〇八電大森一五七)

八栗登山鐵道總代表取締役、讀賣信託取締役、高松百十四銀行總監査役、香川縣土族
妻 ト 明一八、一、生、香川、植松伊三長
男 泰助 明四一、四、生
女 謙 明四三、一、生

北村苟吉

君は香川縣土族岩田能哲の弟にして文久三年十一月を以て生れ先代平三郎の養子となり明治十七年家督を相續す現時八栗登山鐵道會社代表取締役たる外前記銀行會社の重役たり兼に高松電氣鐵道會社事務取締役高松電燈片川電力講談電氣各會社取締役たりし事あり家族は尙四男恩吉(大四、一、一、生)あり長女章(明三七、一、生)は分家せり(高松、一番丁六)

北村耕造

從四位勳三等、宮内技師、内匠寮工務課長、東京府在籍
妻 明石 明二〇、八、生、千葉、淺野野妹、長徳高女出身
君は京都府人北村紘の長男にして明治十年九月を以て生れ同四十三年家督を相續す同三十六年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し清水組に入り本店及大阪横濱等に勤務す其間約一々年建築界視察の爲海外に出張したる事あり大正六年清水組を辭し財團法人理化學研究所建設工事主任技師として之を完成し同十年宮内技師に任ぜられ内匠寮建築係長を経て翌年より内匠寮工務課長たり長女キミ(明三九、一〇、生、雙葉高女出身、日本女大文學部出身)は宮城縣人門澤惣藏弟喜四郎に嫁せり(東京、小石川、雜司ヶ谷町八三電牛込五〇七) 參照 淺野野の項

北村佐一郎

能登産業銀行取締役、七尾商工銀行、七尾物産各監査役、石川縣在籍
妻 一男 明二二、一、生、石川、山口成美二
女 敏子 明四二、五、生

北村正治郎

北村商店取締役、村木商、大阪府在籍
妻 木美 明一六、四、生、先代正治郎長女
女 英子 明四一、二、生、大阪、鹿島爲次郎
君は大阪府人先代正治郎の孫にして明治三十六年六月を以て生れ大正十年家督を相續し前名勝郎を改め襲名す村木商を營み現に北村商店取締役たり家族は尙二男節夫(昭三、一、一、生)妹尚子(明四二、七、生)弟悅郎(同四四、三、生)あり妹千代子(同四四、九、生)は兵庫縣人田中勝雄に叔母愛子(同二五、七、生)は大阪府人北村梅七に嫁せり(大阪、西、西長堀南通三ノ二一電番町五三三) 參照 鹿島爲次郎の項

北村省三

南陽酒造取締役、大日本エーテ工業監査役、北村無限責任社員、大阪府在籍
妻 サリ 明三三、九、生、大阪、長岡彌太郎
男 啓三 大九、二、生

北村西望

正五位、帝國美術院會員、東京美術學校教授、彫刻家、東京府在籍
妻 ハル 明二五、三、生、長崎、土、板倉重勝姉
君は長崎縣人北村總族の弟にして明治十七年十二月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治四十年京都市立美術工藝學校彫刻家を卒業し更に同四十五年東京美術學校彫刻科を卒業す大正十年東京美術學校教授に任じ同十四年帝國美術院會員に擧げられ今日に至る家族は尙二男正五(大五、一、一、生)長女サリ(同八、

北村

北村保太郎

七七二

君は滋賀縣人中島藤三郎の弟にして明治十五年四月を以て生れ先代齊一郎の養子となり同四十四年家督を相續す...

北村 元吉 東京府在籍 妻 七、七生、東京、伊藤半兵衛五郎...

北村保太郎 從五位勳六等、商工書記官兼簡易保險局長、滋賀縣在籍...

北村 政敬 日本燃料、昭和土地建物各種取締役、熊本縣在籍...

北村 彌平 百廿三銀行總大津支店長 妻 七、七生、滋賀、川崎惣市...

北村 由藏 神奈川縣多額納税者、横浜商工會監査役、同濟藥、神奈川縣在籍...

北村 益 青森縣多額納税者、八戸水力電氣取締役、青森縣在籍...

北村 彌平 妻 七、七生、滋賀、川崎惣市...

北村 由藏 妻 七、七生、滋賀、川崎惣市...

北村 芳三郎 大阪府多額納税者、公益商會、臺灣製糖監査役、乾物商...

北本常三郎 正五位勳四等、判事、名古屋控訴院判事、大阪府在籍...

北脇市太郎 正五位勳四等、商工省工業試験所第六部長、東京府在籍...

北村 芳朗 南陽酒造監査役、北村實無限責任社員、大阪府在籍...

北山 喜一 鴻池銀行取締役 妻 七、七生、大分、江藤完治三郎...

北脇市太郎 妻 七、七生、滋賀、川崎惣市...

北村 敬吉 從四位勳四等、判事、輪島區裁判所判事、富山縣在籍...

北山 勇之助 常務無盡事務取締役 妻 七、七生、長野縣在籍...

吉川 重國 正五位、男爵 妻 七、七生、子爵加藤泰通姉...

北村 敬吉 從四位勳四等、判事、輪島區裁判所判事、富山縣在籍...

北山 勇之助 常務無盡事務取締役 妻 七、七生、長野縣在籍...

吉川 重國 正五位、男爵 妻 七、七生、子爵加藤泰通姉...

幸之部 北村、本、山、島、吉(川)

幸之部 北村、本、山、島、吉(川)

七七三

君は富山縣人北本栗の二男にして明治四年一月を以て生れ同十八年分れて一家を創立す...

北山 勇之助 常務無盡事務取締役 妻 七、七生、長野縣在籍...

吉川 重國 正五位、男爵 妻 七、七生、子爵加藤泰通姉...

幸之部 北村、本、山、島、吉(川)

幸之部 北村、本、山、島、吉(川)

七七三

君は滋賀縣人北村榮吉の三男にして明治十七年六月を以て生れ大正十二年兄榮太郎方より分れて一家を創立す...

北村 彌平 妻 七、七生、滋賀、川崎惣市...

北村 由藏 妻 七、七生、滋賀、川崎惣市...

キ之部 吉川、光、瀨、比

(※印は姻族關係)

同十五年京都帝國大學經濟學部卒業し昭和二年五月歐米に遊び同五年歸朝す家族は尙經吉(明四〇、一一一)...

吉川 祐輝

從三位勳二等、農學博士、帝國大學農學部農藝科教授、東京帝國大學農學部農藝科教授...

吉川 貞次郎

從五位勳五等、臺北州立基隆中學校長、新潟縣士族、丸山耕平妹...

吉川 元光

從四位、子爵、舊周防岩國藩、養子、明三〇、八生、養父經健長女...

吉光 寺秀作

栃木縣多額納稅者、栃木縣農工銀行、下野新聞各種取締役、農業...

吉瀨

福岡縣多額納稅者、浮羽水力電氣監査役、福岡縣在籍、明一七、一七、福岡、中川靜造二女...

吉比爲之助

吉比商賣代表社員、靴靴原料商、大阪府在籍、明二六、七生、長男爲三妻、大阪...

吉比藤二郎

皮革商、大阪府在籍、明一、二生、大阪、吉比爲之助...

吉良辰次郎

正四位勳三等、檢事、名古屋地方裁判所檢事正、大分縣士族、妻、明二、四生、東京、丹羽五十吉...

吉良 元夫

大分縣多額納稅者、直入銀行總取、酒造業、大分縣士族...

橋川喜三次

正五位勳五等、判事、廣島控訴院、部長、香川縣在籍、妻、明二、二生、宮城、菊地武夫妹...

橋川 司亮

從四位勳三等、商工技師、工務局、中央度量衡檢定所長、宮城縣士族、妻、明一六、一一生、宮城、瀬戸慶之...

橋川 光

從五位勳六等、判事、宮城控訴院、判事、宮城縣在籍、父、明元、八生、宮城、士、眞山藤吉...

衣笠 勇

日本車輛製造東京支店配人、大分縣在籍、妻、明三二、二生、東京、中村勝鹿妹...

キ之部 吉(比、良)橋、衣(笠)

(※印は姻族關係)

に同院副議長臨時法審議會委員に挙げられ現に選舉...

清瀨規矩雄

君は兵庫縣人清瀨五郎の二男にして明治二十一年九月...

清瀨次郎

君は兵庫縣人清瀨五郎の二男にして明治二十一年九月...

清田房次郎

君は大阪府人清田房次郎の長男にして明治二十四年九月...

清田泰靖

君は大阪府人清田房次郎の長男にして明治二十四年九月...

清瀧幸次郎

君は大阪府人清瀧辰吉の六男にして明治三十六年十二月...

清原貞雄

君は大分縣人清原貞雄の長男にして明治十八年一月...

清原宗太郎

君は島根縣人清原和助の長男にして安政二年五月を以て...

清元延壽大夫

君は東京府人清元延壽の長男にして明治三十四年八月を...

清野問太郎

君は宮城縣人清野玉治の長男にして明治八年八月を以て...

清野徳次郎

君は福岡縣人清野徳五郎の四男にして明治十三年七月...

清海復三郎

君は大阪府人清海復三郎の長男にして明治四年十一月を以て...

清野謙次

君は京都府人清野謙次郎の長男にして明治十八年八月を以て...

清野與平

君は新潟縣人清野文次郎の長男にして明治二十年四月を以て...

清野謙次

君は京都府人清野謙次郎の長男にして明治十八年八月を以て...

清野謙次

君は京都府人清野謙次郎の長男にして明治十八年八月を以て...

清野謙次

君は京都府人清野謙次郎の長男にして明治十八年八月を以て...

妻 千代 明三三、九生、和歌山、嵯榮助三男
 君は和歌山縣八代千代治の長男にして明治二十八年十一月を以て生れ昭和三年家督を相繼し前名隆一を改め名を千代と改め合資會社九鬼洋行代表社員にして縣下の多額納税者に列し直接國稅九百七十二圓を納む家族は尙二男隆雄(大元、一一生)長女元子(昭三、四生)妹洋子(大元、一一生)弟宗光(同四、一一生)あり姉アサ(明二六、二生)は分家し弟文一(同三二、四生)は和歌山縣入谷しげのに同賢二(同三五、一〇生)は同縣人越本傳松に各養子となり妹隆子(同四一、一一生)は同縣人中谷すき養子清一に嫁せり(和歌山市畑屋敷松ヶ枝町八)

九鬼 紋七 日本無線電信電話取締役、東洋紡績監査役、三重縣在籍
 妻 明三六、二生、靜岡、市河彦三三男、日本女大出身

九鬼 紋十郎 四日市商工會議所顧問、高山商店取締役、日本無線電信電話、三岐鐵道、熱海鐵道、土地各監査役、四日市肥料組合長、三重縣在籍
 妻 明一五、一一生、三重、小津與右衛門六女

妻 金平 明三五、六生、文學士、四日市米穀取引所理事、長男金平妻、三重縣山治長衛二女
 君は代々勢州四日市に住す君は九鬼紋七の叔父にして明治二十年十月を以て生れ先代紋十郎の養子となり十二年家督を相繼し前名金松を改め名を金平と改め四日市商工會議所顧問四日市肥料商組合長たり(四日市、桶ノ町三電五六)

九鬼 隆一 正二位勳一等、男爵、樞密顧問官
 妻 明一八、五生
 君は舊攝州三田藩士時貞の二男にして嘉永五年八月を以て生れ後丹後後部藩家老職九鬼隆周の養子となり慶應二年家督を相繼し川本光民米人フルベッキ福澤諭吉に學ぶ明治六年歐洲に留學し歸朝後文部大丞文部卿代理一等法制官兼文部少輔並米特命全權公使無任所公使圖書頭閣議院世界大博覽會副委員長兼第四各内閣勸業博覽會查査總長官中顧問官兼帝室博物館長等に歴任し明治二十三年國會議員に當り貴族院議員に勅選せられ後樞密顧問官に昇る又帝國教育會及忠勇顯章會の設立者にしてその會長となり全國實物取調委員長美術協會々頭等本邦美術界に貢献する所極めて多し同二十九年勳功に依り華族に列し男爵を授けり現時樞密顧問官兼定官の職に在り昭和六年八十歳の高齡に付御紋付銀並に酒肴料を賜はり宮中杖を差許さるる家族は尙孫隆一郎(大五、七生、七二男一造長男)同隆造(同六、九生、二男)あり四男周造(明二二、二生)は同妻縫子(同二八、六生、元商工大臣中橋徳五郎長女)を伴ひ分家し養子光(同六一、五生、兵庫、士、九鬼清妹)は故法學博士政尾藤吉の未亡人たり(東京市外大井町五四四五電大森九七四)

九條 道實 正二位勳一等、公爵、貴族院議員、掌典長、華族世襲財產會議議長、神社制度調査會委員、舊公卿家
 妻 明一八、五生
 君は代々勢州四日市に住す君は九鬼紋七の叔父にして明治二十年十月を以て生れ先代紋十郎の養子となり十二年家督を相繼し前名金松を改め名を金平と改め四日市商工會議所顧問四日市肥料商組合長たり(四日市、桶ノ町三電五六)

妻 惠子 明九、一一生、伯爵大谷光暢叔母
 明二八、八生、從四位、文學士
 明三四、七生、長男道秀妻、伯爵鳥津久範妹
 明二九、一〇生、子爵仙石政教長養子日澄女

九條 良政 正四位、男爵、九條公卿家分家
 妻 明一八、一一生、伯爵庭田重行從
 君は代々勢州四日市に住す君は九鬼紋七の叔父にして明治二十年十月を以て生れ先代紋十郎の養子となり十二年家督を相繼し前名金松を改め名を金平と改め四日市商工會議所顧問四日市肥料商組合長たり(四日市、桶ノ町三電五六)

九條 良致 正四位、男爵、九條公卿家分家
 君は故從一位大勳位公卿九條道孝の五男にして公卿九條道實男爵九條良致の兄なり明治十四年一月を以て生れ同三十五年分れ一家を創立す父道孝の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けり同三十六年學習院高等科を卒業す長女千代子(明三八、一〇生)は東京府人麻布瑞海に嫁せり(東京市外目黒町下目黒六五七) 參照九條道實、伯爵庭田重行、男爵九條良致、賀陽宮家侯爵佐竹義春侯爵中山輔親、伯爵大谷光熙、子爵大同忠實、子爵大久保忠實、男爵九條道隆、伯爵九條道隆の項

妻 蘭 安政四、一〇生、養祖父工五女
 明一三、三三、東京高工機械科出
 明一八、八生、長男不二郎妻、大分、高橋源治二女
 明一八、二生、從五位勳四等、海軍中佐
 明二七、九生、二男健次郎妻、福井、本城貞長女
 明二二、一一生、慶應義理財科出身、外務電信官
 明三四、四生、四男準人妻、大阪、萩尾茂妹

工藤 今治郎 横濱正金銀行監査人、東京府在籍
 妻 明二一、二生、岡山、阪本直代三女
 君は德島縣人工藤康太郎の四男にして明治七年四月を以て生れ同十四年分れ一家を創立す父に米國シヤトル大學を卒業し後横濱正金銀行に入りシヤトル支店及パタヤ支店支配人を經て現時同行監査人たり家族は尙二男正男(明四五、五生)三男多喜男(六一、三、五生)ありA一四七(東京、小石川、林町三三電小石川六三三三)

九里 博武 内外エレベーター總取締役、新潟縣在籍
 妻 安政五、一一生、岡山、士、井和昌昌妹
 明三〇、八生、細川忠雄四女
 君は新潟縣士族九里孫次郎の長男にして明治二十四年三月を以て生れ同四十二年家督を相繼す大正五年九州帝國大學工科大学機械工業科を卒業し現時内外エレベーター會社の取締役たり家族は尙弟博忠(明三〇、一〇生)あり姉は(同二八、一一生)は新潟縣人原義治に嫁せり(同二九、一一生)は岡山縣人林莊太郎に嫁し弟厚博(同二五、一一生)は東京府人宮塚とわに男一は同府人小本曾太郎に各養子となり(東京、四谷、須賀町二二)

妻 直 明三一、一〇生、早大出身
 明三九、一一生、長男直一妻、熊本、土、原田市妹、星山高女出身

工藤 延治郎 仙臺市參事會、仙臺商工會議所議員、官城林林總取締役、五城銀行監査役、土木建築請負業、官城縣在籍
 妻 明一七、二生、官城、上田彌吉長女
 明三八、一一生
 明四三、一一生、長男泰治郎妻、岩手、長澤喜代治妹
 明四五、三生

工藤 一記 從三位勳二等、宮中顧問官、大分縣在籍
 妻 明一〇、二生、熊本、士、春木惟信妹
 明三一、一〇生、早大出身
 明三九、一一生、長男直一妻、熊本、土、原田市妹、星山高女出身

妻 直 明三一、一〇生、早大出身
 明三九、一一生、長男直一妻、熊本、土、原田市妹、星山高女出身

工藤 延治郎 仙臺市參事會、仙臺商工會議所議員、官城林林總取締役、五城銀行監査役、土木建築請負業、官城縣在籍
 妻 明一七、二生、官城、上田彌吉長女
 明三八、一一生
 明四三、一一生、長男泰治郎妻、岩手、長澤喜代治妹
 明四五、三生

